[redacted]

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-2)

孔名 H24-D1-2

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが 周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード															
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは"-"で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・地層の細かい区種などを記事欄に記載	色調 ・粒形の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、間合の様相及び転記、含有物(有機質、異物など)を研質的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湿度、含水状態などを記載。	地盤構造 ・層理、葉理、級化など	鉱産出業における特記事項 ・コア欠如、コア検出など	地質名 ・岩種及びその区間深度を研質的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・種、岩品の含有率などを記載	色調 ・粒形の色調が見られる場合は記事欄に記載		岩理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統集の代表的な割れ目の見かけの傾斜や推定部の傾斜研究的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目がみられた、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物誤 ・石英脈、凍石脈、方解石脈等の種類・幅、色調、見かけの傾斜など ・鉱物量 ・鉱種	破砕帯 破砕区分は ・記号(HL1/HL2/HL3) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅(実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・鉱物 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・節状構造、複合構造、葉理構造、原岩状態など	最新活動面(認定した場合)	足跡の状況	鉱産出業における特記事項 ・コア欠如、コア検出など	記事を削除・変更・追記した理由
1	-	-	-	0.00	6.81	盛土			-	-	-																	
2	0.00	0.31	φmax3cm 黒色の細粒砂岩・頁岩片	0.00	0.31	盛 φ最大3cm 黒色の細粒砂岩・頁岩片からなる。			○	-	-																	・地質名に合わせて盛土の区間を追記した
3	0.31	2.84	砂礫 φmax3×6cmの角礫だが、大半は10mm以下の細粒～粗砂からなる。粒度不均一だが、細粒分はこく分量であり、ルーズである。大半は花崗閃緑岩あるいはアプライト起源であるが極に黒色の頁岩片片を含む。	0.31	2.84	砂礫 φ最大3×8cmの角礫だが、大半は径10mm以下の細粒～粗砂からなる。粒度不均一だが、細粒分はこく分量であり、ルーズである。大半は花崗閃緑岩あるいはアプライト起源であるが極に黒色の頁岩片片を含む。			○	-	-																	・地質名および区間深度を追記した ・色調の適正化(max⇒最大、ac⇒中間色、bc⇒暗色、不均一⇒不均質) ・粒形の修正(「径」の記載漏れ) ・コアに合わせて岩種名を変更した
4	2.84	5.81	シルト質砂礫 φmax15cm、大半が花崗閃緑岩だが、アプライト起源も見られる。シルト分を含み、上位層よりやや締りが良い。	2.84	5.81	シルト質砂礫 φ最大15cm、大半が花崗閃緑岩だが、アプライト起源も見られる。シルト分を含み、上位層よりやや締りが良い。	○	○	○	-	-																	・区間深度を追記した。 ・色調の適正化(max⇒最大、見る、やや)
5	3.3	3.45	粘質砂岩が認める。	3.30	3.45	泥質砂岩が認める。			○	-	-																	・色調の誤ー(1.30) ・コアに合わせて岩種を変更した
6	-	-	-	3.82	3.82	径4cmのモルタル片を含む			○	-	-																	・モルタル片は周囲と異なる状況であるため追記した
7	4.00	8.81	(色調欄)記載なし	4.00	8.81	(色調欄)2.5Y6/4に近い黄			-	-	-																	・コアに合わせて色調を追記した。
8	4.35	4.35	4.35m付近に炭質物片あり。	4.35	4.35	4.35m付近に径50mmの炭質物片あり。			○	-	-																	・炭質物の大きさを追記した
9	6.81	6.81	6.81mで層厚	-	-	-			-	-	-																	
10	-	-	φ2～10mmの石英と長石の斑晶からなる花崗閃岩(Gp)で、長石は白濁化している。	6.81	13.00	6.81～13.00m 花崗閃岩 φ2～10mmの石英と長石の斑晶からなる花崗閃岩(Gp)で、深度10.58m以浅の長石は白濁化している。11.12m以深は所々、アプライトに近い岩種を呈する。									なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・地質名及び区間深度を追記した ・長石の白濁化が見られる深度を追記した ・アプライトに近い岩種があることを示し、その深度を追記した
11	6.81	10.58	40～60°の割れ目と低密度割れ目が主体で、一部で、これらに斜交～直交する40～60°割れ目が分布する。割れ目の一部は風化で淡い色になっている。部分的に、軟質な白色粘土を挟むものもある。	6.81	10.58	40～60°の割れ目と低密度割れ目が主体で、一部で、これらに斜交～直交する40～60°割れ目が分布する。割れ目の一部は風化で淡い色になっている。部分的に、軟質な白色粘土を挟むものもある。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・色調の適正化(挟む、軟質⇒軟質)
12	7.05	7.63	コアの形状欄)Vランク	7.05	7.63	コアの形状欄)IVランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲より割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した
13	7.10	7.10	60°割れ目に幅0.5mm白色軟質粘土膜をはさむ。	7.10	7.10	60°割れ目に幅0.5mm白色軟質粘土膜を挟む。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・色調の適正化(挟む、軟質⇒軟質)
14	8.11	8.11	45°割れ目に 幅1～2mm白色軟質粘土膜はさむ。	8.11	8.11	45°割れ目に 幅1～2mm白色軟質粘土膜を挟む。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・色調の適正化(挟む、軟質⇒軟質)
15	8.11	8.32	コアの形状欄)Vランク	8.11	8.32	コアの形状欄)IVランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲より割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した
16	8.47	9.49	コアの形状欄)Vランク	8.47	9.49	コアの形状欄)IVランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲より割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した
17	-	-	-	8.66	8.66	傾斜65°の割れ目に沿って幅2～3mmが淡緑色化し、粘質的な雰囲気が認められる。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・緑色化や変質の品出は周囲と異なる状況であるため追記した
18	8.89	8.89	55°のせん断性割れ目は幅1mmの白色軟質粘土を伴う。また、粘土上盤の幅2mmの砂はマンガン鉱染で黒色化	8.89	8.89	55°のせん断性割れ目は幅1mmは下の不連続な白色軟質粘土を伴う。また、粘土上盤の幅2mmの砂はマンガン鉱染で黒色化する。割れ目間隔の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上端側が急すしと上盤とは離ないため上端に変更した ・粘土の連続性及び周辺岩盤の状況について追記した ・せん断を示唆する化状は見られない ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断してせん断性(注)を削除した ・色調の適正化(軟質⇒軟質)
19	9.06	9.06	幅1mm石英脈が52°で母岩に密着して分布。長石を切断。	9.06	9.06	幅1mm石英脈が52°で母岩に密着して分布。石英脈が核膜するが、長石は石英脈を挟んでズレていない。長石を切断。粘土の挟在は見られない。石英脈の周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。									なし	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈が核膜するが、長石は石英脈を挟んでズレていないことを追記。「長石を切断」を削除した ・粘土の挟在の有無及び石英脈の周辺岩盤の状況について追記した
20	-	-	-	9.54	9.81	傾斜40°と60°の割れ目に挟まれた区間にマンガン汚染が鉱染に見られる。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した
21	-	-	-	9.77	9.77	傾斜50°の割れ目に弱化汚染が見られる。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・褐色化の著しい弱化汚染は周囲と異なる状況であるため追記した
22	9.80	10.00	コアの形状欄)Vランク	9.80	10.00	コアの形状欄)IVランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位より割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した
23	10.21	10.21	45°幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して分布。φ5mm石英脈品を切断している。	10.21	10.21	45°幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して分布。石英脈が核膜する石英脈品は石英脈を挟んでズレていない。φ5mm石英脈品を切断している。粘土の挟在は見られない。石英脈の周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。									なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈が核膜する石英脈品は石英脈を挟んでズレていないことを追記。「石英脈品を切断している」を削除した ・粘土の挟在の有無及び石英脈の周辺岩盤の状況について追記した
24	10.58	11.53	50～55°割れ目が10～30mm間隔では5平行に分布。上位側の10.58～10.92mは風化で褐色化が強いが、劣化は伴わない。いずれも連続的でシャープな割れ目のせん断割れ目様を形成している。	10.58	11.53	50～55°割れ目が10～30mm間隔では5平行に分布。上位側の10.58～10.92mは風化で褐色化が強いが、劣化は伴わない。いずれも連続的でシャープな割れ目のせん断割れ目様集約である。一部、割れ目が石英脈品を挟んでいるが、石英にズレは認められない。割れ目には鉄皮物が認められず、割れ目間隔の岩盤には原岩組織が認められる。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・色調の適正化(ほぼ、得う、割れ目様⇒割れ目密集部) ・文章の適正化(形成している⇒である) ・深度の記載があるため、「上位側」は削除した ・割れ目及びその間辺の状況について追記した ・追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断」を削除した
25	11.53	11.67	全体が粘土化し、著しく軟化するが、せん断面は分布しない。	11.53	11.67	全体が粘土化し、著しく軟質化するが、せん断面は分布しない。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・色調の適正化(軟質化)
26	11.67	11.95	10°上40°割れ目が細かく分布し、φ20～30mmに粉片化	11.67	11.95	傾斜10°上40°の割れ目が細かく分布し、φ20～30mmに粉片化する。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・色調の適正化(傾斜) ・文章の適正化(「の」の追加)
27	11.95	12.13	割れ目そいに幅1mmの軟弱な白色粘土膜が多くなり、全体に軟化著しい	11.95	12.13	割れ目沿いに幅1mmの軟質な淡白色粘土膜が多くなり、全体に軟質化著しい									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・色調の適正化(沿い、軟弱⇒軟質、軟質化) ・コアに合わせて色調を変更した
28	12.13	12.38	12.30m区間、割れ目が複雑するが、これ以外は風化で割れ目は消滅している。	~~12.13~~	~~12.38~~	~~12.30m区間、割れ目が複雑するが、これ以外は風化で割れ目は消滅している。~~									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・該当区間の割れ目は弱化しているだけの記載を削除した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-2)

孔名 :H24-D1-2

○ :記載有り　なし :該当区間に対象物はあるが、層圏の状況と同様であるため記載していないもの　－ :該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード													
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは"-"で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、地の種類及び粒型、含有物(有機質、異質など)を研質的に記載。 ・その他 層圏と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて 硬軟、海決度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	郷進作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など		地質名 ・岩種及びその区間深度を研質的に記載。 ・層圏と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、岩品の種類・種、製品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を研質的に記載。 ・層圏と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	破砕帯 破砕度区分 ・岩種(Hc,Hb,Hi) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破状構造、複合直線構造、葉理構造、明目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	郷進作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	記事を削除・変更・追記した理由
29	12.38	12.97	破砕帯(D-1断層)	12.38	12.97	破砕部(D-1断層)																				・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・断層名は評価であるため削除した
30	12.38	12.86	Hi 上端60°下端45°で、両者とも直線的でシャープに連続、岩組織は残留するが、割れ目は粘ねんど消滅した著しく軟質化した0.10～20mmの岩片からなる。岩片間に20～70°×幅0.5～1mmの軟質な灰色～灰黄色(2.5Y 7/2)粘土膜が分布する破状(粘土)。全体的な色調はにぶい褐(7.5YR 6/3)を呈する。厚さ480mm(コア長)で、12.65mに交差する割れ目を切る(変位量2mm右ズレ)せん断面が分布する。	12.38	12.86	Hi 粘土混じり硬状破砕部 上端60°下端45°で、両者とも直線的でシャープに連続、硬質、岩組織は残留するが、割れ目は粘ねんど消滅した著しく軟質化した0.10～20mmの岩片からなる。岩片間に20～70°×幅0.5～1mmの軟質な灰色～灰黄色(2.5Y 7/2)粘土膜が分布する粘土混じり硬状部。全体的な色調はにぶい褐色(7.5YR 6/3)を呈する。含まれる細粒部は断所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。厚さ480mm(コア長)に12.65mに交差する割れ目を切る(変位量2mm右ズレ)せん断面が分布する。																										・硬土状であるため破砕部内物質の名称を変更した ・岩組織は残留しないため削除した ・転記の修正(「色」の記載漏れ) ・表現の適正化(「軟質化、軟質→軟質」) ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・落とし(コア長を記載したもの)は、重複ではないため削除した ・12.65m付近にある割れ目にズレは認められないため記載を削除した
31	12.86	12.87	Hc-1(主せん断面・12.86m) 上端・下端とも45°で、直線的でシャープに連続する。0.1mm程度の石英粒を少量含むやや硬った灰白～灰黄色(2.5Y 6/2)粘土で、厚さ5mm	12.86	12.87	Hc-1 粘土状破砕部 (最新活動面・12.86m) (最も直線的な面) 上端・下端とも45°で、直線的でシャープに連続する。0.1mm程度の石英粒を少量含むやや硬質な灰白～灰黄色(2.5Y 6/2)粘土で、厚さ5mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。							○	○	○	○				○	○							・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の性状を追記した ・表現の適正化(やや、緩末った→硬質) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
32	12.87	12.91	Hb 上端45°、下端45°で上端は直線的でシャープに、下端は不明瞭に連続。0.5～20mmの粘土化～砂状化岩片と、岩片間の粘土膜からなりやや緩った灰～にぶい黄褐(10YR 7/3)の硬質粘土である。厚さ35mm	12.87	-	Hb 粘土状硬状部 上端45°で直線的でシャープに連続。下端45°で不明瞭に連続、硬質で、0.5～20mmの岩片主体で、岩片間の粘土膜からなりやや緩った灰～にぶい黄褐色を呈する。幅7.5cm。 含まれる細粒部は断所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。																								・どちらも硬土状であるため粘土混じり硬状部として一括した ・両者の特徴を主として記載した ・幅、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・変更した ・著しく軟質化した岩片割れ目は粘土膜に分布が少量であるため、多くを占める性状を記載した
33	12.91	12.97	Hi 上端45°、下端45°で両者とも不明瞭に連続、著しく軟化した接状の岩片と、45°幅0.5～1mmの軟弱な粘土膜を少量含み粘土混じり岩片状を呈する。にぶい黄褐色(10YR 7/4)で厚さ40mm。	-	12.97																							
34	12.87	12.91	(破砕度区分欄)Hb	12.87	12.91	(破砕度区分欄)Hi																				・上記の記載に合わせて破砕度区分を変更した
35	12.97	15.24	上位に比べ割れ目が少なく硬さ「D」からなる。割れ目沿いに風化が進み砂状化を呈する部分を含む。粘土膜の分布は少ない。割れ目は40～60°が主体である。	12.97	16.24	上位に比べ割れ目が少なく硬さ「D」からなる。割れ目沿いに風化が進み砂状化を呈する部分を含む。粘土膜の分布は少ない。割れ目は40～60°が主体である。																						・転記の修正(15.24→16.24) ・表現の適正化(沿い)
36	13.15	13.46	10～20°の割れ目が多く、割れ目ぞいは風化で砂状化～小岩片化し、一部でマンガン鉱染を受ける。	13.15	13.46	10～20°の割れ目が多く、割れ目沿いは風化で砂状化～小岩片化し、一部でマンガン鉱染を受ける。																				・表現の適正化(沿い)
37	13.73	13.77	55～65°の割れ目が2～10mm間隔で平行に直線、かつシャープに分布、粘土化はないが、全体的に軟化する。	13.73	13.77	55～65°の割れ目が2～10mm間隔で平行に直線、かつシャープに分布。粘土化はないが、全体的に軟質化する。幅1mm以下の区間色粘土を挟む。																				・挟在する粘土について追記した ・表現の適正化(軟質化)
38	-	-	-	13.82	13.89	不規則な形状で褐色化している。																				・褐色化の不規則な形状は層圏と異なる状況であるため追記した
39	14.20	14.20	50°幅1mmで石英脈が毎岩に密集して連続する。	-	-	-																				
40	14.30	14.30	45°割れ目を中心に、幅5～10mmが緑色化するが粘土化などの劣化は伴なわない。	14.32	14.32	45°割れ目沿いで、幅5～10mmが緑色化するが粘土化などの劣化は伴ない。																				・コアに合わせて深度を変更した ・表現の適正化(伴う) ・文章の適正化(中心に→沿って)
41	14.87	14.97	14.87m･62°と、14.97m･62°はせん断性割れ目で、前者は交差する60°割れ目を切り、後者は長石脈品を切断している。	14.87	14.97	14.87m･60°と14.97m･62°のせん断性割れ目は、前者は交差する60°割れ目を止めている。切り、後者は長石脈品を横断しており、切断しているが、両者ともズレは認められない。割れ目には挟在物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																				・14.87mの割れ目と交差する60°の割れ目は、この割れ目で止まっているが、対になる割れ目が分有せず、切っているかの判断ができないため「切る」を「止めている」に変更した。 ・14.97mの割れ目が長石脈品を切断するとしているが、割れ目は長石を横断しているがズレはないため「切断」を削除した。 ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・上記の理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した
42	15.10	15.28	15.10m･65°と15.28m･55°はせん断性割れ目で、前者は交差する割れ目を切り、後者は石英脈品を切っている。	15.10	15.28	15.10m･65°と15.28m･55°のせん断性割れ目は、前者は長石脈品を横断しており、ズレてはいない。切り、後者は石英脈品を横断しており、ズレてはいない。また、横断する割れ目が見られる。切っている。両者とも挟在物は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																				・15.10mの割れ目は横断する長石脈品をずらしていないため「切る」を削除した ・15.28mの割れ目は横断する石英脈品をずらしておらず、横断する割れ目が見られるため「切る」を削除した ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・上記の理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した
43	15.47	-	15.47m以深では、割れ目ぞいに幅1～2mmで風化により褐色化する。	15.47	-	15.47m以深では、割れ目沿いに幅1～2mmで風化により褐色化する。																				・表現の適正化(沿い)
44	16.12	16.12	60°割れ目ぞいに微小な金属鉱物が晶出している。	16.12	16.12	60°割れ目沿いに微小な金属鉱物が晶出している。																				・表現の適正化(沿い)
45	16.24	17.66	コアは全体に著しく軟化する「E」であるが、17.46m以深では岩組織と割れ目は残留している。割れ目の一部は、マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	16.24	17.66	コアは全体に著しく軟質化する「E」であるが、17.46m以深では原岩組織と割れ目は残留している。割れ目の一部は、マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。																				・表現の適正化(軟質化、原岩組織)
46	16.54	16.54	50°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている。割れ目は挟在物はないが、1mm程度風化で褐色に砂状化。	16.54	16.54	50°のせん断性割れ目と交差する割れ目は止まっている。切っている。割れ目は挟在物はないが、幅1mm程度風化で褐色に砂状化。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																				・50°の割れ目は交差する割れ目を止めているが、対になる割れ目が分有せず、切っているかの判断ができないため「切っている」を「止まっている」に変更した ・割れ目及び割れ目周辺の状況について追記した ・追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性切っている」を削除した ・転記の修正(「幅」の記載漏れ)
47	16.12	17.46	(コアの形状欄)Vランク	16.12	17.46	(コアの形状欄)Vランク																				・層圏より割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した
48	17.05	17.30	φ50～100mmと従来より大型化した長石脈品が多い、長石は全て粘土化で白濁化する。	17.05	17.30	φ5～10mmのφ従来より大型化した長石脈品が多い、長石は全て粘土化で白濁化する。																				・転記の修正(50～100mm→5～10mm) ・比較対象が曖昧であるため「従来より」を削除した
49	17.46	17.66	φ10～20mm前後の細片化。割れ目状況は不明	17.46	17.66	φ10～20mm前後に細片化。割れ目状況は不明																				・表現の適正化(「の」→「に」) ・割れ目のどのような状況を指しているか不明であるため削除した
50	17.56	19.78	割れ目は少なく、30～60°の割れ目が主体で、割れ目の一部は薄く砂状化したり、粘土膜を挟むものがある。	17.66	19.78	割れ目は少なく、30～60°の割れ目が主体で、割れ目の一部は薄く砂状化したり、粘土膜を挟むものがある。																				・表現の適正化(挟む)
51	-	-	-	18.10	18.10	傾斜40°の割れ目に幅1～2mmのマンガンを挟む。																				・マンガンは層圏と異なる状況であるため追記した
52	18.21	18.21	58°割れ目は、割れ目ぞいに～2mm風化で褐色化し砂状を呈する。割れ目周辺に微細な雲母が晶出している。	18.21	18.21	58°割れ目は、割れ目沿いに幅1～2mm風化で褐色化し砂状を呈する。割れ目周辺に微細な白雲母が晶出している。																				・鉱物名を適正化した(雲母→白雲母) ・表現の適正化(沿い) ・転記の修正(「幅」の記載漏れ)
53	-	-	-	18.41	18.41	傾斜50°、幅1mmの白色粘土を挟む。																				・白色粘土は層圏と異なる状況であるため追記した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-2)

孔名 H24-D1-2

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード												記事を削除・変更・追記した理由
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記載に記載	土質の特徴 ・粒度構成、他の種類及び形状、含有物、有機質、見分などを網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、風化度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	標準作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と比況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、既晶の種類・径、既晶の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記載に記載	流理構造	熱現場の跡礼目 ・岩系統の代表的な跡礼目の見かけの傾斜や該在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な跡礼目があれば、跡礼目の間隔、開口幅、跡礼目面の色調、跡礼目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物測 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	捕獲岩 ・岩種	破砕帯 破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hd) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・続状構造、斑合面構造、累層構造、明目状態など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	標準作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	
54	18.77	18.77	55°はせん断性跡礼目で、幅2mmの軟弱な灰黄色粘土脈をはさむ。	18.77	18.77	55°のせん断性跡礼目は、幅2mmの連続性に乏しい軟質な灰黄色粘土脈を挟む。55°跡礼目でとまっている跡礼目と類似する跡礼目が見られる。跡礼目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な跡礼目も存在しない。							○												・表現の適正化(挟む、軟弱⇒軟質) ・粘土の連続性について追記した ・跡礼目及び周辺の状況を追記した ・追記した理由からせん断性跡礼目ではないと判断して「せん断性」を削除した
55	18.97	18.97	58°跡礼目ぞいマンガン鉱染で黒褐色する。	18.97	18.97	58°跡礼目沿いマンガン鉱染で黒褐色化する。																			・表現の適正化(沿い) ・脈記の修正(「化」の記載漏れ)
56	－	－	－	19.01	19.21	風化残留部でやや硬質。							－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・風化残留部は周囲と異なる状況であるため追記した
57	19.01	19.21	(コアの硬さ欄)Dランク	19.01	19.21	(コアの硬さ欄)Cランク							－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した
58	19.30	19.30	62°跡礼目ぞい幅5～15mmは砂状化～細片状化する。数千の粘土も含む。	19.23	19.30	19.23m及び19.30m の62°跡礼目沿い幅2～15mmは砂状化～細片状化する。数千の粘土も含む。この間、マンガン汚染により黒色化している。							○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・19.23mの跡礼目も含めたため幅の最小値を変更した ・マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した ・表現の適正化(沿い)
59	19.57	19.78	(コアの形状欄)Ⅳランク	19.57	19.78	(コアの形状欄)Ⅴランク							－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲より跡礼目が多いためコアの形状のランクをⅤランクに変更した
60	－	－	－	19.57	19.61	傾斜50°、幅2.3mm程度で軟質化。下端側は幅10mmでマンガン汚染が顕著。							－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・幅広のマンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した
61	19.78	19.87	破砕帯Hb(主せん断面・19.87m) 上端53°、下端63°で開角とも直線的でシャープに連続する。δ1～3mmの石英粒とδ1mm前後の粘土化したGa岩片を含む硬質粘土でやや緩ってい る。浅黄橙色(10YR 8/4)を呈し、厚さは10～50mmと場所により指幅する。	19.78	19.87	破砕部Hb(最新活動面・19.82m) 上端53°、下端63°で開角とも直線的でシャープに連続する。δ1～3mmの石英粒とδ5mm前後の粘土化したGa岩片を含む粘土混じり準状態でやや硬質。浅黄橙色(10YR 8/4)を呈し、厚さは10～50mmと場所により指幅する。 19.82mには幅1mm以下の区白色粘土を直線的に挟在する。 含まれる細粒部は明目状に分布、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。							○	○											・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・最も最新的であるための最新活動面の深度を変更した ・検土体であるための破砕部内物質の名称、破砕度区分を変更した ・19.82mの粘土について追記した ・表現の適正化(やや、緩って→硬質) ・「場所により」は不要な表現であるための削除した ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
62	19.78	19.87	(跡礼目状形状)cランク (コアの形状欄)Ⅳランク (コアの硬さ欄)Dランク (変質欄)2ランク (破砕度区分欄)Hb	19.78	19.87	(跡礼目状形状)aランク (コアの形状欄)Ⅴランク (コアの硬さ欄)Cランク (変質欄)4ランク (破砕度区分欄)Hb							－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアは極めて軟質で、変質を強く受けており、跡礼目が非常に多く、跡礼目として認識できないものも存在するため、跡礼目状形、コアの形状、コアの硬さ、変質のランクを変更した。 ・上記の変更に合わせて破砕度区分を変更した
63	19.87	19.96	(コアの形状欄)Ⅳランク	19.87	19.96	(コアの形状欄)Ⅴランク							－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲より跡礼目が多いためコアの形状のランクをⅤランクに変更した
64	19.87	20.55	60°跡礼目がほぼ平行に分布し、一部に幅1～2mmの軟質粘土脈をはさむ。	19.87	20.59	60°跡礼目が僅ほ平行に分布し、一部に幅1～2mmの軟質白色粘土脈を挟む。							○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアに合わせて下端深度を変更した(20.59mは硬軟のランクの境界)。 ・粘土の色調を追記した ・表現の適正化(ほぼ、挟む、軟弱⇒軟質)
65	20.55	21.50	直上位と同様、60°跡礼目からなるが、直上位よりも硬質で、硬さ「C」となる。	20.59	21.50	直上位と同様、60°の跡礼目が分布するが、直上位よりもやや硬質で、硬さ「C」となる。							○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアに合わせて下端深度を変更した(20.59mは硬軟のランクの境界) ・コアに合わせて硬軟を変更した ・文章の適正化(跡礼目からなる⇒跡礼目が分布する)
66	20.55	21.50	(岩級区分欄)CM	20.59	21.50	(岩級区分欄)CL							－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアの形状のランクの変更に伴い、岩級を変更した ・20.59～21.01mはCM級であるが、上記の変更で、区間長が50cm未満になるためCL級に倣のた
67	20.55	20.56	(コアの硬さ欄)D／Cランク境界 (コアの形状欄)Ⅳ／Ⅱランク境界 (風化欄)δ／τランク境界	20.59	20.59	(コアの硬さ欄)D／Cランク境界 (コアの形状欄)Ⅳ／Ⅱランク境界 (風化欄)δ／τランク境界							－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアに合わせて各ランクの境界を変更した
68	20.74	20.77	30°幅30mmで既晶のない輝晶質部が分布、上下端はδ変質している。このずれ上部側にはφ10mmの大型の長石既晶が分布する。	20.74	20.77	30°幅30mmで既晶のない輝晶質部が分布、上下端はδ変質している。このずれ上部側にはφ10mmの大型のカリ長石の既晶が分布する。							－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した ・大型の長石(カリ長石)であるための変更した ・脈記の修正(の)
69	20.90	20.90	65°跡礼目ぞいに極細な雲母が晶出している。粘土脈は伴なわない。	20.90	20.90	65°跡礼目沿いに極細な白雲母が晶出している。粘土脈は伴わない。周囲はわずかに緑色化している。							○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・鉱物名を適正化した(雲母⇒白雲母) ・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した ・表現の適正化(沿い、伴う)
70	21.01	21.36	(コアの形状欄)Ⅱランク	21.01	21.36	(コアの形状欄)Ⅳランク							－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲より跡礼目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した
71	21.05	21.30	80～90°の低密着跡礼目2～3本が分布し、跡礼目ぞいにマンガン鉱染うける。	21.05	21.30	80～90°の低密着跡礼目2～3本が分布し、跡礼目沿いにマンガン鉱染受ける。							○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(沿い、受ける)
72	－	－	－	21.12	－	21.12m以深は既晶が少ないアプライト様を呈する。							－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・21.12m以深の地質について追記した
73	21.50	23.18	上記よりもやや跡礼目多くなるが(コア形状Ⅳ)、硬さ「C」と硬質。 跡礼目は特定方向のものは分布しないが、一部で跡礼目ぞいに配化するものもある。	21.50	23.18	上位よりもやや跡礼目多くなるが(コア形状Ⅳ)、硬さ「C」とやや硬質。 跡礼目は特定方向のものは分布しないが、一部で跡礼目沿いに軟質化するものもある。マンガン鉱染を伴う跡礼目が多い。							－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアに合わせて硬軟を変更した ・マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した ・表現の適正化(上記⇒上位、やや、沿い、軟質化)
74	21.50	21.50	50°跡礼目に幅2～3mm軟弱粘土脈はさむ。	21.50	21.50	50°跡礼目に幅2～3mm軟質黄褐色粘土脈を挟む。							○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・粘土の色調を追記した ・表現の適正化(挟む、軟弱⇒軟質)
75	21.89	22.10	21.89m～15°～22.10m～50°の跡礼目で囲まれた部分は粘土化し、劣化している。	21.89	22.10	21.89m～15°～22.10m～50°の跡礼目で囲まれた部分は粘土化し、劣化している。							○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・跡礼目であることを追記した
76	－	－	－	21.50	21.55	21.50～21.55m間は局所的に粘土化し、灰黄色粘土が網目状に分布する。一部でマンガンを伴う。							－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・網目状の粘土化やマンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した
77	－	－	－	22.10	22.39	アプライトを挟む。上端60°、下端20°で花崗斑岩との境界は明瞭。							－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・アプライトの挟在について追記した
78	22.17	22.17	60°跡礼目に幅1～2mmの灰黄色軟質粘土脈はさむ。	22.17	22.17	60°跡礼目に幅1～2mmの灰黄色軟質粘土脈を挟む。							○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(挟む、軟弱⇒軟質)
79	22.10	22.20	(コアの形状欄)Ⅳランク	22.10	22.20	(コアの形状欄)Ⅴランク							－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲より跡礼目が多いためコアの形状のランクをⅤランクに変更した
80	22.10	22.39	(地質名欄)Gp	22.10	22.39	(地質名欄)Ap							－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアに合わせて地質名欄を変更した
81	22.20	22.65	(跡礼目状形状)cランク	22.20	22.65	(跡礼目状形状)bランク							－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・検在物を伴う跡礼目が少ないため跡礼目状態のランクをbランクに変更した
82	22.21	22.21	50°のせん断性跡礼目で、交差する跡礼目を切っている(変位量25mm左ズレ)	22.21	22.21	50°のせん断性跡礼目で、交差する跡礼目を止めている。切っている(変位量25mm左ズレ) 跡礼目には検在物が認められず、跡礼目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な跡礼目も存在しない。							○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・変位の基準とした跡礼目は対になるものではないため変位量を削除した。 ・跡礼目及び周辺の状況について追記した ・追記した理由や上記の理由からせん断性跡礼目ではないと判断してせん断性、切っている)を削除した
83	22.32	22.32	40°、幅20mmの長石漸集部が母岩に密着して分布。	22.32	22.32	20°、幅20mmのカリ長石漸集部が母岩に密着して分布。							－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアに合わせて傾斜を変更した ・カリ長石であるための追記した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-2)

孔名 H24-D1-2

○ 記載有り　なし, 該当区間に対象物はあるが, 周囲の状況と問題あるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード															記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)												破砕等										
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか? ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成, 種の種類及び形状, 含有物 ・有機質, 炭質などを網羅的に記載。 ・その他 周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば, 必要に応じて, 硬軟, 海況度, 含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理, 葉理, 級化など	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如, コア破砕など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は, 既品の種類・徒 既品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流規構造	熱電等の割れ目 ・既系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統集の代表的な割れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば, 割れ目の間隔, 開口幅, 割れ目面の色調, 割れ目面のすべり(スリッケンサイド, 条線, 見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈, 沸石脈, 方解石脈等の種類, 幅, 色調, 見かけの傾斜など	被覆岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号(H/L/M/H)!) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし, 基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・頻状構造, 複合面構造, 葉理構造, 明目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如, コア破砕など	
84	22.89	22.89	85°はせん断性割れ目で, 交差する割れ目を切っている(変位量15mm左ズレ)	22.89	22.89	85°のせん断性割れ目で, 交差する割れ目を止めている。切っている(変位量10mm左ズレ) 割れ目には挟在物が認められず, 割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ, 系統的な割れ目も存在しない。																						・変位の基準とした割れ目は対になるものではないため変位量を削除した ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・追記した理由や上記の理由からせん断性割れ目ではないと判断してせん断性, 切っている)を削除した
85	22.90	23.00	(コアの形状欄)Ⅳランク (コアの硬さ欄)Cランク	22.90	23.00	(コアの形状欄)Ⅴランク (コアの硬さ欄)Dランク																						・コアはやや軟質で周囲より割れ目が多いため, コアの硬さ, コアの形状の各ランクを変更した
86	23.18	24.04	割れ目の少なく硬質。 40～60°割れ目主体で, 割れ目の一部に幅1～2mmの軟質な白色～灰黄色粘土脈をはさむ。	23.18	24.04	割れ目が少なくやや硬質。 40～60°割れ目主体で, 割れ目の一部に幅1～2mmの軟質な白色～灰黄色粘土脈を挟む。																						・脈記の修正(の⇒が) ・コアに合わせて硬軟を変更した ・表現の適正化(挟む, 軟弱⇒軟質)
87	23.68	23.72	23.68m, 23.72m, 50°で各々, 幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布。	-	-	-																						
88	23.80	24.04	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CM	23.80	24.04	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CL																						・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した。 ・上記の変更に伴い, 岩級を変更した
89	23.88	23.88	73°, 幅4～5mmの長石脈が母岩に密着して分布。	23.88	23.88	73°, 幅4～5mmのカリ長石と石英の凝集部が脈状に分布, 伸張している。																						・脈状の鉱物について種類を追記した ・鉱物脈は母岩が伸張していることを追記した
90	24.04	25.22	上位よりもやや軟化し, 硬さ(D)で, 20～60°割れ目が主体, 軟化するため, 割れ目の一部は細片化する。	24.04	25.22	上位よりもやや軟質化し, 硬さ(D)で, 20～60°割れ目が主体, 軟化するため, 割れ目の一部は細片化する。 割れ目に白色粘土やマンガンを挟むことが多い。																						・表現の適正化(やや, 軟質化) ・白色粘土やマンガンの挟在は周囲と異なる状況であるため追記した
91	24.04	24.30	(コアの形状欄)Ⅳランク	24.04	24.30	(コアの形状欄)Ⅴランク																						・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをⅤランクに変更した
92	-	-	-	24.04	24.04	傾斜35°の割れ目に沿って幅5～10mmが緑色化している。																						・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した
93	-	-	-	24.57	24.60	傾斜60°の割れ目に沿ってマンガン汚染が顕著に見られる。																						・顕著なマンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した
94	24.80	24.82	60°, 幅15mmは粘土化でやや軟化。	24.80	24.82	60°, 幅15mmは白色粘土化でやや軟質化。 下端側は緑色化が見られる。																						・粘土化の色調を追記した ・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した ・表現の適正化(やや, 軟質化)
95	24.80	25.22	(コアの形状欄)Ⅳランク	24.80	25.22	(コアの形状欄)Ⅴランク																						・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをⅤランクに変更した。
96	25.22	26.84	一部の割れ目では, 割れ目そいに薄く軟化するが, 概ねやや硬質で割れ目は少ない。 一部の割れ目には, 幅0.5～1mmの白色・軟質粘土脈をはさむが粘土脈の分布は少ない。	25.22	26.84	一部の割れ目では, 割れ目沿いに薄く軟質化するが, 概ねやや硬質で割れ目は少ない。 一部の割れ目には, 幅0.5～1mmの白色・軟質粘土脈を挟むが粘土脈の分布は少ない。																						・コアに合わせて硬軟を変更した ・表現の適正化(沿い, 軟質化, 挟む, 軟弱⇒軟質) ・文章の適正化(一部の割れ目と粘土脈の分布が少ないは同じ意味のため削除した)
97	26.67	26.67	55°のせん断性割れ目で, 交差する割れ目を切っている(変位量12mm左ズレ)。幅1mmの白色・軟弱粘土脈をはさむ。	〃 26.67	〃 26.67	55°のせん断性割れ目は, 交差する割れ目を止めている場合と挟在する場合がある。切っている(変位量10mm左ズレ)。幅1mmの連続性に乏しい白色・軟質粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ, 系統的な割れ目も存在しない。																						・55°の割れ目で止まっているものと積極するものがあるため「変位量」を削除した ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・追記した理由や上記の理由からせん断性割れ目ではないと判断してせん断性, 切っている)を削除した ・表現の適正化(挟む, 軟弱⇒軟質)
98	26.84	26.94	(岩級区分欄)CM	26.84	26.94	(岩級区分欄)CL																						・コアの硬軟, コアの形状のランクの変更に伴い, 岩級を変更した
99	26.84	27.38	(コアの形状欄)Ⅳランク (コアの硬さ欄)Cランク	26.84	27.38	(コアの形状欄)Ⅴランク (コアの硬さ欄)Dランク																						・周囲より割れ目が多く, やや軟質であるためコアの形状, コアの硬さの各ランクを変更した
100	26.84	28.73	互いに交差する40～60°割れ目が主体, 上位に比べ割れ目が多くなる。割れ目の面は薄く風化するが, 硬質(硬さ(C))。	26.84	28.73	互いに交差する40～60°割れ目が主体, 上位に比べ割れ目が多くなる。割れ目の面は薄く風化する。 やや硬質(硬さ(C))～やや軟質(硬さ(D))																						・コアに合わせて硬軟を変更した ・表現の適正化(薄く⇒弱く)
101	27.30	27.32	上下端60°の割れ目に幅0.5～1mmの軟弱な炭質色粘土を伴い, 全体が粘土化進む。	27.30	27.32	上下端60°の割れ目に幅0.5～1mmの軟質な炭質色粘土を伴い, 全体が粘土化進む。																						・表現の適正化(伴う, 軟弱⇒軟質)
102	27.38	27.80	(割れ目状態欄)cランク	27.38	27.80	(割れ目状態欄)bランク																						・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
103	27.85	28.00	(コアの形状欄)Ⅳランク	27.85	28.00	(コアの形状欄)Ⅴランク																						・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをⅤランクに変更した
104	28.42	28.46	上端65°, 下端55°割れ目に囲まれて0.3mm前後に細粒化する。下端には幅2mmの風化で暗色化し, 脆弱な粘土脈を伴っている。また, 下端側の割れ目は幅5mm前後で淡緑色化し, 微細な雲母片が晶出する。	28.42	28.46	上端65°, 下端55°割れ目に囲まれて0.5mm前後に細粒化する。下端には幅2mmの風化で暗色化し, 脆弱な粘土脈を伴っている。また, 下端側の割れ目は幅5mm前後で淡緑色化し, 微細な白雲母片が晶出する。																						・鉱物名を適正化した(雲母⇒白雲母) ・表現の適正化(脆弱⇒軟質)
105	28.50	28.73	(コアの形状欄)Ⅳランク	28.50	28.73	(コアの形状欄)Ⅴランク																						・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをⅤランクに変更した
106	28.73	30.20	割れ目が少なく硬質, 40～60°割れ目が主体で風化は弱く, 割れ目の面がごく薄く緑色化する程度で砂状部は0.05m～60°割れ目に厚さ2mmで分布するのみ。 粘土脈や粘土化部は分布しない。	28.73	30.20	割れ目が少なくやや硬質, 40～60°割れ目が主体で, 風化は弱く, 割れ目の面がごく薄く緑色化する程度で砂状部は0.05m～60°割れ目に厚さ2mmで分布するのみ。 緑色化が見られる。粘土脈や粘土化部は分布しない。																						・コアに合わせて硬軟を変更した ・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した
107	28.98	29.21	(コアの形状欄)Ⅲランク	28.98	29.21	(コアの形状欄)Ⅳランク																						・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した。
108	29.21	30.20	(割れ目状態欄)cランク	29.21	30.20	(割れ目状態欄)bランク																						・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
109	-	-	-	29.32	29.33	幅2～5mmのカリ長石, 石英が脈状に分布する。傾斜30°, 幅10～12mm。																						・カリ長石, 石英の脈状部は周囲と異なる状況であるため追記した
110	29.50	29.50	付近の55°と50°割れ目そいはマンガン鉱染で3 2mm～3mm程度の既点状に高色化する。	29.45	29.45	付近の55°と50°割れ目沿いはマンガン鉱染で3 2mm～3mm程度の既点状に高色化する。																						・コアに合わせて深度を変更した ・表現の適正化(沿い)
111	30.20	31.44	上位と同じ硬さであり(硬さC), 割れ目は多くなる(Ⅳ)。互いに交差する20～60°割れ目からなる。粘土化部は分布せず, 粘土脈は少ない。割れ目の一部は砂状化する。	30.20	31.44	上位と同じ硬さであり(硬さC), 割れ目は多くなる(Ⅳ)。互いに交差する20～60°割れ目が分布する。粘土化部は分布せず, 粘土脈は少ない。割れ目の一部は砂状化する。																						・文章の適正化(割れ目からなる⇒割れ目が分布する)
112	30.20	33.00	(風化欄)aランク	30.20	33.00	(風化欄)bランク																						・上位と同様の風化の程度のため風化のランクをbランクに変更した
113	30.68	30.75	上端・下端とも60°, 幅2mmの軟質なにぶい黄褐色粘土を伴う割れ目に囲まれて, 割れ目に幅1mmの軟弱な白色粘土をはさんでいる。	30.68	30.75	上端・下端とも60°, 幅2mmの軟質なにぶい黄褐色粘土を伴う割れ目に囲まれて, 割れ目に幅1mmの軟質な白色粘土を挟んでいる。 30.68mの割れ目沿いに緑色化している。																						・表現の適正化(挟む, 軟弱⇒軟質) ・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した
114	30.76	31.00	(コアの形状欄)Ⅳランク	30.76	31.00	(コアの形状欄)Ⅲランク																						・周囲より割れ目が少ないためコアの形状のランクをⅢランクに変更した
115	31.22	31.40	(コアの形状欄)Ⅳランク	31.22	31.40	(コアの形状欄)Ⅲランク																						・周囲より割れ目が少ないためコアの形状のランクをⅢランクに変更した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-2)

孔名 H24-D1-2

○ 記載有り　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード													記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)											破砕帯								
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、唐の種類及び形状、含有物 ・有機質、長径などを網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海水度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	都道作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、既品の種類・性、雑品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や検在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・熱種類 ・岩種	破砕度区分 ・記号(Hc1Hc5) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・頁状構造、複合面構造、変形構造、明目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	都道作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	
116	30.76	31.40	(岩級区分欄)CL	30.76	31.40	(岩級区分欄)CM								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の変更に伴い、岩級を変更した
117	31.40	31.44	(コアの形状欄)Vランク	31.40	31.44	(コアの形状欄)Vランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位より割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した。
118	31.41	31.44	軟化し、マンガン鉱染も受けるが粘土化・粘土脈等は分布せず、劣化は認められない。	31.41	31.44	軟質化し、マンガン鉱染も受けるが粘土化・粘土脈等は分布せず、劣化は認められない。								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(軟質化)
119	31.44	31.46	破砕帯Hc-1(主せん断面・31.46m) 上端・下端35°で、周囲とも連続的でシャープに連続。φ1～2mm石英粒を含む軟弱な粘土で、灰白色～にぶい黄橙(10YR 7/3)～灰赤色(2.5YR 6/2)を呈する。厚さ10～12mm。	31.44	31.46	破砕部 Hc-1（最新活動面・31.46m） 上端・下端35°で、周囲とも連続的でシャープに連続。φ1～2mm石英粒を含む軟質な粘土で、灰白色～にぶい黄橙(10YR 7/3)～灰赤色(2.5YR 6/2)を呈する。厚さ10～12mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。								-	-	○	○	○	○	-	○	-	-	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・表現の適正化(軟質→軟質) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
120	31.46	33.00	割れ目は少ないが、低密着割れ目が概ね10～30mm程度で分布するため、コア形状をVと評価した。低密着割れ目は30～60°が主体で、割れ目や低密着割れ目には幅0.5～2mmの軟弱な白色～灰赤(2.5YR 6/2)粘土脈を伴うものがある。	31.46	33.00	割れ目が多くない、低密着割れ目が概ね10～30mm程度で分布するためコア形状をV-δ評価した。低密着割れ目は30～60°が主体で、割れ目や低密着割れ目には幅0.5～2mmの軟質な白色～灰赤色(2.5YR 6/2)粘土脈を伴うものがある。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脚記の修正(少ない⇒多くなる、「色」の記載漏れ) ・粘土を挟在するのは低密着割れ目であるため「割れ目」を削除した ・表現の適正化(軟弱⇒軟質) ・文章の適正化(コア形状Vは記事欄以外から読み取れるため削除した)
121	31.70	31.80	幅10mm程度・30°のマンガン鉱染による黒褐色斑状部が分布する。	-	-	-								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
122	-	-	-	32.05	32.11	32.05～32.11m間はマンガン汚染が顕著に見られる。								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した

H24－D1－4

[redacted]

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名 H24-D1-4

○: 記載有り　なし: 該当区間に対象物はあるが、層圏の状況と同様であるため記載していないもの　－: 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード														
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく記述されているか？	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 通加要素した情報が正しく記述されているか？	地質名 ・薄層や細かい互層など記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形状、含有物(有機質、異質など)を網羅的に記載。 ・その他、層圏と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、礫形、充填、含水状態などを記載。	堆積構造 (層理、葉理、級化など	郷盛作業における各時記事項 ・コア欠如、コア破損など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・層圏と異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、現品ビン種類・性、現品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流程構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や傾走角の情報を網羅的に記載。 ・層圏と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のアペリス、リッケンサイド、条線、見かけの変位センス等を記載	鉱物測 ・石英脈、漸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・熱隆岩 ・岩種	破砕帯 破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hg) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の根拠資 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅(実測できる幅分)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・破砕部の連続性・連続性 ・隙間幅幅が認められる場合は主体に高質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・鏡状構造、複合面構造、葉理構造、鏡目状貼キモなど	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	郷盛作業における各時記事項 ・コア欠如、コア破損など	記事を削除・変更・適記した理由
1	0	2.94	埋戻し土	0.00	7.62	盛土			-	-	-																・表現の統一(盛土、0.00) ・人工堆積物を盛土として一括して下端深度を変更した
2	0	0.32	礫 0.5～30mmの黒色砕石からなる。	0.00	0.32	礫 0.5～30mmの黒色砕石からなる。			○	-	-																・砕石の岩種名に変更した ・表現の統一(0.00)
3	0.00	0.32	(地質名欄:埋戻し土)	0.00	0.32	(地質名欄:盛土)			-	-	-																・表現の統一(盛土)
4	0.32	2.94	埋涙り粗砂 0.3～40mmのGo Ao亜角～亜円礫を含む粗砂でルーズである。0.3～10mmの砕石片を多く含む。	0.32	2.94	埋涙じり粗砂 0.3～40mmのGo Ao亜角～亜円礫を含む粗砂でルーズである。0.3～10mmの砕石を多く含む。			○	-	-															・表現の適正化(涙じり) ・砕石の岩種名に変更した
5	0.32	2.94	(地質名欄:埋涙り粗砂:埋戻し土)	0.32	2.94	(地質名欄:埋涙じり粗砂:盛土)			-	-	-																・表現の適正化(涙じり) ・表現の統一(盛土)
6	2.94	5.60	(地質名欄:砂礫:改良土)	2.94	5.60	(地質名欄:砂礫:盛土)			-	-	-																・表現の統一(盛土)
7	2.94	5.60	砂礫 0.5～130mmのGo Ao亜角～亜円礫で硬質なものが主体。一部モザイク状(礫を含む)。基質は中砂～粗砂でやや締っている。礫含有率は40～50%であるが、5.15m以深では0.10m前後の小型の礫が主体。	2.94	5.60	砂礫 0.5～120mmのGo Ao亜角～亜円礫で硬質なものが主体。一部モザイク状(礫を含む)。基質は中砂～粗砂でやや締っている。礫含有率は40～50%であるが、5.15m以深では0.10m前後の小型の礫が主体。			○	-	-														・表現の適正化(やや)
8	4.96	5.12	φ10～60mmのコンクリート片を含む。	-	-	-			-	-	○																
9	5.60	7.62	埋涙り粗砂 上位深度よりも礫量が減少したもの。上位よりルーズとなる。礫は0.5～10mmの小型で半クサリ礫のGo主体で、一部クサリ礫となる。	5.60	7.62	埋涙じり粗砂 上位深度よりも礫量が減少する。上位よりルーズとなる。礫は0.5～10mmの小型で半クサリ礫のGo主体で、一部クサリ礫となる。			○	-	-															・表現の適正化(涙じり、する、クサリ化する⇒クサリ礫となる) ・コアに合わせて深度を変更した ・文章の適正化(礫径の数値の記載があるため、「小型」を削除した)
10	5.60	7.62	(地質名欄:埋涙り粗砂:改良土)	5.60	7.62	(地質名欄:埋涙じり粗砂:盛土)			-	-	-																・表現の適正化(涙じり) ・表現の統一(盛土)
11	6.00	6.45	φ10mm前後主体に礫量が多い。礫含有率は50%程度で上下に比べ締っている。礫はφ10mm以下の小型でも硬いものが多い。	6.00	6.45	φ10mm前後主体になり、礫量が多い。礫含有率は50%程度で上下に比べ締っている。礫はφ10mm以下の小型でも硬いものが多い。			○	-	-															・振記の修正(主体に礫量⇒主体になり、礫量) ・文章の適正化(径10mm前後と記載しているため、径10mm以下の記載を削除した。礫径の数値の記載があるため「小型」を削除した)
12	6.36	6.42	明赤灰色(2.5YR 7/1)の軟質な粘土が不規則なアメーバ状に分布する。流部ないし、漂部への連続性はない。	6.36	6.42	明赤灰色(2.5YR 7/1)の軟質な粘土が不規則な形でアメーバ状に分布する。流部ないし、漂部への連続性はない。			○	-	-															・表現の適正化(アメーバ状⇒形、軟質⇒軟質)
13	7.00	-	7.00m以深では風化したキクサリ礫が多くなる。	-	-	-			○	-	-																
14	7.40	-	7.40m以深は礫量少ないルーズな花崗岩質の粗砂の基盤岩	7.40	-	7.40m以深は礫量少ないルーズな花崗岩質の粗砂の基盤岩			○	-	-																・7.62m以深が基盤岩であるため削除した
15	7.62	7.62	7.62mで風音	-	-	-			-	-	-																
16	-	-	φ2～8mm石英と長石を微量とする花崗閃岩(Go)	7.62	17.89	花崗閃岩 φ2～10mm石英と長石の微量を5～15%程度含む。							-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・地質名及び区間深度を適記した ・石英の微量の発生び微量の含有率をコアに合わせて適記・修正した
17	7.62	9.26	岩組織と割れ目は残留している。変質粘土化部や粘土無は殆んどが少ない。割れ目は35～45°が主体で、一部でこれらに斜交～直交する60～80°割れ目も分布する。風化により、割れ目ずれに数mm程度砂状化～小細片化することもある。	7.62	9.26	原岩組織と割れ目は残留している。変質粘土化部や粘土無は殆んどが少ない。割れ目は35～45°が主体で、一部でこれらに斜交～直交する60～80°割れ目も分布する。風化により、割れ目ずれに数mm程度砂状化～小細片化することもある。							-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(原岩組織、涙い)
18	8.78	8.91	60°割れ目 8.91m×45°割れ目に軟弱な白色粘土が幅0.5mmで断続的に付着している。	8.78	8.91	60°割れ目 8.91m×45°割れ目に軟質な白色粘土が幅0.5mmで断続的に付着している。							-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・振記の修正(軟弱⇒軟質、断面⇒断続)
19	-	-	-	9.05	9.20	褐色化が顕著に見られる。							-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・褐色化は周圏と異なる状況であるため適記した
20	9.17	9.20	50°の清潔しかかった割れ目ずれに風化により褐色化する(7.5YR 5/6明褐色)が、砂状～粘土状などの劣化はない。	9.17	9.20	50°の清潔しかかった割れ目ずれに風化により褐色化する(7.5YR 5/6明褐色)が、砂状～粘土状などの劣化はない。							-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(沿い)
21	-	-	-	9.21	9.43	褐色変質が顕著である。							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・褐色変質は周圏と異なる状況であるため適記した
22	9.26	9.38	全体に風化と変質で軟質化著しくなる。この3m区間の上端側9.26～9.32mと下端側9.36～9.38mでは、0.5～10mmの緑灰色化した岩片主体で、岩片間には径1mm程度の軟質な、上端側ほどにぶい褐色、下端側は灰白色の粘土質が分布し、粘土質ほど岩片状を呈する。区間中央部の9.32～9.34mでは、更に粘土化が進み、0.3～10mmの緑灰色化した粘土化岩片状を多く含む。上・下端45°、幅30mmの硬質粘土である。	9.26	9.38	全体に風化と変質で軟質化著しくなる。この3m区間の上端側9.26～9.32mと下端側9.36～9.38mでは、0.5～10mmの緑灰色化した岩片主体で、岩片間には径1mm程度の軟質な、上端側ほどにぶい褐色、下端側は灰白色の粘土質が分布し、粘土質ほど岩片状を呈する。区間中央部の9.32～9.34mでは、更に粘土化が進み、0.3～10mmの緑灰色化した粘土化岩片状を多く含む。上・下端45°、幅30mmの硬質粘土である。							-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の統一(軟弱⇒軟質) ・文章の適正化(区間深度の記載があるため上端側、下端側、区間中央部を削除した)
23	9.34	9.36	上端45°、下端50°で直線的に連続する幅5～10mmの軟質はにぶい赤褐色を呈する粘土層である。	9.34	9.36	上端45°、下端50°で直線的に連続する幅5～10mmの軟質はにぶい赤褐色を呈する粘土層である。							-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の統一(軟弱⇒軟質)
24	-	-	-	9.43	9.50	褐色化が顕著に見られる。							-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・褐色化は周圏と異なる状況であるため適記した
25	9.38	10.76	硬さ(ハ)主体で、一部で風化で著しく軟化した硬さ「B」も含む。一部で清潔しかかっている割れ目が分布するが、大半は割れ目として残留する。30～70°割れ目が主体で、一部でこれらに斜交～直交する30～40°割れ目も分布するが、後者の割れ目は前者の割れ目で切られることが多い。10.00m以深では、前者の割れ目(30～70°)にC幅1～2mmの軟質な灰白色(10YR 8/1)～淡黄色(2.5Y 7/3)の粘土層としてはさまれることが多い。	9.38	10.76	全体にやや軟質で、一部は風化で著しく軟質化している。一部で清潔しかかっている割れ目が分布するが、大半は割れ目として残留する。30～70°割れ目が主体で、一部でこれらに斜交～直交する30～40°割れ目も分布するが、後者の割れ目は前者の割れ目で止まっている場合が多い。10.00m以深では、前者の割れ目(30～70°)にC幅1～2mmの軟質な灰白色(10YR 8/1)～淡黄色(2.5Y 7/3)の粘土層としてはさまれることが多い。一部にはマンガンを伴む。いずれの割れ目面沿の部分には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。							-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・30～70°の割れ目が50～40°の割れ目で止まっている部分もあり、前者が一方的に後者を切っているわけではないことが「切られる」を「止まっている」に変更した ・表現の適正化(軟質化、軟弱⇒軟質、検む) ・マンガンの検むは周圏と異なる状況であるため適記した ・割れ目間隔の状況について適記した ・文章の適正化(径20.3m⇒全体にやや軟質、径とは著しく軟質化と同義であるため削除した)
26	10.00	11.22	(変質欄:コランク	10.00	11.22	(変質欄:ｺランク							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・下位と同様な変質の程度であるため変質のランクをコランクに変更した。
27	10.76	10.88	上端25°、下端30°で、上端は直線的でシャープに、下端は波打って連続する。30～35°割れ目の一部に幅0.5～1mmの軟質～一部硬質な区黄色(2.5Y 7/2)粘土層を挟む粘土質(1)岩片状で、色調はにぶい橙色(7.5YR 7/3)を呈する。厚さ110mm。	10.76	10.88	上端35°、下端30°で、上端は直線的でシャープに、下端は波打って連続する。30～35°割れ目の一部に幅0.5～1mmの軟質～～部硬質な区黄色(2.5Y 7/2)粘土層を挟む粘土質(1)岩片状で、色調はにぶい橙色(7.5YR 7/3)を呈する。厚さ110mm。							-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(軟弱⇒軟質、検む、涙じり) ・表現の統一(固結⇒硬質)
28	10.76	10.91	(割れ目状態欄:dランク	10.76	10.91	(割れ目状態欄:eランク							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目が認識できるため割れ目状態のランクをeランクに変更した
29	10.76	11.22	(岩級区分欄:D	10.76	11.22	(岩級区分欄:CL							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・区間長が50cm未満のため、層圏の岩級に含めた

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名：H24-D1-4

○：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが，周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															
	記事			記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)														破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・対比情点(礫の種類及び形態，含有物(有機質，異質など)を明確的に記載。 ・その他，周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば，必要に応じて，硬軟，亀裂度，含水状態などを記載。	堆積構造 (層理，葉理，級化など	掘進作業における特記事項 -コア欠如，コア破損など	地質名 ・岩種及びその区間深度を明確的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は，岩品の種類・程，岩品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	物理等の別れ目 ・同系統の別れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な別れ目の見かけの傾斜や該当物の種類を明確的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な別れ目があれば，別れ目の間隔，開口幅，別れ目面の色調，別れ目面のすべり(スリッケンサイド，条線，見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈，沸石脈，方解石脈等の種類，幅，色調，見かけの傾斜など ・被覆岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hj) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・相対的の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・結状構造，複合面構造，葉理構造，網目状結合など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	掘進作業における特記事項 -コア欠如，コア破損など	記事を削除・変更・追記した理由
30	10.88	10.91	上端30°，下端35°で，周者とも連続的でシャープに連続する。0.5～10mmの風化軟化～粘土化岩片を含む軟質粘土であるが，従来のHc比に比べ，粘土量は少ない。基下位部の幅3mmは柱状で硬化している。また，マンガン鉱染により，一部は黒褐色化する。全体の色調は，にぶい橙(7.5YR 7/3)～黒褐色(10YR 3/1)である。厚さ20～30mm。	10.88	10.91	上端30°，下端35°で，周者とも連続的でシャープに連続する。0.5～10mmの風化軟質化～粘土化岩片を含む粘土質状部である。硬質粘土やあるが，従来のHc比に比べ，粘土量は少ない。基下位部下端部の幅3mmは現在で硬質化している。また，マンガン鉱染により，一部は黒褐色化する。全体の色調は，にぶい橙(7.5YR 7/3)～黒褐色(10YR 3/1)である。厚さ20～30mm。																									
31	10.91	10.93	破砕帯 Hc-2(D-1破砕帯)(主せん断面-10.93m) 上端35°，下端38°で，周者とも直線的でシャープに連続する。0.1～2mmの石英粒と粘土化したφ3～5mmの岩片を若干含む軟弱な淡黄橙色(10YR 8/4)の粘土で，基下位には石英粒，岩片を含まない幅1～2mmのやや緩った灰白色(10YR 7/1)粘土が連続する。全体の色調は，淡黄橙色(10YR 8/4)で厚さ15～18mm	10.91	10.93	破砕部 Hc-2(D-1破砕帯)(長断活動面-10.93m) 上端35°，下端38°で，周者とも直線的でシャープに連続する。0.1～2mmの石英粒と粘土化したφ3～5mmの岩片を若干含む軟質な淡黄橙色(10YR 8/4)の検証し粘土で，基下位には石英粒，岩片を含まない幅1～2mmの軟質な灰白色(10YR 7/1)粘土が連続する。全体の色調は，淡黄橙色(10YR 8/4)で厚さ15～18mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。																									
32	10.93	11.22	粘土化部や粘土脈は知んど分析しないが，全体が軟質化している。	10.93	11.22	粘土化部や粘土脈は知んど分析しないが，全体が軟質化している。																					
33	11.22	11.65	50～70°，別れ目主体で，これに斜交～直交する20～50°，別れ目が一部に分布する。粘土脈は知んどはさまないが，別れ目ぞいに砂状化する。	11.22	11.65	50～70°，別れ目主体で，これに斜交～直交する20～50°，別れ目が一部に分布する。粘土脈は知んど挟まないが，別れ目沿いに砂状化する。																						
34	11.65	17.89	上位より別れ目が少なくなる。コア形状IVである。硬さの岩片が主体であるが，別れ目ぞいの一部に風化で軟化した硬さがが分布している。	11.65	17.89	上位より別れ目が少なくなる。コア形状IV主体である。 硬さの岩片が主体であるが，別れ目沿いの一部に風化で軟質化した硬さがが分布している。																						
35	11.90	12.16	(コアの形状欄)Ⅳランク	11.90	12.16	(コアの形状欄)Ⅴランク																					
36	12.00	13.00	(最大コア長欄)9	12.00	13.00	(最大コア長欄)7																					
37	15.27	－	15.27m以深では，別れ目は風化し褐色化するが，別れ目周辺の砂状化は認められなくなる。粘土化部は分布せず，別れ目にはさまれる粘土脈の分布も少ない。別れ目ぞいの一部は薄くマンガン鉱染をうける。	15.27	－	15.27m以深では，別れ目は風化し褐色化するが，別れ目周辺の砂状化は認められなくなる。粘土化部は分布せず，別れ目に挟まれる粘土脈の分布も少ない。別れ目沿いの一部は薄くマンガン鉱染を受ける。																						
38	12.60	12.60	45°，幅1～2mmの石英脈，境界ぞいに別れ目化し，別れ目を含む厚さ10～20mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。	12.60	12.60	45°，幅1～2mmの石英脈，境界沿いに別れ目化し，別れ目とその厚さ10～20mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。																						
39	13.00	13.38	風化で砂状化が進む部分が多い。	－	－	－																					
40	13.00	14.00	(最大コア長欄)4	13.00	14.00	(最大コア長欄)6																					
41	13.45	16.80	φ5～10mmの粘土化し白濁化した長石斑晶を多く含む。	－	－	－																					
42	14.00	15.00	(最大コア長欄)9	14.00	15.00	(最大コア長欄)7																					
43	15.00	15.21	(コアの形状欄)Ⅳランク	15.00	15.21	(コアの形状欄)Ⅴランク																					
44	15.27	17.89	(風化欄)ｱランク	15.27	17.89	(風化欄)ｴランク																					
45	15.50	15.50	55°，別れ目に幅1～10mmと指結する軟質な灰黄色(2.5Y 7/2)粘土脈がはさまれる。	15.50	15.50	55°，別れ目に幅1～10mmと指結する軟質な灰黄色(2.5Y 7/2)粘土脈が挟まれる。																						
46	16.00	17.10	複数の75～85°で浅曲しながら連続する別れ目が分布する。一部で幅1mmの軟弱な灰黄色粘土を挟さむ。	16.00	17.10	複数の75～85°で浅曲しながら連続する別れ目が分布する。一部で幅1mmの軟質な灰黄色粘土を挟む。																						
47	16.84	17.10	(コアの形状欄)Ⅳランク	16.84	17.10	(コアの形状欄)Ⅴランク						○	○														
48	17.03	17.03	45°，幅2mmの石英脈が母岩に密着して連続。	－	－	－																					
49	17.32	17.32	60°，幅2mm軟質～半固結状の明灰オリーブ色(2.5GY 7/1)の粘土脈が分布。微細な雲母を伴う。	17.32	17.32	60°，幅2mm軟質～やや硬質な明灰オリーブ色(2.5GY 7/1)の粘土脈が分布。微細な白雲母を伴う。別れ目に沿って褐色化が顕著に見られる。																						
50	17.82	17.82	40°，幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続。	－	－	－																					
51	17.89	18.44	花崗岩(Gr) 上端50°で幅3～4mm石英脈と φ2～5mmの淡緑色鉱物(緑泥石?)を伴って，平均φ3～5mmの石英，長石，φ1～3mmの黒雲母の各斑晶をもつ黒雲母花崗岩が分布する。長石斑晶はφ10mm程度と大型化するものも多み，全体が等粒状組織をなす。下端境界はGgに連移している。上端境界付近でわずかに変質粘土化するが，これ以外での粘土化はない。ただし，別れ目や岩組織は残留するが，風化で著しく軟化している。	17.89	18.44	黒雲母花崗岩(Gr) 上端50°で幅3～4mm石英脈と φ2～5mmの淡緑色鉱物(緑泥石?)を伴って，平均φ3～5mmの石英，長石，φ1～3mmの黒雲母の各斑晶をもつ黒雲母花崗岩が分布する。長石斑晶はφ10mm程度と大型化するものも多み，全体が等粒状組織をなす。下端境界はGgに連移している。上端境界付近でわずかに変質粘土化するが，これ以外での粘土化はない。ただし，別れ目や岩組織は残留するが，風化で著しく軟質化している。																								
52	17.89	18.44	(別れ目状態欄)dランク (コアの形状欄)Ⅳランク (コアの硬さ欄)Eランク (岩級区分欄)D	17.89	18.44	(別れ目状態欄)eランク (コアの形状欄)Ⅴランク (コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)CL																						
53	－	－	－	18.44	70.00	花崗閃岩 19.11～19.33m，28.43～30.40m付近，55.84～57.00m付近など岩品の量が少なく，アプライト様を呈する部分を挟む。																					
54	18.44	21.00	30～50°，別れ目が主体で，一部で，これらに60～70°，別れ目が斜交～直交する。別れ目の一部に幅1～2mmの軟弱な粘土脈をはさむが，頻度は低い。	18.44	21.00	30～50°，別れ目が主体で，一部で，これらに60～70°，別れ目が斜交～直交する。別れ目の一部に幅1～2mmの軟質な白色粘土脈を挟むが，頻度は低い。																						
55	18.90	19.10	(コアの形状欄)Ⅳランク	18.90	19.10	(コアの形状欄)Ⅴランク																					
56	19.08	19.08	50°，別れ目は幅2～5mmの固結粘土脈をはさみ，上盤側約30mmがマンガン鉱染うける。	19.08	19.08	50°，別れ目は幅2～3mmの硬質な褐色粘土脈を挟み，上端側幅約30mmがマンガン鉱染受ける。																					
57	18.90	19.75	幅1～5mm，30～50°で母岩に密着して石英脈が複数分布，脈周辺に粘土化は伴なわない。	18.90	19.75	幅1～5mm，30～50°で母岩に密着して石英脈が複数分布，脈周辺に粘土化は伴わない。																					
58	20.60	20.60	70°，別れ目ぞいに風化褐色化が進むが，砂状化などの劣化は伴なわない。別れ目ぞいはマンガン鉱染で黒褐色化する。	20.60	20.60	70°，別れ目沿いに風化褐色化が進むが，砂状化などの劣化は伴わない。別れ目沿いはマンガン鉱染で黒褐色化する。																					

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H24-D1-4）

孔名：H24-D1-4

○：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード														
			記事			記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示）											破砕等									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物（有機質、異物など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湿潤度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鍵遠作業における特記事項 ・コア欠如、コア接乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、岩品の種類・量、岩品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流塑構造	鍵理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物崩 ・石英崩、凍石崩、方解石崩等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・ 挟獲岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号（Hc,Hb,Hj） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破砕構造、複合面構造、条痕構造、明目状粘土など	最新活動面（記変した場合）	空隙の状況	鍵遠作業における特記事項 ・コア欠如、コア接乱など	記事を削除・変更・追記した理由
59	20.90	21.66	（風化種）アランク	20.90	21.66	（風化種）3ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・風化の程度がやや強いため風化のランクを3ランクに変更した
60	21.00	21.66	割れ目は少ないが、一部で60°前後の低密着割れ目を含み、打撃で分離し易い。	-	-	- -									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
61	21.19	21.44	21.19m~35°，21.44m~50°のいずれも幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。	-	-	-									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
62	21.44	21.66	（コアの形状種）Ⅱランク	21.44	21.66	（コアの形状種）Ⅳランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位に比べて割れ目がやや多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した
63	21.50	21.50	60°はせん断性割れ目で、上記の21.44m~50°石英脈を切っている（変位量不明）	21.50	21.50	60°のせん断性割れ目は、上記の21.44m~50°石英脈で閉塞される。余切っている。変位量不明。割れ目には不連続な黄灰色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。									-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈はせん断性割れ目を横断しており、せん断割れ目が横断する長石もズレていないため「切っている」及び変位量の記載を削除した ・割れ目および周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した
64	21.66	26.78	30~50°割れ目が主体 割れ目ぞいに薄く砂状化したり、幅1~3mmの軟弱な灰白色などの粘土層をはさむことがある。後者の分布頻度は低い。	21.66	26.78	30~50°割れ目が主体 割れ目沿いに薄く砂状化したり、幅1~3mmの軟質な灰白色などの粘土層を挟むことがある。後者の分布頻度は低い。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い、軟弱⇒軟質、挟む）
65	22.36	22.40	φ15mmと大型の長石斑晶2ヶが晶出。	22.36	22.40	φ15mmの大型の長石斑晶が低見られる晶出。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（2ヶ⇒2個、晶出しているわけではないため、見られるに変更した） ・文章の適正化
66	22.72	22.78	22.72m~45°～22.78m~50°は風化で砂状化が進む。粘土化は伴なわない。	22.72	22.78	22.72m~45°～22.78m~50°は風化で砂状化が進む。粘土化は伴わない。22.78mの割れ目に沿って褐色化が見られる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目に沿った褐色化は周囲と異なる状況であるため追記した ・表現の適正化（伴う）
67	23.27	23.27	50°で多少湾曲した割れ目に幅1mm灰白色の軟弱粘土層はさむ。	23.27	23.27	50°で多少湾曲した割れ目に幅1mm灰白色の軟質粘土層挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（軟弱⇒軟質、挟む）
68	23.40	23.77	60~70°の低密着割れ目が複数平行に分布し、一部で石英、長石斑晶を切り、褐色風化で幅1~2mm砂状化する。	23.40	23.77	60~70°の低密着割れ目が複数平行に分布し、一部で石英、長石斑晶を横断し切り、褐色風化で幅1~2mm砂状化する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目は斑晶を横断しておりズレていないため「切り」を「横断し」に変更した
69	-	-	-	23.76	24.00	傾斜70~90°傾斜した高角度割れ目が分布する。幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・傾斜した高角度割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した
70	-	-	-	24.15	24.40	径10~20mmの大型の石英、カリ長石、長石の斑晶が多い。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・大型の鉱物の斑晶は周囲と異なる状況であるため追記した
71	24.59	24.59	40°割れ目ぞい幅10mm淡灰緑色化（緑泥石化）。φ0.5mm前後の雲母を伴う。	24.59	24.59	40°割れ目沿い幅10mm淡緑灰色化（緑泥石化）。φ0.5mm前後の白雲母を伴う。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて色調を変更した ・鉱物名を適正化した（雲母⇒白雲母） ・表現の適正化（沿い）
72	25.10	25.10	45°割れ目ぞい20mmが淡緑灰色化（緑泥石化）し、φ0.5~1mmの雲母を伴う。	25.09	25.09	45°割れ目沿い幅20mmが淡緑灰色化（緑泥石化）し、φ0.5~1mmの白雲母を伴う。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて深度を変更した ・鉱物名を適正化した（雲母⇒白雲母） ・表現の適正化（沿い） ・脱記の修正（「幅」の記載漏れ）
73	25.40	25.40	50°幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布	-	-	-									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
74	-	-	-	25.41	25.41	傾斜55°、幅1~3mmの岩片混じり褐色粘土を挟む。 割れ目沿いはわずかに緑色化。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・岩片混じり褐色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した
75	25.61	25.61	40°割れ目ぞい10mmが淡緑灰色化（緑泥石化）。φ0.5~1mmの雲母を若干伴う。	25.61	25.61	40°割れ目沿い幅10mmが淡緑灰色化（緑泥石化）。φ0.5~1mmの白雲母を若干伴う。幅1~2mmの岩片混じり褐色粘土を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・鉱物名を適正化した（雲母⇒白雲母） ・表現の適正化（沿い） ・脱記の修正（「幅」の記載漏れ） ・岩片混じり褐色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した
76	25.96	26.22	25.96m~50°～26.22m~45°の各割れ目に囲まれて、全体が風化で細片状～砂状化主体となる。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
77	26.78	27.75	見掛けより割れ目は少ないが、1~3cm間隔で低密着割れ目が分布し、ハンマーの打撃で3~5cmの岩片に細片化する。割れ目や低密着割れ目ぞいに砂状化し、27.00~27.23mでは砂状部が部剥例に流失している。一部スライムを混える。粘土化部や粘土層は殆んど分布しない。	26.78	27.75	見掛けより割れ目は少ないが、1~3cm間隔で低密着割れ目が分布し、ハンマーの打撃で3~5cmの岩片に細片化する。割れ目や低密着割れ目沿いに砂状化し、27.00~27.23mでは砂状部が部剥例に流失している。一部27.16~27.22mはスライムを混える。粘土化部や粘土層は殆んど分布しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い） ・文章の適正化（割れ目は少なくないため削除した） ・スライムの区間を追記した
78	27.16	27.22	（地質名種）Gp （割れ目状態種）cランク （コアの形状種）Vランク （コアの硬さ種）Eランク （風化種）3ランク （変質種）2ランク （鉱級区分種）D	27.16	27.22	（地質名種）コア欠如 （割れ目状態種）空欄 （コアの形状種）空欄 （コアの硬さ種）空欄 （風化種）空欄 （変質種）空欄 （鉱級区分種）空欄						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	・コア欠如区間であるため地質名種に追記した ・コア欠如区間であるため、各種を空欄にした

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名 H24-D1-4

○ :記載有り　なし :該当区間に対象物はあるが、層間の状況と問題であるため記載していないもの　－ :該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード													記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)												破砕帯								
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・現物の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び粘土質、含有物（有機質、見怪など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湿状度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鍵遠作業における特記事項 ・コア欠如、コア接乱など		地質名 ・岩種及びその区間深度を明瞭的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、現品の種類・径、現品の含有率などを記載	色調 ・現物の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・開系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や検査物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のオペリス、リッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、漆石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	破砕帯 破砕度区分 ・記号（Hc,Hb,Hj） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の堆積面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 （実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・結状構造、複合面構造、柔巻構造、明日状粘土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	鍵遠作業における特記事項 ・コア欠如、コア接乱など	
79	27.75	28.43	破砕帯	27.75	28.43	破砕部										-	-	-		-		-		-	-	・用語の統一（破砕帯→破砕部）
80	27.75	27.91	Hb 上端20°、下端15°で、上端は砂状化し不明瞭。下端は直線的でシャープに連続。φ2～3mm石英粒、φ5～10mmの球状粘土化した岩片を多く含む。やや緑っぽい軟質粘土。下端は幅2～3mmでマンガン鉱染受けあ。上端側は明褐灰、下端側は明赤灰でマンガン鉱染部は黒褐色。厚さ160mm。	27.75	27.91	Hb 上端20°、下端15°で、上端は砂状化し不明瞭。下端は直線的でシャープに連続。やや軟質、φ2～3mm石英粒、φ5～10mmの球状粘土化した岩片を多く含む粘土質礫状部からなるやや緑っぽい礫質粘土。下端は幅2～3mmでマンガン鉱染受けあ。上端側は明褐灰色、下端側は明赤灰色でマンガン鉱染部は黒褐色。厚さ160mm。 含まれる細粒部は斑状的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。										-	-	-		-		-		-	-	・表現の修正（色）の記載漏れ ・27.91～28.33mOHは同等の硬さであるため硬軟を変更した ・粘記の修正（色）の記載漏れ ・表現の適正化（ほぼ） ・細粒部の連続性・連続性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
81	27.91	28.33	Hj 上端15°、下端53°で、両端ともに直線的でシャープに連続する。幅1～5mmの灰黄（2.5Y 7/2）～ごふい黄橙（10YR 7/2）～灰白（10YR 8/1）の軟質粘土が27.95～28.00mでは10～20°で、28.00m以深では、斜状に岩片間を縫うように分布。全体として粘土質じり岩片状を呈する。色調は明褐灰（7.5YR 7/2）～にぶい黄橙（10YR 7/2）で、厚さ40mm。	27.91	28.33	Hj 上端15°、下端53°で、両端ともに直線的でシャープに連続する。幅1～5mmの灰黄（2.5Y 7/2）～ごふい黄橙（10YR 7/2）～灰白色（10YR 8/1）の軟質粘土が27.91～27.95mでは10～20°で、27.95m以深では、斜状に岩片間を縫うように分布。全体として粘土質じり岩片状を呈する。 やや軟質で、含まれる細粒部は斑状的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。 色調は明褐灰（7.5YR 7/2）～にぶい黄橙色（10YR 7/2）で、厚さ40mm。										-	-	-	○	○	-	○		○	-	-	・粘記の修正（色）の記載漏れ ・表現の適正化（軟質→軟質、混じり） ・粘土の記載にある深度をコアに合わせて変更した ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・厚さ40mmは区間異なら考えて斜記するため削除した
82	28.33	28.33	Hc-1（主せん断面） 53°、幅2～5mmで直線的でシャープに連続する。灰黄褐色（10YR 5/2）の軟質粘土層。	28.33	28.33	Hc-1（最新活動面） 53°、幅2～5mmで直線的でシャープに連続する。灰黄褐色（10YR 5/2）の軟質粘土層。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。										-	-	-		○		-		-	-	・最新活動面という用語に統一 ・表現の適正化（軟質→軟質） ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
83	28.33	28.43	Hb 上端53°、下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～2mmの石英粒と、φ3～10mmの大半が粘土化したGo岩片からなる軟質な粘土質礫状部。灰白（3YR 8/1）～明赤灰（2.5R 7/1）～明黄褐（10YR 6/6）を呈し、厚さ60mm。	28.33	28.43	Hb 上端53°、下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～2mmの石英粒と、φ3～10mmの大半が粘土化したGo岩片からなる軟質な粘土質礫状部。灰白（3YR 8/1）～明赤灰（2.5R 7/1）～明黄褐色（10YR 6/6）を呈し、厚さ60mm。 含まれる細粒部は斑状的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。										-	-	-		○		-		○	-	-	・表現の適正化（軟質→軟質） ・粘記の修正（色）の記載漏れ ・細粒部の連続性・連続性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
84	27.75	27.91	（破砕度区分欄）記載なし	27.75	27.91	（破砕度区分欄）Hb										-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の記載に合わせて破砕度区分を追記した
85	27.91	27.95	（破砕度区分欄）記載なし	27.91	27.95	（破砕度区分欄）Hj										-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の記載に合わせて破砕度区分を追記した
86	28.43	29.73	岩片は硬さ「G」主体である。30～60°を主体に低密着割れ目を多く含む。粘土質をほさむ割れ目は少ない。28.70m以浅では、割れ目そいにマンガン鉱染し、黒褐色化する。	28.43	29.73	岩片は硬さ「G」主体である。30～60°を主体に低密着割れ目を多く含む。粘土質を挟む割れ目は少ない。 28.70m以浅では、割れ目沿いにマンガン鉱染し、黒褐色化する。										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い、挟む）
87	27.57	27.57	65°、割れ目は幅2mmの粘土層をはさむが、マンガン鉱染で黒褐色化する。	28.57	28.57	65°、割れ目は幅2mmの粘土層を挟むが、マンガン鉱染で黒褐色化する。										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・粘記の修正（27.57→28.57） 表現の適正化（挟む）
88	28.71	29.00	（コアの硬さ欄）Bランク	28.71	29.00	（コアの硬さ欄）Cランク										-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した
89	29.48	29.73	（コアの形状欄）Vランク	29.48	29.73	（コアの形状欄）IVランク										-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位に比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した
90	29.73	30.20	硬質で、割れ目も少ない。ほゞ未風化、未変質である。	29.73	30.20	硬質で、割れ目も少ない。ほぼ未風化、未変質である。										-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（ほぼ）
91	30.20	31.03	低密着割れ目も多いが、概ね3cm以上の割れ目間隔のコア形状である。割れ目、低密着割れ目は30～50°主体で、周者そいに薄く砂状化する部分もある。	30.20	31.03	低密着割れ目も多いが、概ね3cm以上の割れ目間隔のコア形状である。割れ目、低密着割れ目は30～50°主体で、周者沿いに薄く砂状化する部分もある。										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い）
92	31.03	32.30	60～70°割れ目、低密着割れ目が主体で、一部で、これらに斜交～直交する40～50°割れ目、低密着割れ目も分布する。割れ目そいに風化し、薄く砂状化する部分もあるが、粘土質は殆んどはさまない。	31.03	32.30	60～70°割れ目、低密着割れ目が主体で、一部で、これらに斜交～直交する40～50°割れ目、低密着割れ目も分布する。割れ目沿いに風化し、薄く砂状化する部分もあるが、粘土質は殆んど挟まない。 31.25～31.40mの間はやや高値した傾斜80～90°で、31.60～31.61mでは傾斜50°で、幅5～20mm程度のカリ長石の漆黒部の断を伴う。										-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い、挟む） ・カリ長石の漆黒部の断は周囲と異なる状況であるため追記した
93	31.37	31.51	1～1.5cm間隔で60～70°割れ目～低密着割れ目が平行に分布する。	－	－	-										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
94	31.75	32.30	85～90°割れ目がやや波打って連続する。割れ目の一部に軟質な灰白色粘土幅1～2mmが付着する。	31.75	32.30	85～90°割れ目がやや波打って連続する。割れ目の一部に軟質な灰白色粘土幅1～2mmが付着する。										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（やや、軟質→軟質）
95	32.13	32.13	60°、幅3～8mmで φ1～3mmに角礫化した破砕割れ目が分布する。基質は砂質土で、マンガン鉱染により黒褐色する。	32.13	32.13	60°、幅3～8mmで φ1～3mmの礫を含むマンガン鉱を挟む。角礫化し残っている部分があり、その岩片は移動や回転をしていない。角礫化した破砕割れ目が分布する。基質は砂質土で、マンガン鉱染により黒褐色する。										-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	・角礫化し残っている部分があり、その岩片は移動や回転をしていないため角礫化は破砕にともなものではないと判断して「破砕割れ目」を削除した。 ・礫を含むマンガン脈であるためその旨の記載に変更した
96	32.30	33.10	一部で硬さBの硬質岩片を含んでいる。30～50°割れ目と、これらに斜交～直交する60～80°割れ目が主体。32.86m～90°割れ目の上盤側は、割れ目そいの砂状化とはならず、下盤側の一部の割れ目では、割れ目そいの一部が風化で薄く砂状化する。粘土化部や粘土層は全区間を通じて粘ムと分布しない。33.00～33.10mの縁から割れ目に厚さ0.5mm以下の粘土フィルムが付着している。	32.30	33.10	一部で硬さBの硬質岩片を含んでいる。30～50°割れ目と、これらに斜交～直交する60～80°割れ目が主体。32.86m～90°割れ目の上盤側は、割れ目沿いの砂状化とはならず、下盤側の一部の割れ目では、割れ目沿いの一部が風化で薄く砂状化する。 32.68m、傾斜40°、32.76m、傾斜30°に幅1～15mmのカリ長石の漆黒した断を伴む。粘土化部や粘土層は全区間を通じて粘ムと分布しない。33.00～33.10mの縁から割れ目に厚さ0.5mm以下の粘土フィルムが付着している。										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。 ・表現の適正化（沿い） ・カリ長石の漆黒した断は周囲と異なる状況であるため追記した
97	33.00	33.10	（割れ目状態欄）bランク （コアの形状欄）IVランク （コアの硬さ欄）Cランク （風化欄）fランク	33.00	33.10	（割れ目状態欄）cランク （コアの形状欄）Vランク （コアの硬さ欄）Dランク （風化欄）dランク										-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて割れ目状態、コアの形状、コアの硬さ、風化のランクを変更した
98	33.10	33.65	硬さBと硬質岩片からなり、割れ目の面は一部酸化褐色化するが砂状化は粘土ははさまない。	33.10	33.65	硬さBと硬質砂岩で、割れ目の面は一部酸化褐色化するが砂状化や粘土は挟まない。										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・岩片ではないため削除した ・粘記の修正（は→や） ・表現の適正化（挟む）
99	33.24	33.24	75°、幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して連続。	－	－	-										-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	
100	－	－	-	33.29	33.29	傾斜50°、幅3mm程度のカリ長石の脈を挟む。										-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	・カリ長石の脈は周囲と異なる状況であるため追記した
101	－	－	-	33.53	33.53	傾斜45°、幅2～4mm程度のカリ長石の脈を挟む。										-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	・カリ長石の脈は周囲と異なる状況であるため追記した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名：H24-D1-4

○ 記載有り　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード															記事を削除・変更・追記した理由
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示） 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形状、含有物（有機質、異質など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、亀裂度、含水状態などを記載。	連続構造 （層厚、薄層、級化など）	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・性、岩品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	恵理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のテ〜リ（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	被覆岩 ・岩種	破砕帯 破砕度区分 ・記号（HL/HJ/HS） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・頻度構造、複合面構造、葉等構造、明瞭状態など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	
102	33.65	37.15	一部、34.00～34.30mで割れ目が多いコア形状Vを呈するが、これ以外はコア形状Vである。硬さは34.64m以浅は全体、以深は主に硬質である。割れ目は30～50°主体であるが、一部で、これらに斜交～直交する60～80°割れ目も分布する。また、以上の2系の割れ目と交差する70～90°割れ目が35.42m付近、38.5m付近などに分布する。 色割れ目は34.64m以浅では一部の割れ目ずいが薄く砂状化するが、以深では砂状化しないものが主体である。	33.65	37.15	一部、33.78～34.05mで割れ目が多いコア形状Vを呈するが、これ以外はコア形状Vである。硬さは34.64m以浅は全体、以深は主に硬質である。割れ目は30～50°主体であるが、一部で、これらに斜交～直交する60～80°割れ目も分布する。また、以上の2系の割れ目と交差する70～90°割れ目が35.42m付近、38.5m付近などに分布する。 色割れ目は34.64m以浅では一部の割れ目沿いが薄く砂状化するが、以深では砂状化しないものが主体である。 33.75m、傾斜35°、幅20mm程度で粘化した脈を挟む。 33.96m、傾斜60°、幅5mm程度のかり長石の脈を挟む。										○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が多いコア形状Vの区間に変更した ・表現の適正化（沿い） ・表現の統一（38.5→38.50） ・粘化した脈、かり長石の脈は周囲と異なる状況であるため違記した
103	33.78	34.05	（コアの形状欄）Ⅳランク	33.78	34.05	（コアの形状欄）Ⅴランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲に比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをⅤランクに変更した
104	34.00	34.00	60°、幅1～5mmの軟弱な白色粘土脈が直線的でシャープに連続。その下盤側は34.22m付近まで風化で軟化している。	34.00	34.00	60°、幅1～5mmの硬質な白色鉱物脈が直線的でシャープに連続。その下盤側は34.22m付近まで風化で軟質化している。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・実形に合わせて硬質な白色鉱物脈に変更した ・下限側が必ずしも下盤とは限らないため下縁に変更した。 ・表現の適正化（軟質化）
105	34.57	34.63	34.57m･45°～34.63m･65°は細かい割れ目が発達し、全体が軟化（頁岩）、粘土化はないが若干砂状化する。また、マンガン鉱染を受け黒褐色化する。	34.57	34.63	34.57m･45°～34.63m･65°は細かい割れ目が発達し、全体が軟質化（頁岩）、粘土化はないが若干砂状化する。また、マンガン鉱染を受け黒褐色化する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（軟質化）
106	35.40	35.40	40°層理は70°割れ目と交差し、φ20～30mmに細片状するが、岩片は硬く（硬さB）、砂状化や粘土化、粘土脈はゆるがない。	35.40	35.40	40°層理は70°割れ目と交差し、φ20～30mmに細片状を呈するが、岩片は硬く（硬さB）、砂状化や粘土化、粘土脈は~~ゆるがない~~。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・文章の適正化 ・表現の適正化（伴う）
107	35.42	38.95	（変質欄）3ランク	35.42	38.95	（変質欄）2ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・変質の程度がやや弱いため変質のランクを2ランクに変更した
108	35.90	35.90	60°低密着割れ目の一部に幅0.5mmの軟弱な白色粘土が付着するが、連続性はなく、粘土脈は形成していない。	35.90	35.90	60°低密着割れ目の一部に幅0.5mmの軟質な白色粘土が付着するが、連続性はな~~く、粘土脈は形成していない~~。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の統一（軟質→軟質） ・文章の適正化（連続性がないことと脈状ではないことは同義であるため削除した）
109	36.30	37.20	75～90°の高角度割れ目で、稀々で50°前後の割れ目で切られている。一部で砂状化するが、粘土化や粘土脈はほとんどない。	36.30	37.20	75～90°の高角度割れ目は、所々で50°前後の割れ目で~~止められる、切られている~~。一部で砂状化するが、粘土化や粘土脈は~~挟まない~~。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・高角度割れ目が50°の割れ目と横断する箇所も多く見られるため「切られる」を「止められる」に変更した ・表現の適正化（所々、挟む）
110	36.37	36.37	45°はせん断性割れ目で、交差する75～80°割れ目を切っている（変位量30mm、左ズレ）。割れ目の一部には幅1mmの風化で生じた砂をはさむ。	36.37	36.37	45°~~のせん断性~~割れ目は、交差する75～80°割れ目を~~止めている切っている（変位量30mm、左ズレ）~~。割れ目の一部には幅1mmの風化で生じた砂を挟む~~が、粘土は挟まない~~。割れ目面~~近傍の岩種には原岩組織が~~認められ、系統的な割れ目も存在しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・変位基準とした高角度割れ目は、一連の割れ目ではない（挟在物の種類が異なるため）が切っている（を止めている）に変更し、変位量の記載を削除した ・割れ目及び層理の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した ・表現の適正化（挟む）
111	36.68	36.68	55°幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して分布。38.69mで上位の高角度割れ目に切られるが、変位はない。	36.68	36.68	55°幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して分布。38.69mで上位の高角度割れ目~~を極部で~~、~~に切られるが、変位はない~~。									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈は横断する割れ目でズレていないため「に切られる」を「と交差する」に変更し、変位の記載は削除した
112	36.80	37.00	75～80°の高角度割れ目中の幅2～4mmの砂はマンガン鉱染により黒褐色化する。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
113	37.15	39.60	上位に比べ、割れ目も多くなる。硬さは37.68～38.95m間のBが主体で、その上下位側に硬さ「C」ないし「D」が分布する。割れ目は40～50°が主体で、これに斜交～直交する60～80°割れ目も分布する。 38.95～39.41mのB硬さD区間では、割れ目は消滅したものが多い。割れ目は硬さ「C」が37.15～37.68m、39.41～39.60mでは粘土化部や粘土脈の挟在は殆んどないが、割れ目ずいに薄く砂状化するものも多い。硬さが37.68～38.95mでは割れ目は風化で薄く粘土化するが挟在物はない。硬さのD38.95～39.41mでは幅1mm前後の灰白色軟質粘土脈を挟在することが多い。	37.15	39.41	上位に比べ、割れ目も多くなる。硬さは37.68～38.95m間のBが主体で、その上下位側に硬さ「C」ないし「D」が分布する。割れ目は40～50°が主体で、これに斜交～直交する60～80°割れ目も分布する。 38.95～39.41mのB硬さD区間では、割れ目は消滅したものが多い。割れ目は硬さ「C」が37.15～37.68m、~~39.41～39.60mでは粘土化部や粘土脈の~~挟在は殆んどないが、割れ目沿いに薄く砂状化するものも多い。硬さが37.68～38.95mでは割れ目は風化で薄く粘土化するが挟在物はない。硬さのD38.95～39.41mでは幅1mm前後の灰白色軟質粘土脈を挟在することが多い。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が多い区間（コア形状V主体）の記載のため下端深度を変更した（39.41m以深はコア形状Ⅳ） ・表現の適正化（沿い、軟弱→軟質） ・下端深度を変更したため区間外の記載は削除した
114	37.18	37.68	マンガン鉱染を受け、割れ目とその周辺は黒褐色化し、全体的には褐灰色（7.5YR 5/1）を呈する。	37.15	37.68	マンガン鉱染を受け、割れ目とその周辺は黒褐色化し、全体的には褐灰色（7.5YR 5/1）を呈する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせてマンガン鉱染を受けている上端深度を変更した
115	37.18	37.68	（色調欄）7.5YR6/2区規	37.18	37.68	（色調欄）7.5YR5/1褐灰									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて色調を変更した
116	37.68	37.89	（コアの形状欄）Vランク	37.68	37.89	（コアの形状欄）Ⅳランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲に比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをⅣランクに変更した
117	38.01	38.12	（コアの形状欄）Vランク	38.01	38.12	（コアの形状欄）Ⅳランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲に比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをⅣランクに変更した
118	38.12	38.20	割れ目ずいに褐色化するが、岩片は硬さBで劣化していない。	38.12	38.20	割れ目沿いに褐色化するが、岩片は硬さBで劣化していない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い）
119	38.23	38.95	（コアの形状欄）Vランク	38.23	38.95	（コアの形状欄）Ⅳランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲に比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをⅣランクに変更した
120	38.95	39.41	風化と変質で軟化している。特に最下位側の39.34～39.41mは、上端35°、下端30°で膨潤れ灰白～にぶい橙色の軟弱な粘土脈が20～30°、60～65°幅1～4mmで多く分布する。	38.95	39.41	風化と変質で~~軟質~~化している。特に最下位側の39.34～39.41mは、上端35°、下端30°で膨潤れ灰白～にぶい橙色の軟質な粘土脈が20～30°、60～65°幅1～4mmで多く分布する。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（軟質化、軟弱→軟質）
121	38.95	39.41	（岩級区分欄）CL	38.95	39.41	（岩級区分欄）CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・39.41～40.00mの割れ目状態、コアの形状、コアの硬さのランクの変更に伴い、岩級もCMに変更されたことにより、本区間長が50m未満になったため周囲の岩級に含めた
122	39.41	39.60	硬さBも含んでおり、硬質ではＫ未風化、未変質である。	~~39.41~~	~~39.60~~	~~硬さBも含んでおり、硬質ではＫ未風化、未変質である。~~									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・深度39.60～39.90mの記事と併せて記載したため削除した
123	39.41	40.21	（割れ目状態欄）cランク	39.41	40.21	（割れ目状態欄）bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
124	39.41	39.60	（コアの形状欄）Vランク （コアの硬さ欄）bランク	39.41	39.60	（コアの形状欄）Ⅳランク （コアの硬さ欄）cランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位に比べて割れ目が少なく、コアの硬さも硬質なためコアの形状、コアの硬さのランクを変更した
125	39.41	40.00	（岩級区分欄）CL	39.41	40.00	（岩級区分欄）CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の変更に伴い、岩級を変更した
126	39.50	39.50	20°幅2～4mmの石英脈が母岩に密着して分布。	39.50	39.50	20°幅2～4mmの白色変質脈が分布。									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・花崗斑岩の白色変質脈であるため変更した
127	39.60	39.90	硬さBで上位のBよりも割れ目が少なくなる。ほぼ未風化、未変質で堅硬である。	39.41	40.00	硬さBで上位のBよりも割れ目が少なくなる。ほぼ未風化、未変質で堅硬である。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・岩種の各要素のランクの区間の記載としたため上端・下端深度を変更した ・表現の適正化（ほぼ）
128	39.90	40.68	40～50°割れ目がほぼ平行に分布する。風化で割れ目の一部が薄く砂状化する。また、幅1mm以下の軟質な灰白色粘土脈をはさむが、分布は少ない。	40.00	40.68	40～50°割れ目がほぼ平行に分布する。風化で割れ目の一部が薄く砂状化する。また、幅1mm以下の軟質な灰白色粘土脈を挟む~~が~~、分布は少ない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・40～50°の割れ目が平行に分布する区間の上端深度を変更した ・表現の適正化（ほぼ、軟弱→軟質、挟む）
129	39.90	40.00	（コアの形状欄）Vランク	39.90	40.00	（コアの形状欄）Ⅳランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位と同程度の割れ目頻度であるためコアの形状のランクをⅣランクに変更した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H24-D1-4）

孔名 H24-D1-4

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード 記事 上端深度	コア観察カード 記事 下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	適正化すべき記事内容 記事 上端深度	適正化すべき記事内容 記事 下端深度	適正化すべき記事内容 記事 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	第四系コア観察カード 地質名・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴・粒度構成、硬の種類及び形状、含有物（有機質、異質など）を網羅的に記載。・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海成度、含水状態などを記載。	堆積構造（層理、薄理、級化など	鉱造作業における特記事項・コア欠如、コア喪失など	基盤岩コア観察カード 地質名・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、既晶の種類・性、既晶の含有率などを記載	色調・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	熱理等の割れ目・周辺岩級の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や挟在物の情報を網羅的に記載。・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目面の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のテ〜リ（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈・石英脈、漆石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など・鉱物脈・鉱物	破砕帯 破砕度区分・記号（Hc,Hb,Hs）・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面・見かけの傾斜・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部・色調・破砕部内物質・硬軟・細粒部の連続性・連続性・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造・組状構造、斑合面構造、業構造、網目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	鉱造作業における特記事項・コア欠如、コア喪失など	記事を削除・変更・追記した理由
130	39.90	40.21	（コアの硬さ欄）Cランク	39.90	40.21	（コアの硬さ欄）Bランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
131	20.24	20.28	20.24m･40°～20.28m･45°　割れ目に囲まれてやや軟化する。上端割れ目はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体に砂状～粘土化は伴わない。	40.24	40.28	40.24m･40°～40.28m･45°　割れ目に囲まれて、やや軟質化する。上端割れ目はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体に砂状～粘土化は伴わない。								○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脈記の修正（20.24m、20.28m⇒40.24m、40.28m）・表現の適正化（やや、軟質化、伴う）
132	40.44	40.68	（割れ目状態欄）cランク	40.44	40.68	（割れ目状態欄）bランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
133	40.50	－	40.50m以深では硬さBと堅硬部も混える。	－	－	－								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
134	40.50	40.68	（コアの硬さ欄）Cランク	40.50	40.68	（コアの硬さ欄）Bランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは硬質なためコアの硬さのランクをBランクに変更した
135	40.68	41.20	硬さBと堅硬であるが、41.20mでは75～80°の高角度割れ目を境として硬さ「D」の軟質部と接する。高角度割れ目は、41.00～41.30mまでやや高傾しながら連続している。幅5～10mm程度が砂状～φ3～5mm程度の破砕帯状を呈している。割れ目は20～30°が主体であるが、分布は少ない。ただし、20～30°と70°前後の低密着割れ目も分布し、コア形状又とする。割れ目の挟在物はない。	40.68	41.20	硬さBと堅硬であるが、41.20mでは75～80°の高角度割れ目を境として硬さ「D」の軟質部と接する。高角度割れ目は、41.00～41.30mまでやや高傾しながら連続している。幅5～10mm程度が砂状～φ3～5mm程度の破砕帯状を呈している。破砕部の他に移動や固転は見られない。割れ目は20～30°が主体であるが、分布は少ない。ただし、20～30°と70°前後の低密着割れ目も分布し、コア形状又とする。割れ目の挟在物はない。								○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・硬状を呈する部分の硬に移動や固転は見られないため「破砕」を削除した・表現の適正化（やや、ただし）
136	－	－	－	40.95	40.95	傾斜45°　幅2mm程度の石英脈を挟む。白雲母が晶出する。								-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈、白雲母の晶出は周囲と異なる状況であるため追記した
137	41.20	41.62	上端75～80°、下端80～85°の高角度割れ目に囲まれて、全体に軟化している。高角度割れ目と斜交～直交する30～50°割れ目が主体で、割れ目ぞいの一部は薄く砂状化するが、粘土部や粘土頭は殆んど分布せず、高角度割れ目の一部に幅0.5mmの灰白色軟質粘土がわずかに付着する程度である。	41.20	41.62	上端75～80°、下端80～85°の高角度割れ目に囲まれて、全体に軟質化している。高角度割れ目と斜交～直交する30～50°割れ目が主体で、割れ目沿いの一部は薄く砂状化するが、粘土部や粘土頭は殆んど分布せず、高角度割れ目の一部に幅0.5mmの灰白色軟質粘土がわずかに付着する程度である。								○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（軟質化、沿い、軟弱⇒軟質）
138	41.52	41.62	40°と85°割れ目に囲まれて、φ5～10mmの角礫に破砕された、締った砂質土の基質中にマンガン鉱染が認められる。	41.52	41.62	40°と85°割れ目に囲まれて、φ5～10mmの角礫状を呈する、に破砕されて、硬質な砂状質土の基質中にマンガン鉱染が認められる。割れ目や角礫には挟在物が付着していない。角礫状部は連続していない。								○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・角礫状を呈する部分の礫には細粒物が付着せず、割れ目にも挟在物が見られないため部神のコアの破砕部であると判断して「破砕されて」を削除した・角礫状の連続性について追記した・表現の適正化（締った⇒硬質、砂質土⇒砂状）
139	41.62	42.37	硬さBと堅質で、割れ目もやや少なくなる。40～50°割れ目が主体、また、40～50°と60°前後の低密着割れ目が多い。割れ目、低密着割れ目には砂状化、粘土脈などの挟在物はない。ただし、42.03mなどでは55°割れ目ぞいの一部がφ3～5mmで硬質細片化している。	41.62	42.37	硬さBと堅質で、割れ目もやや少なくなる。40～50°割れ目が主体、また、40～50°と60°前後の低密着割れ目が多い。割れ目、低密着割れ目には砂状化、粘土脈などの挟在物はない。ただし、42.03mなどでは55°割れ目沿いの一部がφ3～5mmで硬質細片化している。								○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（やや、ただし、沿い）
140	41.92	41.92	40°幅5～6mm石英脈が母岩に密着して連続、脈の周辺にϕ0.1mmの金属鉱物が晶出。	－	－	－								-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
141	42.37	42.61	低密着割れ目が細かい明状で分布し、打撃で分離し易い。42.37～42.46mは割れ目が約10mm間隔で交差し、岩片もϕ10mm前後に細片化している。岩片間に軟質で白色の粘土がごくわずか付着している。	42.37	42.61	低密着割れ目が細かい明状で分布し、打撃で分離し易い。42.37～42.46mは割れ目が約10mm間隔で交差し、岩片もϕ10mm前後に細片化している。岩片間に軟質で白色の粘土がごくわずかに付着している。								○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の統一（軟弱⇒軟質）
142	42.43	42.43	60°割れ目はせん断性割れ目で、面上に条線が認められる	42.43	42.43	60°割れ目は、交差する42.38mの褐色化する割れ目を見かけ2mm程度左ズレに変位させているせん断性割れ目で、面上に条線が認められる。割れ目の挟在物は不連続で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。								○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・60°割れ目と斜交する深度42.38mの褐色化した割れ目が2mm程度見かけ左ズレに変位しているため追記した・割れ目及び周辺の状況を追記した
143	42.61	43.34	30～50°割れ目が主体で、ほゞ平行に分布する。硬質で、割れ目は薄く酸化褐色化するが、砂、粘土の挟在物はない。一部でマンガン鉱染うけ黒褐色化するが、劣化はほゞわるい。	42.61	43.34	30～50°割れ目が主体で、ほぼ平行に分布する。硬質で、割れ目は薄く酸化褐色化するが、砂、粘土の挟在物はない。一部でマンガン鉱染受け黒褐色化するが、劣化はほゞわるい。								○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（ほぼ、受け、伴う）
144	43.39	43.39	55°幅3～4mm石英脈が母岩に密着して連続する。	43.29	43.29	55°幅3～4mm石英脈が母岩に密着して連続する。								-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脈記の修正（43.39⇒43.29）
145	43.34	45.00	岩片自身は硬さBが多いが、低密着割れ目が細かく分布し、全体として硬さ「C」を呈する。割れ目は50～70°と、これに斜交～直交する30～60°が主体で、割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1～2mmの軟質な白色粘土脈をはさむものもある。	43.34	45.00	岩片自身は硬さBが多いが、低密着割れ目が細かく分布し、全体として硬さ「C」を呈する。割れ目は50～70°と、これに斜交～直交する30～60°が主体で、割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1～2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。ものもある。								○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の統一（軟弱⇒軟質、挟む）
146	43.34	43.34	55°割れ目幅2mmで砂状化し、一部でϕ1mmの雲母片が晶出している。砂はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。本割れ目1m下位の43.35mには、本割れ目と平行に幅3～5mmの石英脈が連続する。	43.34	43.34	55°割れ目幅2mmで砂状化し、一部でϕ1mmの白雲母片が晶出している。砂はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。本割れ目1m下位の43.35mには、本割れ目と平行に幅3～5mmの石英脈が連続する。								○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・鉱物名を追記した（雲母⇒白雲母）・文章の適正化（雲母片は晶出しないため、「片」を削除した）
147	43.34	44.40	（割れ目状態欄）cランク	43.34	44.40	（割れ目状態欄）bランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
148	44.67	44.67	65°割れ目はせん断性割れ目で、交差する60°割れ目を切って、やゝ波打ちながら連続する（変位量5mm左ズレ）。	44.67	44.67	65°割れ目はせん断性割れ目で、交差する60°割れ目をとおって緩やゝ、やや波打ちながら連続する（変位量5mm左ズレ）。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。								○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・65°割れ目は一部で屈曲するが、その部分のみみかねが異いためズレていないと判断して、「切って」を「止めて」に変更し、変位量についての記載を削除した・割れ目の挟在物及び割れ目周辺の状況について追記した・表現の適正化（やや）
149	44.83	44.83	60°割れ目の一部に幅1～2mmの軟質白色粘土が付着。粘土脈としての連続性はない。	44.83	44.83	60°割れ目の一部に幅1～2mmの軟質白色粘土が付着。粘土脈としての連続性はない。								○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の統一（軟弱⇒軟質）・文章の適正化（一部に付着と粘土脈としての連続性はないことは問題であるため削除した）
150	44.83	45.15	（割れ目状態欄）cランク	44.83	45.15	（割れ目状態欄）bランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
151	45.00	45.45	60～70°割れ目、低密着割れ目が主体で、これらに斜交～直交する40～60°割れ目、低密着割れ目が分布する。一部の割れ目でごく薄く砂状化するが、粘土脈はさまない。各割れ目はマンガン鉱染で薄く黒褐色化する。	45.00	45.45	60～70°割れ目、低密着割れ目が主体で、これらに斜交～直交する40～60°割れ目、低密着割れ目が分布する。一部の割れ目でごく薄く砂状化するが、粘土脈は挟まない。各割れ目はマンガン鉱染で薄く黒褐色化する。								○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（挟む）
152	45.15	45.45	（コアの形状欄）Dランク	45.15	45.45	（コアの形状欄）Vランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位にたべて割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した
153	45.24	45.24	45°幅2～18mmと指状して連続するが、母岩に対し、上盤側の一部は割れ目化、下盤側は密着する。	45.24	45.24	45°幅2～18mmと指状して石英脈が連続するが、母岩に対し、上端側が一部は割れ目化、下端側は密着する。								○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脈記の修正（「石英脈」の記載漏れ）・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。・文章の適正化（「母岩に対し」は特に記載する必要がないため削除した）

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名 H24-D1-4

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが 周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード														
			記事			記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)																				
	上端深度	下端深度	コア観察カードからまして記載されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく記載されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物(有機質、異物など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海況度、含水状態などを記載。	連続構造 /層厚、薄層、細化など	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア接続など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、現品の種類・性、現品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	顕微鏡の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のテペリ(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載。	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	岩種岩 ・岩種	破砕帯									記事を削除・変更・追記した理由
																			破砕度区分 ・記号(HL/HJ/HJ) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質を細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・細状構造、複合面構造、業務構造、網目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア接続など	
154	45.45	46.06	70～80°とこれに斜交～直交する40～60°割れ目、低密着割れ目が主体。特に低密着割れ目が多く、約10～20mm間隔で分割している。堅硬な硬さBからなり、割れ目には挟在物は殆んど分布しない。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
155	45.81	45.81	45°割れ目はせん断性割れ目で、直交する70°割れ目を切っている(変位量4mm左ズレ)。	45.81	45.81	45°~~割れ目のせん断性~~割れ目は、直交する70°割れ目を~~横断されも、を切っている(変位量4mm左ズレ)~~。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・70°割れ目は45°割れ目でわずかにズレているようにみえるがコア低納時にズレた人為的なものであるため「切っている」を「横断している」に変更し、変位量の記載を削除した ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した
156	46.06	46.31	上位から続く硬さBで褐色(目)、互いに直交する50°程度の割れ目からなる。割れ目には挟在物はない。	46.06	46.31	上位から続く硬さBで褐色(目)、互いに直交する50°程度の割れ目~~が分布する~~。割れ目には挟在物はない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・文章の適正化(割れ目からなる⇒割れ目が分布する)
157	46.31	46.67	40～50°割れ目、低密着割れ目が約10mm間隔と細かく平行に分布し、一部で薄く砂状化する。岩片は硬さBも含む全体に土体	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
158	46.31	46.53	(風化欄)δランク	46.31	46.53	(風化欄)γランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・風化の程度がやや弱いため風化のランクをγランクに変更した
159	46.67	47.48	硬さBと堅硬で、割れ目も少ない。46.45～47.00mに85°の低密着割れ目が分布する。割れ目、低密着割れ目とも挟在物はない。	46.67	47.48	硬さBと堅硬で、割れ目も少ない。~~46.85~~～47.00mに85°の低密着割れ目が分布する。割れ目、低密着割れ目とも挟在物はない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・高角度の低密着割れ目の分布に合わせて上端深度を変更した
160	47.48	47.67	岩片はB2堅硬であるが、50～85°の低密着割れ目が分布し細片化する。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
161	47.67	48.52	40～50°割れ目主体で平行に分布。46.17m以浅は風化で割れ目ぞいの一部は砂状化する。以深は風化弱くなり砂状化しない。また、粘土層は殆んどはさまない。	47.67	48.52	40～50°割れ目主体で平行に分布。46.17m以浅は風化で割れ目~~沿い~~の一部は砂状化する。以深は風化弱くなり砂状化しない。また、粘土層は殆んど~~挟まない~~。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(沿い、挟む)
162	48.17	48.17	50°割れ目に幅5～7mmの風化した明褐色(7.5YR 5/6)の砂をはさむ。両側幅5～10mmは淡緑灰色化(緑泥石化)する。φ0.1mmの粒細な雲母が晶出する。	48.17	48.17	50°割れ目に幅5～7mmの風化した明褐色(7.5YR 5/6)の砂を~~挟む~~。両側幅5～10mmは淡緑灰色化(緑泥石化)する。φ0.1mmの粒細な~~白~~雲母が晶出する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(挟む) ・鉱物名を適正化した(雲母⇒白雲母)
163	48.42	49.17	(割れ目状態欄)cランク	48.42	49.17	(割れ目状態欄)bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
164	48.84	49.17	(コアの形状欄)Vランク	48.84	49.17	(コアの形状欄)Dランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・下位より割れ目が少ないためコアの形状のランクをDランクに変更した
165	48.42	49.17	(岩級区分欄)CL	48.42	49.17	(岩級区分欄)CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の変更に伴い、岩級を変更した
166	48.52	48.84	上位と同様、40～50°割れ目が平行に分布。低密着割れ目は40～50°ないし60～70°で分布。両者とも砂、粘土層はさまない。	48.52	48.84	上位と同様、40～50°割れ目が平行に分布。低密着割れ目は40～50°ないし60～70°で分布。両者とも砂、粘土層は~~挟まない~~。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(挟む)
167	48.84	49.83	40～50°割れ目、低密着割れ目主体で、49.17m以深では風化が進み、割れ目ぞいが砂状化することが多い。また、一部の割れ目、低密着割れ目で幅0.5mmの軟弱な白～明黄褐粘土層をはさむ。	48.84	49.83	40～50°割れ目、低密着割れ目主体で、49.17m以深では風化が進み、割れ目~~沿い~~が砂状化することが多い。また、一部の割れ目、低密着割れ目で幅0.5mmの軟質~~な~~白～明黄褐色粘土層を~~挟む~~。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(沿い、軟弱⇒軟質、挟む) ・掘起の修正(「色」の記載漏れ)
168	49.83	52.07	硬さBと堅硬で70～40°の割れ目が主体である。上端側の49.83～50.04mと50.24～50.32mは緑灰色(7.5GY 5/1)化する(緑泥石化)。粘土化部や粘土層は伴なわないが、緑色化部下盤側の50.04～50.11mは若干風化し、割れ目の一部にごく薄い風化砂をはさむ。緑灰色部はまとして割れ目方向と調和的に分布している。	49.83	52.07	硬さBと堅硬で70～40°の割れ目が主体である。上端側の49.83～~~50.04~~mと50.24～50.32mは緑灰色(7.5GY 5/1)化する(緑泥石化)。粘土化部や粘土層は~~伴なわない~~が、緑色化部下盤側の50.04～50.11mは若干風化し、割れ目の一部にごく薄い風化砂を~~挟む~~。緑灰色部はまとして割れ目方向と調和的に分布している。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・コアに合わせて深度を変更した(50.04⇒50.03) ・表現の適正化(伴う、挟む) ・下端側が必ずしも下盤とは限らないため下端に変更した。
169	49.83	50.00	(色調欄)7.5YR5/2区掲	49.83	50.00	(色調欄)7.5GY5/1緑灰									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて色調を変更した
170	50.81	50.81	40°はせん断性割れ目で、交差する55°割れ目を切っている(変位量10mm左ズレ)	50.81	50.81	40°~~のせん断性~~割れ目は、交差する55°割れ目を止めている。~~切っている(変位量10mm左ズレ)~~割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・変位基準としたN55°の割れ目は、40°の割れ目と交差する岩所で上端側と下端側の値が異なりズレて見えるが、コアの中心部では1枚の面を形成してそこではズレが見られないため「切っている」を「止めている」に変更し、変位量の記載を削除した。 ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した
171	51.30	51.33	51.30m=38°、51.33m=47°の各割れ目にϕ0.1mmと微細な金属鉱物(黄鉄鉱)が晶出している。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
172	51.44	51.56	割れ目ぞいにやゝ風化進む。	~~51.44~~	~~51.56~~	~~割れ目ぞいにやゝ風化進む~~。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目沿いの風化は認められないため削除した
173	51.44	51.56	(風化欄)βランク	51.44	51.56	(風化欄)γランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と同様の風化の程度であるため風化のランクをγランクに変更した。
174	51.80	51.80	25°割れ目に方解石と推定される白色鉱物が割れ目の一部に幅1mmの脈状に分布。	51.80	51.80	25°割れ目に白色鉱物が割れ目の一部に幅1mmの脈状に分布。									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・方解石ではないため削除した
175	51.56	52.07	80～90°の低密着割れ目が連続する。挟在物はない。	~~51.66~~	52.07	80～90°の低密着割れ目が連続する。挟在物はない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・掘起の修正(51.56⇒51.66、高角度の低密着割れ目の分布から掘起と判断)
176	52.07	52.55	硬さEのϕ10～30mm主体の岩片と、岩片間を縫うように分布する幅1～5mmの軟弱な区白色(5GY 8/1)～白色粘土脈からなる変質部。	52.07	52.55	硬さEのϕ10～30mm主体の岩片と、岩片間を縫うように分布する幅1～5mmの~~軟質~~な区白色(5GY 8/1)～白色粘土脈からなる変質部。						○	○		-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の統一(軟弱⇒軟質)
177	52.07	52.07	45°幅1～3mm、の白色硬質粘土脈は方解石と推定される。	52.07	52.07	45°幅1～8mmの白色硬質~~石英脈~~。									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・実態に合わせて変更した
178	52.52	52.52	25°幅2～5mmの白色硬質粘土脈は方解石と推定される。25°の方解石脈は明オリーブ区(5GY 7/1)の幅2～3mmの軟質粘土を伴う。	52.52	52.52	25°幅2～5mmの白色硬質~~石英脈~~、明オリーブ区色(5GY 7/1)の幅2～3mmの~~軟質~~粘土を伴う。									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・実態に合わせて変更した ・掘起の修正(「色」の記載漏れ) ・表現の適正化(軟弱⇒軟質)
179	52.55	52.97	不特定方向の割れ目、低密着割れ目が多く、ϕ10～30mmの硬さDの岩片からなる。両者の一部には幅0.5～1mmの方解石脈や、52.82m～28°、割れ目には幅2mmの軟弱な緑灰色粘土脈をはさむ。	52.55	52.97	不~~規則~~な割れ目、低密着割れ目が多く、ϕ10～30mmの硬さDの岩片からなる。両者の一部には幅0.5～1mmの~~石英脈~~や、52.82m～28°、割れ目には幅2mmの~~軟質~~な緑灰色粘土脈を~~挟む~~。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(不特定方向⇒不規則な、軟弱⇒軟質、挟む) ・実態に合わせて石英脈に変更した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名:H24-D1-4

○:記載有り　なし:該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－:該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード															記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)													破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか? ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・褐鉄の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形状、含有物(有機質、異質など)を明確的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海況度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鍵層作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	地質名 ・岩種及びその区間深度を明確的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・性、岩品の含有率などを記載	色調 ・褐鉄の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	熱電等の割れ目 ・問系統の割れ目の特徴を持つ区間を求めて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や推定物の種類を明確的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、凍石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hi) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・気かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・延伸構造、複合面構造、葉理構造、剪断構造、剪断目粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	鍵盤作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	
180	52.97	53.46	破砕帯	52.97	53.46	破砕部																						・用語の統一(破砕帯→破砕部)
181	52.97	53.05	Hb 上端50°、下端50°で、固者とも直線的でシャープに連続、φ1～2mm石英粒とφ5～10mmの欠米が粘土化したGo岩片を多く含む軟弱な灰白色(10YR 8/1)の褐質粘土、厚さ40mm	52.97	53.05	Hb 上端50°、下端50°で、固者とも直線的でシャープに連続、φ1～2mm石英粒とφ5～10mmの欠米が粘土化したGo岩片を多く含む軟質な灰白色(10YR 8/1)の粘土質褐状部、厚さ40mm。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。																							・表現の適正化(軟質⇒軟質) ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
182	53.05	53.05	Hc-1(主せん断面) 45°、幅3mmで直線的でシャープに連続する、軟弱な褐灰色(7.5YR 6/1)粘土、φ1～2mm石英粒を少量含む。	53.05	53.05	Hc-1(長断活動面) 45°、幅3mmで直線的であるが、連続しない、軟質な褐灰色(7.5YR 6/1)粘土、φ1～2mm石英粒を少量含む。周囲との境界は漸移的。																							・長断活動面という用語に統一 ・表現の適正化(軟質⇒軟質) ・境界、細粒部の連続性・直線性について修正・追記した
183	53.05	53.10	Hb 上端50°、下端不明瞭で、上端は直線的でシャープに連続、φ1～3mm石英粒、φ5～10mmの一部粘土化、一部硬質の岩片を多く含む灰白色(10YR 8/1)の褐質粘土、厚さ30～40mm。	53.05	53.10	Hb 上端50°、下端不明瞭で、上端は直線的でシャープに連続、φ1～3mm石英粒、φ5～10mmの一部粘土化、一部硬質の岩片を多く含む灰白色(10YR 8/1)の粘土質褐状部、厚さ30～40mm。軟質、含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。																							・褐主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・上記の境界の修正に伴い、上端境界の記載を変更した。 ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
184	53.10	53.44	Hi 上端不明瞭、下端45°で、上端はコア回転のため不明瞭、下端はやゝ波打って連続する。φ5～20mmの硬質Hb粘土化した基質からなる角礫状構造部で、基質中には幅1～2mmの軟質な白色(10Y 8/1)～褐灰色(5GY 5/1)粘土脈が10～50°で分布する。全体的には粘土質り岩片状で、緑灰(7.5GY 5/1)～にぶい橙(7.5YR 6/4)～灰白(10YR 8/1)を呈する。厚さ40mm(コア表)	53.10	53.44	Hi 上端不明瞭、下端45°で、上端はコア回転のため不明瞭、下端はやゝ波打って連続する。φ5～20mmの硬質Hb粘土化した基質からなる角礫状部で、基質中には幅1～2mmの軟質な白色(10Y 8/1)～褐灰色(5GY 5/1)粘土脈が10～50°で分布する。全体的には粘土質り岩片状で、緑灰(5GY 5/1)～にぶい橙(7.5YR 6/4)～灰白(10YR 8/1)を呈する。厚さ40mm(コア表)。やや軟質、含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。																							・角礫主体であるため破砕部内物質の名称を変更した(岩片状⇒角礫状) ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(やや、角礫構造部⇒角礫状部、軟質⇒軟質、混じり) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ) ・現さとしてコア長を記載したものは、異端ではないため削除した
185	53.44	53.46	Hc-2 上端45°、下端45°で、上端はやゝ波打って、下端は直線的でシャープに連続、φ1mm石英粒とφ3mm軟質の粘土化したGo岩片を少量含む軟弱な灰白色(10YR 8/1)～緑灰(7.5GY 5/1)粘土、厚さ24～12mmと薄い。	53.44	53.46	Hb 上端45°、下端45°で、上端はやや波打って薄移的、下端は直線的でシャープに連続、φ1mm石英粒とφ3mm軟質の粘土化したGo岩片を少量含むやや軟質な灰白色(10YR 8/1)～緑灰色(7.5GY 5/1)の粘土質褐状部、厚さ4～12mmと薄い。含まれる細粒部は直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。																							・褐主体であるため破砕部内物質の名称及び破砕度区分を変更した。 ・上端境界は一部ゆとの境界が不明瞭であるため「薄移的」を追記した。 ・上位のHb同様の硬さであるため硬軟を変更した ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(やや、軟質⇒軟質) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)
186	53.44	53.46	(破砕度区分欄)Hc-2	53.44	53.46	(破砕度区分欄)Hb																						・上記の記載に合わせて破砕度区分を変更した
187	52.46	53.68	脆しく軟化する。53.55m~55°、53.67m~70°の各割れ目に各々幅1mm、2～4mmの軟質な緑灰色(7.5GY 5/1)粘土脈をはさむ。	53.46	53.68	著しく軟質化する。53.55m~55°、53.67m~70°の各割れ目に各々幅1mm、幅2～4mmの軟質な緑灰色(7.5GY 5/1)粘土脈を挟む。																						・脈記の修正(52.46⇒53.46、脆しく⇒著しく、「幅」の記載漏れ) ・表現の適正化(軟質化、軟質⇒軟質、挟む)
188	53.68	56.54	区間中央部の54.44～54.64m2.54.98～55.41mは硬さので、そのよ下が硬さで、コア形状は全区間でVとそろっキーである。割れ目は30～40°とこれらに斜交～直交する60～80°割れ目と低密度割れ目が主体である。	－	－	－																						
189	－	－	－	53.89	53.89	傾斜20°、幅1～2mmの白色鉱物脈を挟み、その下位に幅10mmでかり長石が濃集した脈を伴う。																						・白色鉱物脈、かり長石が濃集した脈は周囲と異なる状況であるため追記した
190	55.41	－	55.41m以深では割れ目ぞいに砂状化することが多く、一部の割れ目に幅1mm程度の軟質～やや硬質な白色粘土が付着することがある。粘土脈としては連続しない。	55.41	－	55.41m以深では割れ目沿いに砂状化することが多く、一部の割れ目に幅1mm程度の軟質～やや硬質な白色粘土が付着することがある。粘土脈としては連続しない。																						・表現の適正化(沿い、軟質⇒軟質、やや) ・表現の統一(固結⇒硬質)
191	54.44	54.44	70°幅3～8mmで方解石脈が分布。上盤側境界は割れ目化する。下盤は母盤に密着しており、54.44m で65°せん断性割れ目に切られる。(変位量3mm左ズレ) 65°はせん断性割れ目で、上記の方解石脈を切っている(変位量3mm右ズレ)	54.44	54.44	70°幅3～8mmで方解石脈が分布。上盤側境界は割れ目化する。下盤は母盤に密着しており、54.44m で65°せん断性割れ目を横断する。に切られる。(変位量3mm左ズレ) 65°のせん断性割れ目は、上記の方解石脈に横断される。を切っている(変位量3mm右ズレ)割れ目には鉱物が認められない。割れ目間近の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																						・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。 ・方解石脈がズレているように見えるが、コア裏砕鉄神にズレた人為的なものであるため切られる」を「横断する」に変更し、変位量の記載を削除した ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した
192	54.44	54.64	割れ目ぞいに砂状化とφ5mm～10mmに細片化する。	54.44	54.64	割れ目沿いに砂状化とφ5mm～10mmに細片化する。																						・表現の適正化(沿い、mmの削除)
193	54.44	54.64	(風化欄)3ランク (変質欄)2ランク	54.44	54.64	(風化欄)ｱランク (変質欄)3ランク																						・風化の程度がやや弱く、変質の程度がやや強いため風化、変質のランクを変更した
194	54.98	55.41	(風化欄)3ランク	54.98	55.41	(風化欄)ｱランク																						・風化の程度がやや弱いため風化のランクをｱランクに変更した
195	54.98	55.00	(変質欄)2ランク	54.98	55.00	(変質欄)3ランク																						・変質の程度がやや強いため変質のランクを3ランクに変更した
196	－	－	－	55.07	55.07	傾斜55°、幅1mmの暗灰色粘土を挟む。																						・暗灰色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した
197	55.41	55.41	55°はせん断性割れ目で、上盤側の20°割れ目、下盤側の80°割れ目のいずれもが切られている(変位量不明)。	55.41	55.41	55°のせん断性割れ目で、上盤側の20°割れ目、下盤側の80°割れ目のいずれもが止まっている。切られている(変位量不明)。割れ目には鉱物が認められない。割れ目間近の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																						・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。 ・せん断性割れ目としたものは連続ではなく断しているため、せん断性割れ目ではないと判断して「切られる」を「止まっている」に変更し、変位量の記載を削除した。 ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した
198	－	－	－	55.80	55.80	傾斜60°、幅1mm以下の暗灰色粘土と幅0～3mmの不連続な方解石脈を挟む。																						・暗灰色粘土、方解石脈は周囲と異なる状況であるため追記した
199	56.18	56.23	56.18m~50°～56.23m~50°の各割れ目に囲まれてやや軟化する	56.18	56.23	56.18m~50°～56.23m~50°の各割れ目に囲まれてやや軟化する																						・表現の適正化(やや、軟質化)
200	56.54	56.57	上端60°、下端60°で、上端は直線的でシャープであるが、浅部側延長部で80～70°で大きく湾曲、下端は1ヶ所で屈曲してシャープに連続する。φ1mm軟質の石英粒とφ5～10mmの粘土化した岩片を多く含む軟質な白色の褐質粘土で全体の色調は灰白(7.5YR 8/1)～明褐灰(7.5YR 7/2)でまだら模様を呈する。厚さは10～15mmで、粘土脈浅部側の56.52m付近で粘土脈はつゴに枝分かれする。	56.54	56.57	変質部 上端60°、下端60°で、上端は直線的でシャープであるが、浅部側延長部で80～70°で大きく湾曲、下端は1箇所で屈曲してシャープに連続する。φ1mm軟質の石英粒とφ5～10mmの粘土化した岩片を多く含む軟質な白色の粘土質褐状部で全体の色調は灰白(7.5YR 8/1)～明褐灰色(7.5YR 7/2)でまだら模様を呈する。厚さは10～15mmで、粘土脈浅部側の56.52m付近で粘土脈はつゴに枝分かれする。																						・変質部であるため「変質部」と追記した ・表現の適正化(軟質、軟質⇒軟質、枝別れ⇒枝分かれ) ・褐主体であるため破砕部内物質を変更した ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)
201	56.77	57.63	硬さで見ほぼである。50～60°とこれと斜交～直交する20～60°割れ目が主体である。割れ目には砂、粘土など挟在物はない。一部で割れ目と同角度の低密着割れ目も分布する。	56.57	57.63	硬さで見ほぼである。50～60°とこれと斜交～直交する20～60°割れ目が主体である。割れ目には砂、粘土など挟在物はない。一部で割れ目と同角度の低密着割れ目も分布する。																						・脈記の修正(56.77⇒56.57) ・表現の適正化(同角⇒同角度)
202	57.63	57.75	50～60°割れ目、低密着割れ目が5～10mm間隔で平行に分布し軟化する。	57.63	57.75	50～60°割れ目、低密着割れ目が5～10mm間隔で平行に分布し軟質化する。																						・表現の適正化(軟質化)

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名 H24-D1-4

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　— 該当区間に対象物がないもの

コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード														
																破砕帯									
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形態、含有物（有機質、異型など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必須に応じて、硬軟、湿度、含水状態などを記載。	地層構造 ・層理、葉理、級化など	鑑識作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	地質名 ・層理及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩盤の種類・種、岩盤の含有率などを記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間を更えて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や検査物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべリス、リッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、漆石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	破砕度区分 ・記号（Hc,Hb,Hi） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の種界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 （実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破状構造、複合岩構造、葉理構造、明目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	鑑識作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	記事を削除・変更・追記した理由
203	57.75	58.37	硬さBで堅硬である。割れ目そのものはわずかであるが、58.00～58.15mを中心に40～50°の低密著割れ目が多い。砂、粘土の挟在物はない。また、57.90～57.37mに80～90°割れ目が連続し、他割れ目との交差部の一部は3～5mmに細片化する。	57.75	58.37	硬さBで堅硬である。割れ目そのものはわずかであるが、58.00～58.15mを中心に40～50°の低密著割れ目が多い。砂、粘土の挟在物はない。また、57.90～58.37mに80～90°割れ目が連続し、他割れ目との交差部の一部は3～5mmに細片化する。															

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名 :H24-D1-4

○ :記載有り　なし :該当区間に対象物はあるが、間面の状況と同様であるため記載していないもの　－ :該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは'-'で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか ☑	上端深度	下端深度	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物(有機質、異質など)を網羅的に記載。 ・その他、間面と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湧水度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	概査作業における特記事項 ・コア欠如、コア接続など	地質名 ・細種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・間面と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、岩品の種類・位、岩品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	整理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統集合代表的な割れ目の見かけの傾斜や後在物の種類を網羅的に記載。 ・間面と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、間口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・被覆岩 ・変種	破砕帯 破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hi) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破砕構造、複合面構造、葉理構造、網目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	概査作業における特記事項 ・コア欠如、コア接続など	記事を削除・変更・追記した理由
223	61.47	61.52	破砕帯	破砕部	61.47	61.52																					
224	61.47	61.52	Hb 上端5°、下端45°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～2mm石英粒、φ2～10mmの大半が粘土化したGa岩片を多く含むやや軟質な緑色を帯びた灰白色(7.5GY 8/1)の褐質粘土。厚さ50mm。	Hb 上端5°、下端45°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～2mm石英粒、φ2～10mmの大半が粘土化したGa岩片を多く含むやや軟質な緑色を帯びた灰白色(7.5GY 8/1)の粘土質褐状部で、厚さ50mm。変形した破粒部は明目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	61.47	61.52																					
225	61.52	61.52	Hc-1(主せん断面) 45°、幅1mmの軟質な暗緑灰色(7.5GY 4/1)粘土で直線的でシャープに連続する。	Hc-1(最新活動面) 45°、幅1mmの軟質な暗緑灰色(7.5GY 4/1)粘土で直線的でシャープに連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	61.52	61.52																					
226	61.52	62.42	20～60°とこれに斜交～直交する50～60°割れ目からなる。このうち、20～30°の割れ目は直線的でシャープに連続することが多い。割れ目は薄く砂状化したり、幅1mm前後の軟質な暗緑灰～灰白色の粘土ないし粘土膜をはさむことが多い。	20～60°とこれに斜交～直交する50～60°割れ目が発達する。このうち、20～30°の割れ目は直線的でシャープに連続することが多い。割れ目は薄く砂状化したり、幅1mm前後の軟質な暗緑灰～灰白色の粘土ないし粘土膜を挟むことが多い。	61.52	62.42																					
227	62.38	62.38	30°はせん断性割れ目で、交差する60°割れ目を切っている(変位量1mm右ズレ)。	30°のせん断性割れ目は、交差する60°割れ目をよどっている。切っている変位量1mm右ズレ。割れ目には後在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	62.38	62.38																					
228	62.42	62.49	上端25°、下端20°の割れ目に囲まれφ5mm前後の球状の岩片と粘土化著しい基質からなる。	-	-	-																					
229	62.49	62.74	変質で著しく軟化するが、割れ目の一部が残留する。割れ目は10～40°が主体で、幅0.5～1mmの暗緑灰色(7.5GY 4/1)、灰赤色(2.5YR 6/2)をはさむ。	変質で著しく軟質化するが、割れ目の一部が残留する。割れ目は10～40°が主体で、幅0.5～1mmの暗緑灰色(7.5GY 4/1)、灰赤色(2.5YR 6/2)の粘土膜を挟む。	62.49	62.74																					
230	62.67	62.67	40°は幅0.5mm灰赤色の軟質粘土をはさみ、その下盤側幅3～12mmにφ5mm前後の白色煙と軟質な白色粘土膜を伴う。	40°割れ目は幅0.5mm灰赤色の軟質粘土を挟み、その下盤側幅3～12mmにφ5mm前後の白色煙と軟質な白色粘土膜を伴う。	62.67	62.67																					
231	62.74	63.29	割れ目は消滅しかかるが、70°前後と40°前後の割れ目、低密著割れ目が残留する。粘土膜ははさまないが、岩片間に淡緑灰～白色粘土フィルムが付着することが多い。	割れ目は消滅しかかるが、70°前後と40°前後の割れ目、低密著割れ目が残留する。粘土膜は挟まないが、岩片間に淡緑灰～白色粘土フィルムが付着することが多い。	62.74	63.29																					
232	-	-	-	傾斜45°、幅8mm、灰色を呈する石英脈を挟む。	63.03	63.04																					
233	〃	-	-	傾斜45°、幅1～2mmの灰色粘土脈を挟む。	63.21	63.21																					〃
234	63.29	63.67	上位よりも著しく軟化する。63.38m=30°、63.49m=55°の2ケ所に割れ目が分布するが以外は消滅し、φ10mm前後の岩片間に幅1～2mmの軟質な白色粘土膜が網状に分布する。	上位よりも著しく軟質化する。63.38m=30°、63.49m=55°の2箇所に割れ目が分布するが以外は消滅し、φ10mm前後の岩片間に幅1～2mmの軟質な白色粘土膜が網状に分布する。	63.29	63.67																					
235	63.49	63.49	55°はせん断性割れ目で多数の幅1～2mmの軟質な白色粘土膜がはさまっている。	55°のせん断性割れ目で多数の幅1～2mmの軟質な白色粘土膜がはさまっている。切っている変位量不明。割れ目には幅0～1mmの暗灰色粘土を伴う。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	63.49	63.49																					
236	63.67	63.90	破砕帯	破砕部	63.67	63.90																					
237	63.67	63.83	Hi 上端45°、下端60°で、両者とも一部不明瞭で連続する。φ5～20mmの大半が粘土化したGa岩片と岩片間を幅1～2mmの軟質な白色粘土膜が網状に分布する。また、63.72m(45°、幅2～3mmの軟質な灰赤色(2.5YR 6/2)が直線的でシャープに連続している。全体的には粘土質り岩片状で、淡い緑色を帯びた灰白色(7.5Y 8/1)で厚さ150mm(コア長)	Hi 上端45°、下端60°で、両者とも一部不明瞭で連続する。φ5～20mmの大半が粘土化したGa岩片と岩片間を幅1～2mmの軟質な白色粘土膜が網状に分布する。また、63.72m(45°、幅2～3mmの軟質な灰赤色(2.5YR 6/2)粘土主体に、粘土の境界は漸移的で直線性に乏しい。全体的には粘土質り岩片状で、淡い緑色を帯びた灰白色(7.5Y 8/1)で厚さ150mm(コア長)。軟質、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	63.67	63.83																					
238	63.83	63.88	Hb 上端60°、下端70°で上端は不明瞭、下端は直線的でシャープに連続。φ5～10mmの一部粘土化、一部硬さの岩片を多く含む褐質粘土で基質中に幅2～3mmの赤灰色の軟質粘土を挟む～鱗平状に含む。全体にやや軟質な灰白(7.5Y 8/1)～赤灰(2.5YR 6/1)。厚さ20～30mm。	Hb 上端60°、下端70°で上端は不明瞭、下端は直線的でシャープに連続。φ5～10mmの一部粘土化、一部硬さの岩片を多く含む粘土質褐状部で基質中に幅2～3mmの赤灰色の軟質粘土を挟む～レンズ状に含む。全体にやや軟質な灰白(7.5Y 8/1)～赤灰色(2.5YR 6/1)。厚さ20～30mm。変形した破粒部は明目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	63.83	63.88																					
239	63.88	63.90	Hc-1(主せん断面=63.88m) 70°、幅5～10mmで直線的でシャープに連続するやや非固結の赤灰色(2.5YR 6/1)の粘土。岩干のφ1mm前後の石英粒を含む。	Hc-1(最新活動面=63.90m)(下端が固もシャープ) 70°、幅5～10mmで直線的でシャープに連続する硬質の赤灰色色(2.5YR 6/1)の粘土。岩干のφ1mm前後の石英粒を含む。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	63.88	63.90																					
240	63.90	64.05	硬さDのφ5～20mmGa岩片と、粘土化して著しく軟化した基質からなる。64.05m で10°の直線的でシャープな割れ目と接する。	硬さDのφ5～20mmGa岩片と、粘土化して著しく軟質化した基質からなる。64.05m で10°の直線的でシャープな割れ目で下位と境される。	63.90	64.05																					
241	64.05	64.57	(割れ目状態)イランク (コアの形状)Vランク (コアの硬さ)ビランク	(割れ目状態)ヒランク (コアの形状)BFランク (コアの硬さ)BランクB	64.05	64.57																					
242	64.05	65.93	(岩級区分)CL	(岩級区分)CM	64.05	65.93																					
243	64.05	64.57	一部に硬さBを混える硬さCの岩片主体、互いに交差する70°前後の割れ目、低密著割れ目が主体で、交差部の一部でφ10～20mmの岩片に細片化している。割れ目には挟在物は分布しない。	一部に硬さBを混える硬さBの岩片主体、互いに交差する70°前後の割れ目、低密著割れ目が主体で、交差部の一部でφ10～20mmの岩片に細片化している。割れ目には挟在物は分布しない。	64.05	64.57																					
244	64.57	65.06	硬さBと堅硬で10～30°割れ目主体、同角の低密著割れ目も分布する。	硬さBと堅硬で10～30°割れ目主体、同角度の低密著割れ目も分布する。	64.57	65.06																					
245	64.83	64.83	60°割れ目に固結した幅1mmの緑灰色(7.5GY 6/1)粘土膜をはさむ。	60°割れ目に硬質な幅1mmの緑灰色(7.5GY 6/1)粘土膜を挟む。	64.83	64.83																					

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名 :H24-D1-4

○ :記載有り　なし:該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と問様であるため記載していないもの　－:該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード													記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)											破砕等								
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物(有機質、異物など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湧水量、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア擦乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、既述の種類・程、割晶の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流堆構造	熱程等の跡れ目 ・同系統の跡れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な跡れ目の見かけの傾斜や性状物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な跡れ目があれば、跡れ目の間隔、開口幅、跡れ目面の色調、跡れ目面のすべリ(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・熱機岩 ・岩理	破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hj) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の補足説 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・級伏構造、複合面構造、葉理構造、明目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア擦乱など	
246	65.00	70.00	(地質名欄)記載なし	65.00	70.00	(地質名欄)Gp								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・地質名欄の記載が漏れていたため追記した
247	65.06	66.65	30～60°ところどころに斜交～直交する40～80°跡れ目が主体で、跡れ目は直線的にシャープではなく波打ちながら不規則に連続するものが多い。砂状部や粘土部などはほぼないが、跡れ目沿いにφ5mm前後の細片化することがある。	65.06	66.65	30～60°ところどころに斜交～直交する40～80°跡れ目が主体で、跡れ目は直線的にシャープではなく波打ちながら不規則に連続するものが多い。砂状部や粘土部などは**検出されず**、跡れ目**沿**いにφ5mm前後に細片化することがある。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(挟む、沿い) ・鉛記の修正(前後⇒前後に)
248	65.06	66.65	(跡れ目状態欄)cランク	65.06	66.65	(跡れ目状態欄)bランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う跡れ目が少ないため跡れ目状態のランクをbランクに変更した
249	65.06	65.93	(コアの形状欄)Vランク	65.06	65.93	(コアの形状欄)IVランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位と同程度の跡れ目頻度であるためコアの形状のランクをIVランクに変更した
250	65.06	66.50	(コアの硬さ欄)cランク	65.06	66.50	(コアの硬さ欄)bランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは硬質なためコアの硬さのランクをbランクに変更した
251	65.09	65.31	65.09m～50°、65.31m～60°の各跡れ目ぞい、各々5～20mm、5mmが緑灰色化し、φ0.5mm以下の微小な金属鉱物(黄鉄鉱)が少量晶出している。	65.09	65.31	65.09m～50°、65.31m～60°の各跡れ目**沿**い、各々幅5～20mm、幅5mmが緑灰色化し、φ0.5mm以下の微小な金属鉱物(黄鉄鉱)が少量晶出している。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い) ・鉛記の修正(幅)の記載漏れ)
252	66.50	66.65	55～60°の跡れ目がほぼ平行に5～20mm間隔で分布する。粘土はほとんどない。	66.50	66.65	55～60°の跡れ目が**ほぼ**平行に5～20mm間隔で分布する。粘土は**挟まない**。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(ほぼ、挟む)
253	66.50	66.65	(コアの硬さ欄)bランク	66.50	66.65	(コアの硬さ欄)cランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをcランクに変更した
254	66.64	66.64	65°跡れ目ぞい幅5mmが淡緑灰色(緑泥石化)し、幅0.5mmの黄鉄鉱脈を伴う。	66.64	66.64	65°跡れ目**沿**い幅5mmが淡緑灰色**化**(緑泥石化)し、幅0.5mmの黄鉄鉱脈を伴う。								-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い) ・鉛記の修正(化)の記載漏れ)
255	66.65	67.05	主として変質で著しく軟化する。上端は65°跡れ目で直線的でシャープに接するが、下端は漸移的である。φ5～20mmの硬さの主体～～部粘土化した岩片と粘土化した基質からなる角礫構造部で、基質中には散在に幅1～2mmの軟弱な粘土～粘土脈が分布する。	66.65	66.85	変質部 主として変質で著しく**軟質**化する。上端は65°跡れ目で直線的でシャープに**上位の岩盤**と接するが、下端は漸移的である。φ5～20mmの硬さの主体～～部粘土化した岩片と粘土化した基質からなる角礫**状**部で、基質中には**所々**に幅1～2mmの**軟質**な粘土～粘土脈が分布する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・変質部であるため変質部と追記した ・表現の適正化(軟質化) ・ここ軟質な変質部としての下端深度を変更した ・表現の適正化(角礫構造部⇒角礫状部、所々、散弱⇒軟質) ・文章の適正化(上位の岩盤と接する)に変更した)
256	66.85	67.05	(跡れ目状態欄)cランク (コアの形状欄)VIランク (コアの硬さ欄)bランク	66.85	67.05	(跡れ目状態欄)aランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)bランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて跡れ目状態、コアの形状、コアの硬さのランクを変更した
257	67.05	67.88	跡れ目は一部が消滅、一部は60～70°主体に残留する。また、同角状の低密着跡れ目も多く分布。跡れ目の一部に幅1～3mmの軟弱な白色～暗緑灰色の粘土～粘土脈が分布する。	66.85	67.88	跡れ目は一部が消滅、一部は60～70°主体に残留する。また、同角**状**の低密着跡れ目も多く分布。跡れ目の一部に幅1～3mmの軟質な白色～暗緑灰色の**粘土**～粘土脈が分布する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて変質部の下端深度に上端深度を変更した ・表現の適正化(同角⇒同角度、軟弱⇒軟質) ・文章の適正化(「粘土～」を削除した)
258	67.51	67.88	(コアの硬さ欄)bランク	67.51	67.88	(コアの硬さ欄)cランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをcランクに変更した
259	67.88	67.88	65°はせん断性跡れ目で、交差する40～70°の低密着跡れ目多数を切っている(変位量不明)。	67.88	67.88	65°**のせん断性**跡れ目は、交差する60～70°の低密着跡れ目**を多数**とめているように見える。**各切っている(変位量不明)**。跡れ目には挟在物が認められるが、跡れ目の凹凸が著しい、跡れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な跡れ目も存在しない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・せん断性跡れ目とした跡れ目は凹凸が著しく、この跡れ目より深い側は変質して跡れ目の存在が不明瞭になっているため切っているかは不明であり、そのため、「切っている」を「とめている」に変更し、変位量の記載は削除した ・跡れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性跡れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した
260	67.88	67.98	上端65°、下端55°の跡れ目で囲まれ、変質と風化で著しく軟化する。せん断面は分布しない。	67.88	67.98	上端65°、下端55°の跡れ目で囲まれ、変質と風化で著しく軟質化する。せん断面は分布しない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(軟質化)
261	67.98	70.00	硬さO主体で、一部に硬さCが分布。跡れ目の一部は砂状化～細片化(φ5mm前後)。全体に粘土化は殆んどないが、69.80m以深には、幅1mm以下の軟質な白色粘土～粘土脈が少量分布する。跡れ目、低密着跡れ目は50～70°が主体である。しばしば、幅1～3mmの軟弱な暗緑灰色粘土を40～70°ではさむ。	67.98	70.00	硬さO主体で、一部に硬さCが分布。跡れ目の一部は砂状化～細片化(φ5mm前後)。全体に粘土化は殆んどないが、69.80m以深には、幅1mm以下の軟質な白色粘土～粘土脈が少量分布する。跡れ目、低密着跡れ目は50～70°が主体である。69.32m、69.57m、69.84mに幅1～2mmの軟質な暗緑灰色粘土を40～70°で挟む。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・具体的な深度を追記した ・表現の適正化(軟弱⇒軟質、挟む)
262	68.43	68.69	(コアの硬さ欄)bランク	68.43	68.69	(コアの硬さ欄)cランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをcランクに変更した
263	69.52	69.75	69.52m･70°、69.75m･70°ほともにせん断性跡れ目で、交差する多数の跡れ目を切っている(変位量不明)	69.52	69.75	69.52m･70°、69.75m･70°**のほともにせん断性**跡れ目は、交差する多数の跡れ目**をとめている。切っている(変位量不明)**。跡れ目には挟在物が認められない。跡れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な跡れ目も存在しない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・いずれもせん断性跡れ目とした跡れ目を複断する跡れ目が見られるためが「切っている」を「とめている」に変更し、変位量の記載は削除した ・跡れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性跡れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した

H27－B－3

[redacted]

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名 H27-B-3

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード														
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を半書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか？	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形態、含有物(有機質、異型石)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湧水量、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化などを記載。	掘進作業における特記事項 -コア欠損、コア破砕など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、頻度の情報・但、頻度の低き岩石などを記載。	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載。	流理構造	鉱理等の誤れ目 ・同系統の誤れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な誤れ目の見かけの傾斜や鉱物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な誤れ目があれば、誤れ目の間隔、開口幅、誤れ目面の色調、誤れ目面のすべりスリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載。	鉱物脈 ・石英脈、凍石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・構造岩 ・岩種	破砕帯 破砕区分 ・記号(Hc,Hb,Hj) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・現状構造、堆積構造、風化構造、岩種構造、明日状態など	最新造影図(設定した場合)	空隙の状況	掘進作業における特記事項 -コア欠損、コア破砕など	記事を削除・変更・追記した理由
1	-	-	-	0.00	10.05	盛土			-	-	-															・表現の統一(盛土) ・人工堆積物の区間を追記した
2	0.00	1.70	埋積土 ボーリング昭削に先立ち、地下埋設物確認のため手掘りの試掘を行い、その埋戻土。	0.00	1.70	埋戻土 ボーリング昭削に先立ち、地下埋設物確認のため手掘りの試掘を行った際の試料。いーその埋戻土。			-	-	○															・表現の統一(0.00) ・人工堆積物の地質名の記載を削除した
3	0.00	0.35	砕石	0.00	0.35	礫 径2～3cm程度の黒色砂岩の角礫からなる。			-	-	-															・表現の統一(0.00) ・砕石を地質名に変更した ・礫径、礫の形状、岩種名を追記した
4	0.35	1.70	埋立土 埋戻し砂～被覆砂	0.35	1.70	埋立土 埋戻し砂～被覆砂 径2～20mm程度の花崗岩質、黒色砂岩の角～亜角礫を50%は下で含む粗粒砂からなる、ルーズ。			-	-	-															・表現の適正化(埋し) ・構成物を追記した
5	1.70	10.05	盛土 構造物基礎の盛土部 よく締った埋立し砂砂～粗砂～砂礫からなる。	1.70	10.05	盛土 構造物基礎の盛土部 よく締った埋立し粗砂～粗砂～砂礫からなる。			○	-	-															・盛土の記載は、0.00～10.05mの記事にまとめて示したため削除した。 ・構造物基礎の盛土部は、コア観察だけからは判断できないため削除した
6	1.70	5.27	砂	-	-	-			-	-	-															
7	2.40	2.80	2.4～2.8m間の水平性誤れ目は掘削後の乾燥による収縮クラック。	2.40	2.80	2.40～2.80m間の水平性誤れ目は掘削後の乾燥による収縮クラック。			○	-	○															・表現の統一(深度の表示)
8	3.50	-	3.50m以深では粗粒砂が主体となる。	-	-	-			-	-	-															
9	3.61	3.67	マンガンで表面が黒色化した石英粒が混濁している。	-	-	-			○	-	-															
10	5.27	5.60	砂礫	5.27	5.60	砂礫 径2～80mm程度の花崗岩質、砂岩の亜角礫を含む粗粒砂からなる。	○	○	-	-	-															・構成物を追記した
11	5.60	7.07	砂 中粒砂主体で残状、 ラミナなどの堆積構造は分布しない。 △2～3mm石英粒多少量(5%未満)含む。	5.60	7.07	砂 中粒砂主体で残状、 ラミナなどの堆積構造は分布しない。 △2～3mm石英粒多少量(5%未満)含む。			○	-	-															・表現の適正化(m/m→mm)
12	6.50	-	6.5m以深では掘る。	6.50	-	6.50m以深では掘る。			○	-	-															・表現の統一(深度の表示)
13	7.07	8.01	砂礫	7.07	8.01	砂礫 径2～170mm程度の花崗岩質の角～亜角礫を含む粗粒砂からなる。			-	-	-															・構成物を追記した
14	8.01	8.37	砂	-	-	-			-	-	-															
15	8.37	10.05	砂礫	8.37	10.05	砂礫 径2～80mm程度の花崗岩質、砂岩の亜角礫を含む粗粒砂からなる。			-	-	-															・構成物を追記した
16	9.21	9.66	腐食した鉄棒を含むモルタル(一部にCo細骨材少量含む)	-	-	-			○	-	-															
17	9.80	10.03	9.80m と10.03m付近モルタル含む	9.80	9.80	9.80m付近モルタル含む			○	-	-															・10.03mはモルタルではなくスライムのシルトであるため削除した
18	-	-	(着岩)	-	-	-			-	-	-															
19	-	-	φ1～3m/m石英、長石を斑晶とする花崗閃岩(Go)。 長石は白濁化することが多い。	10.05	100.00	花崗閃岩 φ1～3mm石英、長石を斑晶とする花崗閃岩(Go)。 長石は白濁化することが多い。						-														・地質名及び区間深度を追記した ・表現の適正化(mm)
20	10.05	12.96	CL 硬さ「D」主体で上端側の10.05～11.20mと中央部の11.82～12.00mは風化が進んだ硬さ「D」である。 硬さ「C」区間の一部で誤れ目に挟在物を含まない部分があるが多くは風化により砂や変質粘土を狭状に挟んでいる。 長石は多くが白濁化している。	-	-	-						-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
21	10.70	10.80	硬さ「C」の硬質岩片が残留する。	-	-	-						-														
22	11.20	11.82	硬さ「C」主体で挟在物も少ない。 一部で密度度の低い誤れ目を含んでいる。	-	-	-						-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
23	11.40	11.55	誤れ目が交差し岩片化するが劣化は伴わない。	11.40	11.55	誤れ目が交差し岩片化するが劣化は伴わない。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(伴う)
24	11.82	12.00	上下位よりも軟化する。 下端部の11.97～12.00mは粘土化が進んでいる。	11.82	12.00	上下位よりも軟化する。 下端部の11.97～12.00mは粘土化が進んでいる。						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(軟質化)
25	12.00	12.99	硬さ「C」主体であるが、誤れ目ぞい厚さ1m/m程度と薄く砂状化することが多い。 また、各誤れ目は粘度にマンガン鉱染受け、面の一部は高規色化する。	12.00	12.99	硬さ「C」主体であるが、誤れ目沿い厚さ1mm程度と薄く砂状化することが多い。 また、各誤れ目は粘度にマンガン鉱染受け、面の一部は高規色化する。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、mm)
26	12.96	14.62	D、CL 上端側と下端側はD級、中央部はCL級が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」であるが岩組織や誤れ目は残留しているがを後に緩った砂状化が進み、極々区自色の粘土を0.5m/m前後の既点状～幅1～3m/mの狭状に含んでいる。	12.96	14.62	D、CL 上端側と下端側はD級、中央部はCL級が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」であるが原岩組織や誤れ目は残留しているがを後に砂状化が進み、所々、区自色の粘土を0.5m前後の既点状～幅1～2mmの狭状に含んでいる。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(原岩組織、緩った→硬質な、所々、mm)
27	13.64	14.30	硬さ「C」岩片主体で20～40°の密着度の低い誤れ目が同方向に1～2cm間隔で分布。	-	-	-						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
28	13.64	14.30	コアの硬さ欄にDランク	13.64	14.30	コアの硬さ欄にCランク						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・記事欄に合わせてコアの硬さランクをCランクに変更した
29	14.22	14.22	43°幅1m/m軟質黄褐色粘土をはさむ誤れ目(u)交差する60°幅1m/m石英脈をかりている(変位量1m/m、右ズレ)	14.22	14.22	43°幅1mm軟質黄褐色粘土を挟む誤れ目(u)、交差する60°幅1mm石英脈をこのている。切っている変位量1mm、右ズレ) 誤れ目間隔の狭間に原岩組織は認められ、系統的な誤れ目も存在しない。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・43°の誤れ目は各石英脈を補修しているため「切っている」をしているに変更。(u)及び変位量についての記載を削除した ・誤れ目間隔の状況について追記した ・表現の適正化(挟む、mm)
30	14.30	14.62	上端17°幅1～5m/m軟質赤区色粘土。 下端50°誤れ目で固まれ著しく軟化しているが、一部に硬さ「D」も残留。 岩組織や誤れ目はわずかに残留している。 処々に幅1～2m/mの軟質区白色粘土を狭状に含んでいる。	14.30	14.62	上端17°幅1～5mm軟質赤区色粘土。 下端50°誤れ目で固まれ著しく軟質化しているが一部に硬さ「D」も残留。 原岩組織や誤れ目はわずかに残留している。 所々に幅1～2mmの軟質区白色粘土を狭状に含んでいる。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(所々、mm、軟質化、原岩組織)
31	14.30	14.62	(岩級区分欄)D	14.30	14.62	(岩級区分欄)CL						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-3）

孔名：H27-B-3

○：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード																記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 （変更箇所を本書きで表示） （変更していないものは「-」で表示）																						
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形状、含有物（有機質、異物など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海況度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア接乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、現品の種類・性、現品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流現構造	態現等の跡れ目 ・同系統の跡れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統集合代表的の跡れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な跡れ目があれば、跡れ目の間隔、開口幅、跡れ目面の色調、跡れ目面のすべりリス（リッカンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、凍石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	被擦痕 ・岩種 ・性状	破砕等 破砕度区分 ・記号（Hc,Hb,Hd） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・結状構造、複合面構造、葉理構造、明白な級化など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア接乱など	
32	14.62	20.04	CL 20～40°　跡れ目主体で、跡れ目ぞいに風化で砂状化が拡大している部分も含んでいる。	14.62	20.04	CL 20～40°　跡れ目主体で、跡れ目沿いに風化で砂状化が拡大している部分も含んでいる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い）
33	-	16.49	上端側の16.49m以浅は硬さ「D」主体、16.49m以深は硬さ「C」主体である。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
34	15.33	15.43	風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟化著しい。上下端とも35°前後の跡れ目である。	15.33	15.43	風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟質化著しい。上下端とも35°前後の跡れ目である。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（軟質化）
35	15.73	15.80	80°　跡れ目ぞいに薄くマンガン鉱染受ける。	15.73	15.80	80°　跡れ目沿いに薄くマンガン鉱染受ける。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い）
36	16.31	16.31	50°　跡れ目ぞいに幅5～15m/m半固結状白色シルト～粘土はさむ。	16.31	16.31	50°　跡れ目沿いに幅5～15mmやや硬質な白色シルト～粘土挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（挟む、沿い、mm） ・表現の統一（半固結状→やや硬質な）
37	16.49	16.49	35°　跡れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い跡れ目を含んでいる。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
38	16.76	16.87	φ10～20m/mの岩片状呈する。岩片間は幅1～2m/m程度砂状化。	16.76	16.87	φ10～20mmの岩片状呈する。岩片間は幅1～2mm程度砂状化。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm）
39	17.13	17.31	跡れ目の一部に幅1～2m/mの軟質灰白色粘土をはさむ。	17.13	17.31	跡れ目の一部に幅1～2mmの軟質灰白色粘土を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（挟む、mm）
40	17.40	19.00	密着度の低い風化跡れ目を含む。ハンマーの打撃でこれら跡れ目ぞいの一部は分離、細片化する。既に跡れ目化し、開口しているものも多い。	17.40	19.00	密着度の低い風化跡れ目を含む。ハンマーの打撃でこれら跡れ目沿いの一部は分離、細片化する。既に跡れ目化し、開口しているものも多い。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い）
41	17.85	18.00	跡れ目が交差、一部φ20～30m/mに岩片化、粘土や砂ははさまない。	17.85	18.00	跡れ目が交差、一部φ20～30mmに岩片化、粘土や砂は挟まない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（挟む、mm）
42	18.05	18.47	珪化変質により石英重多くなり硬化している。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
43	18.43	20.04	一部の跡れ目ぞいや岩芯がマンガン鉱染受け、黒褐色化するが劣化は伴なわない。	18.43	20.04	一部の跡れ目沿いや岩芯がマンガン鉱染受け、黒褐色化するが劣化は伴わない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い、伴う）
44	18.90	18.90	50°　跡れ目幅1～5m/m淡黄褐色砂はさむ。	18.90	18.90	50°　跡れ目幅1～5mm淡黄褐色砂挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（挟む、mm）
45	19.59	19.59	40°と80°　跡れ目が交差。80°　跡れ目は40°　跡れ目に切られている。 40°　跡れ目は18.65mで幅10m/m砂状化するが下位に向うにつれて跡れ目は開して伴う。砂の挟雑物も分布しなくなる。	19.59	19.59	40°と80°　跡れ目が交差。80°　跡れ目は40°　跡れ目によれられる。切られている。 80°　跡れ目は19.65mで幅10mm砂状化するが、下位に向うにつれて跡れ目は開していき、砂の挟在物も分布しなくなる。 40°の跡れ目の細粒部は局所的、跡れ目周辺の岩盤に原岩組織は認められ、系統的跡れ目も存在しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・40°の跡れ目の近傍にある同系統の跡れ目とは交差しているため「切られている」を「よめられる」に変更した。 ・跡れ目及び周辺の状況について追記した。 ・表現の適正化（mm、向から、いき） ・誤記の修正（挟雑物→挟在物）
46	20.04	20.93	CM 一部に密着度の低い跡れ目を含むが、岩片は堅硬。 長石の一部は自溶するが、未変質で残留するものが多い。 跡れ目挟在物は泡と分布しない。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
47	20.93	26.70	CL 45°　前後の跡れ目主体。一部で70～90°　の高角度跡れ目と交差。 跡れ目ぞいに薄く砂状化するが、部分的に砂状化が拡大する部分も含む。 また、所々幅1～2m/m軟質な白色粘土脈をはさむ。 上端側の22.69m以浅は硬さ「D」、22.69～23.71mは硬さ「C」、23.71m以深は硬さ「D」が主体で、硬さ「C」主体の区間では跡れ目に挟在物が分布しないものが多い。	20.93	26.70	CL 45°　前後の跡れ目主体。一部で70～90°　の高角度跡れ目と交差。 跡れ目沿いに薄く砂状化するが、部分的に砂状化が拡大する部分も含む。 また、所々幅1～2mm軟質な白色粘土脈を挟む。 上端側の22.69m以浅は硬さ「D」、22.69～23.71mは硬さ「C」、23.71m以深は硬さ「D」が主体で、硬さ「C」主体の区間では跡れ目に挟在物が分布しないものが多い。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（挟む、沿い、所々、mm）
48	-	-	-	21.14	21.24	上端42°、下端49°の跡れ目の間が全体的に風化し、砂状化が進んでいる。酸化、マンガン鉱染が見られる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・酸化、マンガン鉱染を伴う砂状化は周囲と異なる状況であるため追記した。
49	21.55	21.65	風化による砂状部と硬さ「C」ないし「D」岩片で砂礫状を呈する。 粘土は泡んど伴なわない。	21.55	21.65	風化による砂状部と硬さ「C」ないし「D」岩片で砂礫状を呈する。 粘土は泡んど伴わない。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（伴う）
50	21.70	22.40	高角度跡れ目を主体に、厚さ1m/m以下とごく薄くマンガン鉱染や幅1～2m/mの軟質な白色粘土脈が分布。	21.70	22.40	高角度跡れ目を主体に、厚さ1mm以下とごく薄くマンガン鉱染や幅1～3mmの軟質な白色粘土脈が分布。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm）
51	22.03	22.63	70～90°で湾曲して連続する跡れ目ぞいに幅5～10m/m砂状化し、幅1～2m/mの軟質粘土脈を伴う。	22.03	22.63	70～90°で湾曲して連続する跡れ目沿いに幅5～10mm砂状化し、幅1～2mmの軟質粘土脈を伴う。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い、mm）
52	22.10	22.45	一部に硬さ「G」岩片伴う。	22.10	22.45	一部に硬さ「G」岩片伴う。 高角度跡れ目沿いが風化している。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・風化について追記した
53	22.50	22.64	上端60°幅2～3m/m褐色粘土脈、下端45°幅1m/m褐色砂に挟まれて軟化著しく、一部で幅0.5m/m白色粘土脈を網状に伴う。	22.50	22.64	上端60°幅2～3mm褐色粘土脈、下端45°幅1mm褐色砂に挟まれて軟質化著しく、一部で幅0.5mm白色粘土脈を網状に伴う。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm、軟質化）
54	22.91	23.49	40°前後の跡れ目が同方向に分布。これらに直交～80°斜交する60～80°跡れ目を切ることがある。	22.91	23.49	40°前後の跡れ目が同方向に分布。これらに直交～80°斜交する60～80°跡れ目をよめられることがある。 40°跡れ目の細粒部は、局所的で系統性に乏しい。跡れ目周辺の岩盤に変化が認められない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・40°前後の跡れ目と直交する跡れ目は規断するものも見られ、また、ズレの量も系統的ではない。 ・跡れ目及び周辺の状況について追記した。 ・上記及び追記した理由からせん断性跡れ目ではないと判断して「切る」を「よめる」に変更した。
55	23.45	23.71	幅1～3m/m軟質白色粘土脈をはさむ80°跡れ目が分布。	23.45	23.71	幅1～3mm軟質白色粘土脈を挟む80°跡れ目が分布。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（挟む、mm）
56	23.71	24.53	軟化し硬さ「D」主体。	23.71	24.53	軟質化、硬さ「D」主体。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（軟質化）
57	23.71	23.95	80～90°の高角度跡れ目はマンガン鉱染伴う。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
58	24.06	24.22	硬さ「C」主体。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
59	24.37	24.37	45°　厚さ2m/m石英脈	24.37	24.37	45°　厚さ2mm石英脈									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm）
60	24.53	26.70	硬さ「C」主体。 上位よりも跡れ目がやや少なくなる。	24.53	26.70	硬さ「C」主体。 上位よりも跡れ目がやや少なくなる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（やや）
61	24.60	24.92	80～90°跡れ目に厚1～5m/mのマンガン鉱染で黒褐色砂をはさむ。	24.60	24.92	80～90°跡れ目に幅1～5mmのマンガン鉱染で黒褐色砂を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（厚⇒幅、挟む、mm）
62	25.00	25.81	25.00～25.81m及び25.09～25.28m、85～90°跡れ目に厚31～2m/mで一部マンガン鉱染で黒褐色化した砂はさむ。 一部で風化により軟化し硬さ「D」の部分も認められる。	25.00	25.81	25.00～25.81m及び25.09～25.28m、85～90°跡れ目に厚31～2mmで一部マンガン鉱染で黒褐色化した砂挟む。 一部で風化により軟質化し硬さ「D」の部分も認められる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（挟む、mm、軟質化）
63	25.80	-	25.80m以深で跡れ目多くなる。 跡れ目ぞいに砂状化する部分が多い。	25.80	-	25.80m以深で跡れ目多くなる。 跡れ目沿いに砂状化する部分が多い。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い）

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名 H27-B-3

○ 記載有り　なし: 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と問様であるため記載していないもの　— 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード															
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)												破砕帯										
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか? ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、牌の種類及び粒形、含有物(有機質、異質など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湧水度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	節理状態 ・節理、ジョイ、コア接面など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、現品の種類・様、現品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造 ・流理構造が記事欄に記載	熱環等の跡孔目 ・開系統の跡孔目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な跡孔目の見かけの傾斜や焼在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な跡孔目があれば、跡孔目の間隔、開口幅、跡孔目面の色調、跡孔目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・熱種脈 ・岩種	破砕帯区分 ・記号(Hc,Hb,Hi) ・区分毎の区間深度	破砕度区分 ・焼在度 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・級状構造、複合薄構造、系構構造、網目状粘土など	鳥新活動面 (認定した場合)	空隙の状況	節理作用における特記事項 ・コア欠如、コア接面など	記事を削除・変更・追記した理由
64	26.22	26.22	50°割れ目は交差する高角度跡孔目を切っている。(走ズレ: 5m/m)	26.22	26.22	50°割れ目は交差する高角度跡孔目を止めている。切ったられた走ズレ=8mm) 割れ目の細粒部は局所的で連続性に乏しい。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・50°割れ目の浅い側に高角度跡孔目1条、深い側に2条あり、系統的なズレとして認められない。また、50°割れ目と交差する幅1mm程度の石英脈が見られるものが切っている)を「止めている」に変更し、変位量についての記載を削除した。 ・割れ目の挟在物について追記した
65	26.70	26.90	破砕帯(主せん断面26.70m)	26.70	26.90	破砕部(鳥新活動面26.71m)									-	-	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・鳥新活動面という用語に統一 ・鳥も鳥新的な面として鳥新活動面深度を26.71mに変更した
66	26.70	26.70	Hc-1 43°で上下端ともに直線的に連続、石英粒、岩片を含まない軟質粘土(ガウジ)、色調は淡黄(2.5Y8/3)、厚さ1m/m以下。	26.70	26.70	Hc-1 43°で上下端ともに直線的に連続、石英粒、岩片を含まない軟質粘土(ガウジ)、色調は淡黄色(2.5Y8/3)、厚さ1mm以下。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。									-	-	-								-	-	・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の統一(ガウジ→Hc-1に含んで表現) ・表現の適正化(mm) ・脱記の修正(「色」の記載漏れ)
67	26.70	26.90	Hb 上端43°で直線的に下端54°でやや湾曲して連続、φ2~3m/m石英粒、φ5~10m/m粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む軟質な破質粘土状を呈する。 下端は厚さ1~2m/mの粘土膜。 色調は灰白(2.5Y8/2~7.5YR8/2)、厚さ160~180m/m	26.70	26.90	Hi 上端43°で直線的に、下端54°でやや湾曲して連続、φ2~3mm石英粒、φ5~10mm粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む軟質な粘土混じり破状を呈する。 26.71m区間1mmで直線的な灰白色粘土(Hc-1)を挟む。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。 下端は厚さ1~2mmの粘土膜。 色調は灰白色(2.5Y8/2~7.5YR8/2)、厚さ160~180mm 含まれる細粒部は明目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									○	○	○	○			○				-	-	・被主体であるため破砕部内物質の名称及び破砕度区分を変更した。 ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・26.71m区間の直線的な粘土の挟在について追記した ・表現の適正化(やや、mm) ・脱記の修正(「色」の記載漏れ)
68	26.70	26.90	(破砕度区分欄)Hb	26.70	26.90	(破砕度区分欄)Hi									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の変更に伴い、変更した
69	26.90	27.57	D 27.00m以浅は砂質状、27.00m以深はバラけた礫状を呈するが、27.00m以深も本来は砂状の基質と岩片で形成されていると推定される。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
70	27.57	28.12	CL 硬さ「C」岩片も残留するが、全体的には硬さ「D」に軟化。 割れ目ずいに薄く砂や粘土をはさむことが多い。	27.57	28.12	CL 硬さ「C」岩片主体である。も残留するが、全体的には硬さが低に軟化。 割れ目沿いに薄く砂や粘土を挟むことが多い。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(挟む、沿い) ・コアはやや硬いことから、記載を変更した
71	-	-	-	27.98	27.98	37°割れ目に幅10mmの白色シルトを挟在する。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・白色シルトを挟在する割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した
72	28.12	28.14	(岩級区分欄)D	28.12	28.14	(岩級区分欄)CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
73	28.12	28.14	破砕帯(主せん断面28.12m)	28.12	28.14	破砕部(鳥新活動面28.12m)									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・鳥新活動面という用語に統一
74	28.12	28.12	Hc-1 43°で上下端ともに直線的に連続、φ1m/m石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)、色調は淡黄(7.5YR7/3)、厚さ1~3m/m。	28.12	28.12	Hc-1 43°で上下端ともに直線的に連続、φ1mm石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質粘土のみのレ。色調は淡黄色(7.5YR7/3)、厚さ1~3mm。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の統一(ガウジ→Hc-1に含んで表現) ・表現の適正化(mm) ・脱記の修正(「色」の記載漏れ)
75	28.12	28.14	Hi 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続、粘土化と砂状化の著しいφ3~5m/m岩片からなり、「粘土混じり、ないし粘土質岩片状」を呈する。 色調はにぶい黄橙(10YR7/4)、厚さ1~3m/m。	28.12	28.14	Hb 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続、粘土化と砂状化の著しいφ3~5mm岩片からなり「破質砂状」を呈する。 色調はにぶい黄橙色(10YR7/4)、厚さ5~7mm。 やや軟質で、下位との境界は一部漸移的で直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									○	○	○	○			○				-	-	・被を多く含む砂状であるため破砕部内物質の名称及び破砕度区分を変更した。 ・硬軟、下位との境界の性状、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・昭をコアに合わせて変更した(「径3~5mmの岩片を含む」の記載と不整合である) ・表現の適正化(mm) ・脱記の修正(「色」の記載漏れ)
76	28.12	28.14	(破砕度区分欄)Hi	28.12	28.14	(破砕度区分欄)Hb									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の変更に伴い、変更した
77	28.14	29.10	CL 硬さ「C」主体で、下端側の28.85m以深で硬さ「D」と風化で軟化。割れ目は直上位の破砕帯主せん断面と問方向に近い40~60°で分布する。	28.14	29.10	CL 硬さ「C」主体で、下端側の28.85m以深で硬さ「D」と風化で軟化化。割れ目は直上位の破砕部のHc-1の粘土と問方向に近い40~60°で分布する。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・主せん断面は評価結果であるため記載しないことし、Hc-1の粘土に変更した ・表現の適正化(軟質化)
78	29.10	29.12	(岩級区分欄)D	29.10	29.12	(岩級区分欄)CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
79	29.10	29.12	破砕帯(主せん断面29.10m)	29.10	29.12	破砕部(鳥新活動面29.10m) 鳥新活動面は上端か上端に近い面(共に29.10m)の可能性がある。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・鳥新活動面という用語に統一 ・鳥新活動面の可能性がある旨所を追記した
80	29.10	29.11	Hc-1 上端49°で直線的、下端50°で波打って連続、φ1m/m石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質~半固結状粘土(ガウジ)。 色調は、上端側:灰白(10YR8/2)、中央:灰黄褐(10YR4/2)、下端側:灰黄褐(10YR6/2)の縞状様移量する。厚さ5~10m/m。	29.10	29.11	Hc-1 上端49°で直線的、下端50°で波打って連続、φ1mm石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質~半固結状粘土のみのレ。 色調は、上端側:灰白色(10YR8/2)、中央:灰黄褐色(10YR4/2)、下端側:灰黄褐色(10YR6/2)の縞状様移量する。厚さ5~10mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									○	○	○			○	○		○		-	-	・軟質な部分が主体であるため硬軟を変更した ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の統一(ガウジ→Hc-1に含んで表現) ・表現の適正化(mm) ・脱記の修正(「色」の記載漏れ)
81	29.11	29.12	Hb 上端50°、下端45~55°でいずれも波打って連続、φ1~2m/m石英粒、φ3~5m/m粘土化岩片を20%程度含む半固結状の破質粘土状を呈する。色調はオリーブ色帯びた灰白色(7.5Y8/2)、厚さ7~11m/m。	29.11	29.12	Hb 上端50°、下端45~55°でいずれも波打って連続、φ1~2mm石英粒、φ3~5mm粘土化岩片を20%程度含むやや硬質の破質粘土状を呈する。色調はオリーブ色帯びた灰白色(7.5Y8/2)、厚さ7~11mm。含まれる細粒部は明目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-								-	-	・表現の適正化(mm) ・脱記の修正(「硬さ「D」の以深⇒以浅」
82	29.12	30.56	CL 30.02m以深は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。	29.12	30.56	CL 30.02m以浅は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
83	-	-	-	29.47	29.59	網目状の割れ目に白色粘土、マンガン鉱染が見られる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・網目状の白色粘土、マンガン鉱染は周囲と異なる状況であるため追記した。
84	30.55	30.55	30.55m付近をはじめ、割れ目ずいに風化で砂状化する部分がある。 密着度の低い割れ目、ゆ着割れ目が多い。	30.55	30.55	30.55m付近をはじめ、割れ目沿いに風化で砂状化する部分がある。 密着度の低い割れ目、ゆ着割れ目が多い。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い)
85	29.15	29.60	割れ目ずいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染受ける。	29.15	29.60	割れ目沿いや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染受ける。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い)
86	30.00	31.00	(RQD欄)36 (最大コア長欄)26	30.00	31.00	(RQD欄)44 (最大コア長欄)34									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・最大コア長26cmの上端側の割れ目は ゆ着しているため最大コア長を変更した。 ・上記に伴い、RQDを変更した
87	30.30	30.56	割れ目ずいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染受ける。	30.30	30.56	割れ目沿いや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染受ける。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い)

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名 H27-B-3

○ 記載有り　なし, 該当区間に対象物はあるが, 周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「－」で表示)												破砕等									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記載欄に記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記載欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成, 硬の種類及び形状, 含有物(有機質, 間型など)を明確的に記載。 ・その他, 周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば, 必要に応じて, 硬軟, 湿状度, 含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理, 葉理, 級化など	鉱産作業における特記事項 ・コア欠如, コア擦乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を明確的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は, 現品の種類・径, 現品の含有率などを記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記載欄に記載	流理構造	造理等の顕れ目 ・同系統の顕れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な顕れ目の見かけの傾斜や岩盤物の種類を明確的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な顕れ目があれば, 顕れ目の間隔, 開口幅, 顕れ目面の色調, 顕れ目面のすべり(スリッケンサイド, 条線, 見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈, 沸石脈, 方解石脈等の種類, 幅, 色調, 見かけの傾斜など	破砕度区分 ・記号(H_D~H_A) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・統性構造, 複合面構造, 変形構造, 剪断変粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	鉱産作業における特記事項 ・コア欠如, コア擦乱など	記事を削除・変更・追記した理由
88	30.56	32.21	CH 緊硬, 顕れ目挟雑物は一部を除き分布しない。 顕れ目や岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受けるが劣化は伴なわない。 コア中には密着度の低い顕れ目や中着顕れ目は殆んど分布しない。	30.56	32.21	CH 緊硬, 顕れ目挟在物は一部を除き分布しない。 顕れ目や岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。 コア中には密着度の低い顕れ目や中着顕れ目は殆んど分布しない。																					
89	31.30	31.30	31.30m付近は顕れ目が交差し, 短柱状(コア長5cm前後)に砕けている。	31.30	31.30	31.30m付近は50°～54°の顕れ目が交差し, 短柱状(コア長5cm前後)に砕けている。																					
90	31.62	31.66	上下端とも50°顕れ目に圧されて軟化する。 上下端には各々幅2m/m, 0.5m/mの軟質褐色粘土脈をはさむ。	31.62	31.66	上下端とも50°顕れ目に圧されて軟質化する。 上下端には各々幅2mm, 0.5mmの軟質褐色粘土脈を挟む。																					
91	32.11	32.11	40°顕れ目をはさみ厚さ15～20m/m緑泥石化し, 色調が淡緑灰色化する。 ≒0.5m/m以下の機械なセリサイトを伴う。劣化や粘土化はない。	32.11	32.11	40°顕れ目が厚さ15～20mmで緑泥石化し, 色調が淡緑灰色化する。 ≒0.5mm以下の機械なセリサイトを伴う。劣化や粘土化はない。																					
92	32.21	33.09	CM 一部で挟在物をはさむがはさまない顕れ目が主体。 密着度の低い顕れ目を多く含む。一部では開口化している。	32.21	33.09	CM 一部で挟在物を挟むが挟まない顕れ目が主体。 密着度の低い顕れ目を多く含む。一部では開口化している。																					
93	33.30	33.53	顕れ目やい岩芯の一部がマンガン鉱染受けるが劣化は伴なわない。	32.30	32.53	顕れ目沿いや岩芯の一部がマンガン鉱染受けるが劣化は伴わない。																					
94	32.53	32.53	45°厚2m/m軟質黄褐色粘土はさみ, その上下盤には粘土は×直交する顕れ目が分布する。	32.53	32.53	45°幅2mm軟質黄褐色粘土挟み, その上下端には粘土は≒直交する顕れ目が分布する。																					
95	33.09	34.20	CL 60～80°の高角度顕れ目が多く, 一部で分岐～収れんを繰り返す。これら顕れ目はマンガン鉱染や幅1～2m/mの軟質な灰白色粘土を断状に伴うことが多い。 また風化による砂状化が拡大する部分もある。 33.70m以深では硬さ「C」の岩片も多く含むようになる。	33.09	34.20	CL 60～80°の高角度顕れ目が多く, 一部で分岐～収れんを繰り返す。これら顕れ目はマンガン鉱染や幅1～2mmの軟質な灰白色粘土を断状に伴うことが多い。 また, 風化による砂状化が拡大する部分もある。 33.70m以深では硬さ「C」の岩片も多く含むようになる。																					
96	34.20	34.20	40°顕れ目は厚さ2～3m/m, やや緩った灰白色粘土断をはさむ。	34.20	34.20	40°顕れ目は厚さ2～3mm, やや硬質な灰白色粘土断を挟む。																					
97	34.20	35.94	CM 泥んどの顕れ目に挟雑物は分布しないが, 岩芯の一部も含め, 軽微なマンガン鉱染受ける。劣化は伴なわない。 密着度の低い顕れ目やや着顕れ目が多い。 白濁化した長石が多い。	34.20	35.94	CM 泥んどの顕れ目に挟在物は分布しないが, 岩芯の一部も含め, 軽微なマンガン鉱染受ける。劣化は伴わない。 密着度の低い顕れ目やや着顕れ目が多い。 白濁化した長石が多い。																					
98	35.31	35.31	60°顕れ目ぞい厚さ3～5m/m砂状化。	35.31	35.31	60°顕れ目沿い厚さ3～5mm砂状化。																					
99	35.47	35.47	5°顕れ目で90°顕れ目が切られる(変位量不明)。	35.47	35.47	5°顕れ目で90°顕れ目が止められる, 切られる(変位量不明)。 5°の顕れ目に細粒部は認められない。顕れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ, 系統的な顕れ目も存在しない。																					
100	35.94	37.30	CH 緊硬, 顕れ目挟雑物も分布しない。	35.94	37.30	CH 緊硬, 顕れ目挟在物も分布しない。																					
101	36.07	36.32	顕れ目ぞいや岩芯の一部でマンガン鉱染を受けるが劣化は伴なわない。ただし, 密着度の低い顕れ目が区間内に数本分布する。	36.07	36.32	顕れ目沿いや岩芯の一部でマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。ただし, 密着度の低い顕れ目が区間内に数本分布する。																					
102	37.03	37.03	57°顕れ目ぞいの一部で厚さ3m/m前後が砂～細片化する。この57°の顕れ目は交差する顕れ目を切っている(変位量不明)。	37.03	37.03	57°顕れ目沿いの一部で厚さ3mm前後が砂～細片化する。この57°の顕れ目を横断する潜在顕れ目が37.05m, 37.08mに見られる。切っている変位量不明。 57°の顕れ目の砂～細片化部は直線状に走しく顕れ目周辺の原岩組織は認められ, 系統的な顕れ目も存在しない。																					
103	37.30	37.55	(岩級区分欄)CM	37.30	37.55	(岩級区分欄)CL																					
104	37.30	37.55	CM 直上位に比べ岩片がやや軟化する。	37.30	37.55	CM 直上位に比べ岩片がやや軟質化する。																					
105	37.55	37.69	CL 上下端をマンガン膜に圧まれ軟化が進んでいる。マンガンは砂状基する。	37.55	37.69	CL 上下端をマンガン膜に圧まれ軟質化が進んでいる。マンガンは砂状基する。																					
106	37.69	37.81	(岩級区分欄)D	37.69	37.81	(岩級区分欄)CL																					
107	37.69	37.81	D 50～60°顕れ目ぞいに風化による砂状化進む, 厚1m/m以下の白色粘土断も伴う。	37.69	37.81	D 50～60°顕れ目沿いに風化による砂状化進む, 幅1mm以下の白色粘土断も伴う。																					
108	37.81	38.50	CL	－	－	－																					
109	38.21	38.21	38.21m以深では50°前後の顕れ目ぞいに風化, 砂状化進む, また少量の厚さ1～2m/m白色～褐色軟質粘土断も伴う。	38.21	38.21	38.21m以深では50°前後の顕れ目沿いに風化, 砂状化進む, また少量の厚さ1～2mm白色～褐色軟質粘土断も伴う。																					
110	38.50	39.14	CM 一部で中着顕れ目を含むが密着度は高く, ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	－	－	－																					
111	39.14	40.79	CL 密着度の低い顕れ目を多く含む。ハンマーの打撃で大半は分離・細片化する。 顕れ目には砂や粘土を厚さ1～2m/mではさむことが多い。	39.14	40.79	CL 密着度の低い顕れ目を多く含む。ハンマーの打撃で大半は分離・細片化する。 顕れ目には砂や粘土を厚さ1～3mmで挟むことが多い。																					
112	40.14	40.26	50～60°顕れ目に厚さ1～2m/mの軟質粘土断はさむ。	40.14	40.26	50～60°顕れ目に厚さ1～2mmの軟質粘土断挟む。																					
113	40.42	－	40.42m以深は岩片自身の軟化が進み, 顕れ目ぞいの砂状化も拡大する。	40.42	－	40.42m以深は岩片自身の軟質化が進み, 顕れ目沿いの砂状化も拡大する。																					
114	－	－	－	40.72	40.72	50°の顕れ目に幅1mmの軟質灰白色粘土を挟む。																					
115	40.79	41.83	CM 一部の顕れ目を除き, 顕れ目の挟在物は分布しない。	－	－	－																					
116	41.30	－	41.30m以深では密着度の低い顕れ目が多い。一部では軽に開口化している。	－	－	－																					
117	41.30	41.30	60°顕れ目ぞいに≒2～4m/m石英が多く晶出している。	41.30	41.30	60°顕れ目沿いに≒2～4mm石英が多く晶出している。																					
118	41.83	41.95	(岩級区分欄)D	41.83	41.95	(岩級区分欄)CL																					

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名:H27-B-3

○ 記載有り　なし:該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－:該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															
			記事			記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)												破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・建築の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形状、含有物(有機質、異質など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、変状度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	搬送作業における特記事項 ・コア欠損、コア接乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を明確的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、岩品の種類・径、岩品の含有率などを記載	色調 ・建築の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	整理等の訳れ目 ・同系統の訳れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な訳れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な訳れ目があれば、訳れ目の間隔、開口幅、訳れ目面の色調、訳れ目面のテペリ(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	挟在岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号(Hc,Hs,Hj) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・頻状構造、球状構造、葉理構造、葉理構造、網目状結晶など	最新活動面(設定した場合)	空隙の状況	搬送作業における特記事項 ・コア欠損、コア接乱など	記事を削除・変更・追記した理由
119	41.83	41.95	D 上端40°下端55°訳れ目に囲まれ砂状化する。訳れ目と岩組織は不明瞭化。	41.83	41.95	D 上端60°下端55°訳れ目に囲まれ砂状化する。訳れ目と原岩組織は不明瞭化。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(原岩組織)
120	41.95	42.78	CL 訳れ目は直下の破砕帯主せん断面と同方向の40～50°訳れ目が主体。 訳れ目の多くに粘土膜や砂の薄層をはさむ。 長石の一部が白濁化している。	41.95	42.78	CL 訳れ目は直下の破砕部の上端境界と同方向の40～50°訳れ目が主体。 訳れ目の多くに粘土膜や砂の薄層を挟む。 長石の一部が白濁化している。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・主せん断面は評価結果であるため記載しないこととし、上端境界に変更した ・表現の適正化(挟む)
121	42.36	42.40	42.36～42.40mは上下端とも40°訳れ目に囲まれて風化・砂状化。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
122	42.78	43.00	(岩級区分欄)D	42.78	43.00	(岩級区分欄)CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	
123	42.78	42.85	D 風化で著しく軟化するが、岩組織や訳れ目の一部は残留している。	42.78	42.85	D 風化で著しく軟質化するが、原岩組織や訳れ目の一部は残留している。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(軟質化、原岩組織)	
124	42.85	42.91	破砕帯(主せん断面42.85m)	42.85	42.91	破砕部(最新活動面42.85m)									-	-	-							-	-	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一	
125	42.85	42.87	Hc-2 上端45°で直線的に、下端41°で波打って連続。φ1～2m/m石英粒、φ5m/m粘土化岩片を20%程度含む半固結粘土(ガウジ)。 上端1～2mmは風化で褐色化(明黄褐:10YR6/8)する。 色調は灰白(2.5Y8/1)、厚さ15～25m/m。	42.85	42.87	Hj 上端45°で直線的に、下端41°で波打って連続。φ1～2mm石英粒、φ5mm粘土化岩片主体の径20%程度含む粘土(ガウジ)。 上端1～2mmは風化で褐色化(明黄褐:10YR6/8)し、明瞭灰色の粘土をフィルム状に伴う。色調は灰白色(2.5Y8/1)、厚さ1～25mm。 やや硬質、含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-	○	○	○	○	○	○	-	-	・硬度・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・上端に粘土を挟むため、それについて追記した ・粘土主体ではないため「ガウジ」を削除した ・表現の適正化(mm) ・誤記の修正「色」「幅」の記載漏れ)	
126	42.87	42.91	Hj 上端41°、下端66°でいずれも波打って連続。下端は不明瞭な部分もある。 φ5～10m/m2粘土化～硬さ「D」岩片からなり、岩片間の一部は粘土～幅1m/m白色軟質粘土脈が分布している。全体に粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐灰(7.5YR7/2)、厚さ50m/m	42.87	42.91	Hj 上端41°、下端66°でいずれも波打って連続。下端は不明瞭な部分もある。 φ5～10mmの粘土化～硬さ「D」岩片からなり、岩片間の一部は粘土～幅1mm白色軟質粘土脈が分布している。全体に粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐灰色(7.5YR7/2)、厚さ30～50mm。 やや軟質、含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-							-	-	・硬度、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・コアに合わせて異種を変更した(区間長と幅の関係が不整合であった) ・表現の適正化(mm) ・誤記の修正「色」の記載漏れ)	
127	42.85	42.87	(破砕度区分欄)Hc-2	42.85	42.87	(破砕度区分欄)Hj									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の変更に伴い、変更した	
128	42.91	43.00	D 締った砂礫状を呈する。岩組織と訳れ目は消滅している。 白色粘土を断状に伴う。	42.91	43.00	D 硬質な砂礫状を呈する。原岩組織と訳れ目は消滅している。 白色粘土を断状に伴う。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(締った→硬質、原岩組織)	
129	43.00	43.17	CL 訳れ目ぞいに砂状化する。白色粘土を細脈状に伴う。	43.00	43.17	CL 訳れ目沿いに砂状化する。白色粘土を細脈状に伴う。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い)	
130	43.17	45.66	CM 硬さ「C」を主体とするが、一部に硬さ「B」の緻密な柱状コアも含む。 訳れ目の一部に幅1～2m/m粘土、砂の薄層を挟在するが、挟在しない訳れ目が主体。面は薄く褐色化するものも多いが劣化はない。 一部でゆ著訳れ目を含むが密着度は高くハンマーの弦打でも分離しないものが主体。	43.17	45.66	CM 硬さ「C」を主体とするが、一部に硬さ「B」の緻密な柱状コアも含む。 訳れ目の一部に幅1～2mmの粘土、砂の薄層を挟在するが、挟在しない訳れ目が主体。面は薄く褐色化するものも多いが劣化はない。 一部でゆ著訳れ目を含むが密着度は高くハンマーの弦打でも分離しないものが主体。									-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm)	
131	－	45.66	CM	－	45.66	CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記で記載しているため削除した	
132	45.00	45.40	80～90°の高角度訳れ目が連続、交差する訳れ目の一部は高角度訳れ目で切られている。	45.00	45.40	80～90°の高角度訳れ目が連続、交差する訳れ目の一部は高角度訳れ目で止められる。切られている高角度訳れ目は、凹凸が顕著であるが、面のかみ合わせは良い。細粒部は認められない。周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な訳れ目も存在しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・深度45.98m的45°訳れ目は高角度訳れ目と交差している。また、高角度訳れ目は凹凸が顕著であるが、その噛み合わせが訳れ目を挟んで一致しているため切られていると「止められる」に変更した ・訳れ目及び周辺の状況について追記した	
133	45.00	46.00	(RQD欄)12 (最大コア長欄)12	45.00	46.00	(RQD欄)0 (最大コア長欄)7									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・最大コア長12cmとした箇所にも密着訳れ目が分布するため最大コア長を変更した。 ・上記に伴い、RQDを変更した	
134	45.41	45.50	訳れ目が交差し、一部φ5～20m/mに片状化するが砂や粘土ははさまない。	45.41	45.50	訳れ目が交差し、一部φ5～20mmに片状化するが砂や粘土は挟まない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(挟む、mm)	
135	45.66	46.14	CL 風化で訳れ目ぞいに細片化～砂状化が拡大する。45.96m以深では硬さ「C」の緻質岩片も多く含む。少量の軟質な白色粘土も断状に含んでいる。	45.66	46.14	CL 風化で訳れ目沿いに細片化～砂状化が拡大する。45.96m以深では硬さ「C」の緻質岩片も多く含む。少量の軟質な白色粘土も断状に含んでいる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い)	
136	46.14	47.58	CM 緻硬であるが多くの長石が白濁化する。 訳れ目挟在物は殆んど分布しない。	46.14	47.58	CM 緻硬であるが多くの長石が白濁化する。 訳れ目挟在物は殆んど分布しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・誤記の修正(挟雑物→挟在物)	
137	47.00	47.23	CM 訳れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染受ける。	47.00	47.23	CM 訳れ目沿いや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染受ける。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い)	
138	47.24	47.29	上下端の訳れ目とほぼ同方向に砂～φ5～10m/mに片状化する。 岩片自身は硬さ「C」「B」と硬い。	47.24	47.29	上端35°、下端23°の訳れ目とほぼ同方向に砂～φ5～10mmに片状化する。 岩片自身は硬さ「C」「B」と硬い。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・傾斜を追記した ・表現の適正化(ほぼ、mm)	
139	47.58	47.77	CL 35～45°訳れ目が多く、この訳れ目ぞいに厚さ2～5m/m程度砂状～細片状化。	47.58	47.77	CL 35～45°訳れ目が多く、この訳れ目沿いに厚さ2～5mm程度砂状～細片状化。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、mm)	
140	47.58	47.77	(岩級区分欄)CL	47.58	47.77	(岩級区分欄)CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	
141	47.77	48.61	CM 緻硬で長石の白濁化も少ないが、一部で低密度の低い訳れ目も含む。 訳れ目挟在物は分布しない。	－	－	－									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
142	48.61	56.69	CL 硬さ「C」と硬さ「D」が交互に分布する。 密着度の低い訳れ目ゆ著訳れ目を多く含んでいる。 訳れ目ぞいに厚さ10～30m/m程度まで風化による砂状化が進む部分も含む。	48.61	56.69	CL 硬さ「C」と硬さ「D」が交互に分布する。 密着度の低い訳れ目ゆ著訳れ目を多く含んでいる。 訳れ目沿いに厚さ10～30mm程度まで風化による砂状化が進む部分も含む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、mm)	
143	48.61	50.56	48.61～50.56mは硬さ「C」主体で、49.49m~49°厚さ15m/m、50.16m~35°厚さ30m/mで砂状～細片状化が進む。 灰白～褐色粘土も伴っている。	48.61	50.56	48.61～50.56mは硬さ「C」主体で、49.49m~49°厚さ15mm、50.16m~35°厚さ30mmで砂状～細片状化が進む。 灰白～褐色粘土も伴っている。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm)	
144	－	－	－	48.78	48.79	上端38°、下端50°の訳れ目に幅10mmの砂状～細片状部を挟む。明褐色粘土を伴う。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	砂状～細片状部は周囲と異なる状況であるため追記した	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名 H27-B-3

○：記載有り　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード																記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)												破砕帯										
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・現地の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形状、含有物(有機質、異質など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、淘汰度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア損乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、現品の種類・性、現品の含有率などを記載	色調 ・現物の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、間口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、凍石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	挟雑物 ・岩種	破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hi) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・結状構造、縞状構造、葉理構造、網目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア損乱など	
145	50.00	50.42	70°前後の微細な風化割れ目が数条波打ちながら連続する。 これらの割れ目はハンマーの強打で分離するものもある。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－		
146	50.16	51.16	硬さ「D」主体で、30～50°割れ目が多く割れ目ぞいに厚さ1～2m/mと薄く砂状部をはさんでいることが多い。岩片自身も上下位に比べ軟化している。	50.56	51.16	硬さ「D」主体で、30～50°割れ目が多く割れ目沿いに厚さ1～3mmと薄く砂状部を挟んでいることが多い。岩片自身も上下位に比べ軟質化している。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(挟む、沿い、mm、軟質化)
147	－	－	－	51.16	51.45	51.16m、51.45mに35°、49°の割れ目に幅1～3mmの褐色粘土を挟む。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・褐色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した	
148	51.16	52.00	硬さ「G」主体。	－	－	－									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		
149	51.35	51.64	割れ目が交差し交差部を主体として砂状部が拡大している。 また白色粘土も少量伴っている。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－		
150	52.00	52.32	φ10～20m/m硬さ「D」「C」岩片と岩片間の締った砂状部からなる。	52.00	52.32	φ10～20mm硬さ「D」「C」岩片と岩片間の硬質な砂状部からなる。									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(締った⇒硬質、mm)	
151	52.32	52.75	長石の白濁化が多いが硬さ「C」と硬質、一部で硬さ「B」も含むが一部では密着度の低い割れ目も含む。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－		
152	52.75	53.10	岩片自身も硬さ「D」と軟化する。一部で硬さ「C」も残留。	52.75	53.10	岩片自身も硬さ「D」と軟質化する。一部で硬さ「C」も残留。									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(軟質化)	
153	53.10	55.82	密着度の低い割れ目が多く、一部ですでに開口化している。 割れ目の一部は砂状化し、白色粘土を伴うことが多い。 色調が「橙色」を帯びるようになる。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－		
154	53.40	53.60	硬さ「B」に近い、また割れ目の挟雑物も粘ん土分布しない。	53.40	53.60	硬さ「B」に近い、また割れ目の挟在物も粘ん土分布しない。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・脱記の修正(挟雑物⇒挟在物)	
155	－	－	－	53.79	53.81	上端23°、下端39°の割れ目の間が砂状～細片状を呈する。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・砂状～細片状部は周囲と異なる状況であるため追記した	
156	53.85	54.31	割れ目挟在物少ない。	53.85	54.31	挟在物を伴う割れ目は少ない。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・文章の適正化	
157	54.35	54.59	割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染う け、黒褐色化する。	54.35	54.59	割れ目沿いや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染受け、黒褐色化する。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(沿い、受け)	
158	55.08	55.55	割れ目ぞい砂状化が進み砂や粘土をはさむ割れ目が多い。	55.08	55.55	割れ目沿い砂状化が進み砂や粘土を挟む割れ目が多い。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(挟む、沿い)	
159	55.08	55.08	25°厚さ5～10m/mの淡黄色粘土はさむ、粘土直下に厚さ10m/m砂状部伴う。	55.08	55.08	25°厚さ1mmの淡黄色粘土挟む、粘土直下に厚さ10mm砂状部伴う。									なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアに合わせて淡黄色粘土の幅を変更した ・表現の適正化(挟む、mm)	
160	55.82	56.69	割れ目に挟在物が分布しないことが多い。	55.82	56.69	挟在物を伴わない割れ目が多い。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・文章の適正化	
161	56.00	56.30	73～90°で湾曲して伸びる高角度割れ目を境として、下半分側は硬状～細片状を呈する。	56.00	56.30	73～90°で湾曲して延びる高角度割れ目を境として、下半分側は硬状～細片状を呈する。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(延びる)	
162	56.69	56.72	破砕帯(主せん断面56.72m)	56.69	56.72	破砕部(最新活動面56.72m)									－	－							－	－	－	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一	
163	56.69	56.72	Hi 上端30°で波打って、下端31°で直線的に連続。φ1～10m/m硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状～粘土化部からなる。「砂・粘土混じり岩片状」。 主せん断面近傍では、それに平行～ほぼ平行な幅細割れ目も分布。色調は淡黄(2.5Y7/3)～黄灰色(2.5Y6/1)、厚さ20m/m	56.69	56.72	Hi 上端30°で波打って、下端31°で直線的に連続。φ1～10mm硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状～粘土化部からなる。「粘土混じり岩片状」。 下位のHc-1の粘土の近傍では、それに平行～ほぼ平行な幅細割れ目も分布。色調は淡黄(2.5Y7/3)～黄灰色(2.5Y6/1)、厚さ20mmや硬質。含まれる細粒部は鉱物状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									－	－	○	○	○	○	○	○	－	－	・粘土分を基質に多く含むため破砕部内物質の名称を変更した ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・主せん断面は野盛結果であるため記載しないことと、Hc-1の粘土に変更した ・表現の適正化(ほぼ、mm) ・脱記の修正(「色」の記載漏れ)	
164	56.72	56.72	Hc-1 31°で上下端ともに直線的に連続。φ1m/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y6/3)、厚さ1m/m	56.72	56.72	Hc-1 31°で上下端ともに直線的に連続。φ1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は淡黄色(2.5Y6/3)、厚さ1mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									－	－							－	－	・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の統一(ガウジ→Hc-1に含んで表現) ・表現の適正化(mm) ・脱記の修正(「色」の記載漏れ)	
165	56.72	57.29	D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し一部で砂礫状を呈するが岩組織や割れ目の一部は残留する。	56.72	57.29	D 割れ目沿いに砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈するが、原岩組織や割れ目の一部は残留する。									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(沿い、原岩組織)	
166	56.94	57.02	マンガン鉱染により黒褐色化。	－	－	－									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		
167	57.29	58.89	CL 40～50°割れ目主体であるが、これらに斜交するものも多い割れ目密集部。 砂を主体とする割れ目挟在物が多い。 58.51m以深では斑点状～断状のマンガン鉱染部が点在する。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－		
168	58.68	58.82	10°幅1～3m/m、58.82m･45°幅7m/mの石英脈分布。	58.68	58.82	10°幅1～3mm、58.82m･45°幅7mmの石英脈分布。									なし	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(mm)	
169	58.89	58.98	(岩級区分欄)D	58.89	58.98	(岩級区分欄)CL									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名:H27-B-3

○:記載有り　なし:該当区間に対象物はあるが、現圃の状況と同様であるため記載していないもの　－:該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード														
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)												破砕等								
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・背景の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物(有機質、異質など)を明記的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、亀裂度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア接乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を明確的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、現品の種類・度、現品の含有率などを記載	色調 ・背景の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	地理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や開在物の種類を明確的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・挿像岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号(H0,H6,H5) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅(実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・造状構造、斜交面構造、葉理構造、明瞭状軟土など	最新活動面(設定した場合)	空隙の状況	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア接乱など	記事を削除・変更・追記した理由
170	58.89	58.98	破砕帯(主せん断面-58.98m)	58.89	58.98	破砕部(最新活動面-58.98m)									-	-	-					-	-	-	-	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一
171	58.89	58.94	H 上端20°で直線的に、下端25°で波打って連続。20～30°とこれに直交～斜交する割れ目で@3～5m/mに細片化、岩片間の一部に淡黄～灰白色軟質粘土はさむ、硬さH(主体がT粘土混じり岩片状)量する。 色調は褐灰(10YR4/1)、厚さ40m/m。	58.89	58.94	H 上端20°で直線的に、下端25°で波打って連続。20～30°とこれに直交～斜交する割れ目で@3～5mm に細片化、岩片間の一部に淡黄～灰白色軟質粘土はさむ、硬さH(主体がT粘土混じり岩片状)量する。 色調は褐灰色(10YR4/1)、厚さ40mm。 やや硬質、細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。					-	-	-					-	-	-	-	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一
																										・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(挟む、mm) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)
172	58.94	58.96	Hb 25°で上下端ともに波打って連続。@2～4m/m石英粒、@5m/m硬さT(D)岩片を20～30%含む半固結状の軟質粘土状(量す。 色調はにぶい黄橙(10YR7/2)、厚さ15m/m。	58.94	58.96	Hb 25°で上下端ともに波打って連続。@2～4mm石英粒、@5mm硬さT(D)岩片からなる@20～30%含む「粘土混じり硬質」を量する。 色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)、厚さ15mm。 やや硬質、細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。					-	-	-	○	○	○	○	-	○	-	-	・陽主体であるため破砕部内物質の名称及び破砕度区分を変更した。 ・上記の変更に伴い、コアに合わせて「20～30%の岩片を含む」記載を「岩片からなる」に変更した。 ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の統一(半固結状→やや硬質) ・表現の適正化(mm) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)
173	58.96	58.98	Hc-2 25°で上下端ともに波打って連続。@2～3m/m石英粒、硬質岩片@5～10%含む軟質粘土(ガウジ)、色調はオリーブ色および灰白(7.5Y6/2)、厚さ15m/m。	58.96	58.98	Hc-2 25°で上下端は波打って連続。下端は直線的に連続、@2～3mm石英粒、硬質岩片@5～10%含む「硬質」な軟質粘土の存ない。色調はオリーブ色帯びる灰白色(7.5Y6/2)、厚さ15mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。					-	-	-					-	-	-	-	・連続性・直線性が良いため下端境界の連続性・直線性を変更した ・硬さ含むため破砕部内物質の名称を変更した ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した ・表現の統一(ガウジ→Hc-2に含んで表現) ・表現の適正化(等びる、mm) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)
174	58.94	58.96	(破砕度区分欄)Hb	58.94	58.96	(破砕度区分欄)Hb									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の変更に伴い、変更した
175	58.98	59.69	CL 59.50m以深では粘土をさむことが多い。	58.89	59.69	CL 59.50m以深では粘土を挟むことが多い。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・58.89～58.98mは区間であるが、区間長が50cm未満であり、周囲の岩級に含めたため、上端深度を変更した ・表現の適正化(挟む)
176	59.69	59.75	(岩級区分欄)D	59.69	59.75	(岩級区分欄)CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
177	59.69	59.75	破砕帯(主せん断面59.69m)	59.69	59.75	破砕部(最新活動面59.69m)									-	-	-					-	-	-	-	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一
178	59.69	59.69	Hc-1 52°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は黄褐色(10YR5/6)、厚さ1m/m	59.69	59.69	Hc-1 52°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟質粘土のガウジ。色調は黄褐色(10YR5/6)、厚さ1mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。					-	-	-	○	○	○	○	-	○	-	-	・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の統一(ガウジ→Hc-1に含んで表現) ・表現の適正化(mm) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)
179	59.69	59.75	H 上端52°　下端37°でともに直線的に連続。@5～20m/m硬さD(/E)岩片と岩片間の砂状部からなる。「砂混じり岩片状」量する。粘土は分布しない。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)、厚さ40～60m/m。	59.69	59.75	H 上端52°　下端37°でともに直線的に連続。@5～20mm硬さD(/E)岩片と岩片間の砂状部からなる。「砂混じり岩片状」量する。粘土は分布しない。色調はにぶい橙色(7.5YR7/3)、厚さ40～60mm。 細粒部は局所的に分布する。やや硬質、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。					-	-	-					-	-	-	-	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(mm) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)
180	59.75	60.00	CL 割れ目挟在物の分布は少ない。	59.75	60.00	CL 挟在物を伴う割れ目は少ない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・文章の適正化
181	60.00	61.40	CM 密着度の低い割れ目やゆ着割れ目を多く含む。 割れ目の挟在物は少ない。 各割れ目と岩芯の一部は軟質なマンガン鉱染受ける。	60.00	61.40	CM 密着度の低い割れ目やゆ着割れ目を多く含む。 挟在物を伴う割れ目は少ない。 各割れ目と岩芯の一部は軟質なマンガン鉱染受ける。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・文章の適正化
182	-	-	-	61.18	61.23	上端30°　下端33°、割れ目の上下端は波打っている。一部砂状化、マンガン鉱染が見られる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・砂状化やマンガン鉱染は周囲と異なる状況であるため追記した。
183	61.40	61.67	(岩級区分欄)CL	61.40	61.67	(岩級区分欄)CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
184	61.40	61.67	CL 割れ目ぞいに砂状化が進む。	61.40	61.67	CL 割れ目沿いに砂状化が進む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い)
185	61.47	61.51	マンガン鉱染により高褐色化する。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
186	61.67	62.23	CM 岩片の一部は堅硬な硬さT(B)も含む。 割れ目挟在物はないが軟質なマンガン鉱染受ける。劣化は伴なわない。	61.67	62.23	CM 岩片の一部は堅硬な硬さT(B)も含む。 割れ目挟在物はないが軟質なマンガン鉱染受ける。劣化は伴わない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(伴う)
187	62.23	64.25	CL 硬さT(D)とT(C)が繰り返し分布する。 全体に割れ目に砂や粘土脈などの挟在物をはさむことが多い。 硬さT(D)の区間では割れ目ぞいに砂状化が拡大する部分も分布する。	62.23	64.52	CL 硬さT(D)とT(C)が繰り返し分布する。 全体に割れ目に砂や粘土脈などの挟在物を挟むことが多い。 硬さT(D)の区間では割れ目沿いに砂状化が拡大する部分も分布する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脈記の修正(64.23→64.52、CL級の下端深度) ・表現の適正化(挟む、沿い)
188	62.82	62.93	62.82～62.93mは@5～20m/m硬さD岩片と岩片間は砂状化し、砂礫状を量する。 幅1～2m/mの軟質白色粘土脈も伴う。	62.82	62.93	62.82～62.93mは@5～20mm硬さD岩片と岩片間は砂状化し、砂礫状を量する。 幅1～2mmの軟質白色粘土脈も伴う。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm)
189	63.03	63.03	30°割れ目ぞいに厚さ5～15m/mがマンガン鉱染受ける。	63.03	63.03	30°割れ目沿いに幅約10mmの淡橙色粘土、幅1～2mmの淡黄色粘土を挟む。上端側は@5～15mmでマンガン鉱染受ける。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・幅広の粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した ・マンガン鉱染と粘土の位置関係を明記した ・表現の適正化(沿い)
190	63.04	64.17	硬さT(C)区間では硬さT(B)も多く含む	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
191	63.60	63.70	コアチューブ引上げ時に人為的に角礫状化したもの。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
192	64.17	64.52	割れ目ぞいに砂状化することが多く、割れ目が不明瞭(消えかかったもの)なことも多い。 岩組織は明瞭に残留している。	64.17	64.52	割れ目沿いに砂状化することが多く、割れ目が不明瞭(消えかかったもの)なことも多い。 原岩組織は明瞭に残留している。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、原岩組織)
193	64.52	66.39	CM 65.61m以深は硬さT(B)で堅硬となる。 全体として割れ目挟在物は少ない。 一部の割れ目ぞいでマンガン鉱染を強く受け高褐色化するが劣化は伴なわない。	64.52	66.39	CM 65.61m以深は硬さT(B)で堅硬となる。 全体として割れ目挟在物は少ない。 一部の割れ目沿いでマンガン鉱染を強く受け高褐色化するが劣化は伴わない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、伴う)
194	-	-	-	64.66	64.66	63°の割れ目に幅1～2mmの灰白色粘土を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・灰白色粘土を伴う割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した。
195	-	-	-	64.78	64.84	上下端45°の割れ目間及び周辺が明青灰色を呈する。マンガン鉱染が見られる。一部砂状化する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・明青灰色化は周囲と異なる状況であるため追記した。
196	65.19	65.19	38°割れ目ぞい厚さ10m/mで軟化進む。薄い砂状部をはさむ。	65.19	65.19	38°割れ目沿い厚さ10mmで軟質化進む。薄い砂状部を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(挟む、沿い、mm、軟質化)

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名:H27-B-3

○:記載有り　なし:該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　ー:該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード																記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)												破砕等										
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・褐変の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形状、含有物(有機質、貝殻など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、礫数、海況度、含水状態などを記載。	地種構造 ・層理、葉理、級化など	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア破乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・粒、岩品の含有率などを記載	色調 ・褐変の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、凍石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・挟種岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号(Hc:Hb,Hb) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の雄原面 ・見かけの傾斜	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・級状構造、複合面構造、葉理構造、明目状粘土など	鏡面滑動面(認定した場合)	空隙の状況	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア破乱など	
197	65.34	65.34	35°割れ目ぞい厚さ25m/mの石英質部で硬質、淡緑灰色緑泥石化、黒褐色マンガン化するが劣化は伴なわない。	65.34	65.34	35°割れ目沿い厚さ25mmの硬質な珪質部を伴う。緑泥石による特殊色化及びマンガンによる黒褐色化するが劣化は伴わない。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(沿い、伴う、mm、石英質部⇒珪質部) ・文章の適正化
198	65.59	65.59	35°割れ目ぞい厚さ20m/mが砂状化～φ5m/m細片化。	65.59	65.59	35°割れ目沿い厚さ20mmが砂状化～φ5mm細片化。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(沿い、mm)	
199	65.61	65.61	35°割れ目を境として以深は堅硬化する。	65.61	65.61	35°割れ目を境として以深は堅硬となる。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・文章の適正化(堅硬化する⇒堅硬となる)	
200	66.09	66.09	55°割れ目ぞい砂状化部はさむ、マンガン鉱染も伴っている。	66.09	66.09	55°割れ目沿い砂状化部挟む、マンガン鉱染も伴っている。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(挟む、沿い)	
201	66.37	66.40	割れ目ぞい厚さ30～40m/m淡緑灰色の緑泥石化、砂～粘土化部など劣化は伴なわない。	66.37	66.40	割れ目沿い厚さ30～40mm淡緑灰色の緑泥石化、砂～粘土化部など劣化は伴わない。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(沿い、伴う、mm)	
202	66.39	68.06	CL 割れ目には砂を主体とした挟在物が多い。一部で割れ目ぞいの砂状化が拡大する部分もある。 密着度の低い褐色化した風化割れ目も多くハンマーの経打で分離・細片化することが多い。	66.39	68.06	CL 割れ目には砂を主体とした挟在物が多い。一部で割れ目沿いの砂状化が拡大する部分もある。 密着度の低い褐色化した風化割れ目も多くハンマーの経打で分離・細片化することが多い。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(沿い)	
203	ー	ー	ー	66.80	66.80	51°の割れ目に幅1～2mmの褐色粘土を挟む。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・褐色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した。	
204	ー	ー	ー	66.98	66.98	43°の割れ目に幅2～3mmの灰白色粘土を挟む。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・灰白色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した。	
205	67.12	67.12	55°割れ目ぞい厚5m/mで白色シルト状部をはさむ。 割れ目面は褐色化する。	67.12	67.12	55°割れ目沿い厚5mmで白色シルト状部を挟む。 割れ目面は褐色化する。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(挟む、沿い、mm)	
206	67.30	67.70	60～90°の高角度割れ目に囲まれてφ10m/m程後で岩片化する。岩片間の一部は厚さ2～3m/m砂状化する。	67.30	67.70	60～90°の高角度割れ目に囲まれてφ10mm程後で岩片化する。岩片間の一部は厚さ2～3mm砂状化する。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(mm)	
207	68.06	68.93	D 強風化で砂状化が拡大。φ10～20m/m硬さ「D」「C」の残留岩片とともに「砂礫状」を呈する。	68.06	68.93	D 強風化で砂状化が拡大。φ10～20mm硬さ「D」「C」の残留岩片とともに「砂礫状」を呈する。									ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(mm)	
208	68.06	68.93	(風化傾)εランク	68.06	68.93	(風化傾)δランク																				・周囲と同様な風化の程度であるため風化のランクをδランクに変更した	
209	68.40	68.60	68.40～68.60m は硬さ「D」の岩片からなる。	ー	ー	ー									ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー		
210	68.69	68.69	30°割れ目ぞい厚さ15m/mが硬質な淡緑灰色を呈する緑泥石化物、上端側に石英も伴う。	68.69	68.69	30°割れ目沿い厚さ15mmで淡緑灰色を呈する硬質な緑泥石化が見られる。上端側に石英も伴う。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(沿い、mm) ・文章の適正化	
211	68.93	70.10	CL 30°前後の割れ目が主体で割れ目ぞいに砂状化した砂をはさむことが多い。 一部では厚さ10m/m程度まで砂状化が拡大している。厚さ3m/m程度の軟質白色粘土層も伴う。 砂状化が進む部分では硬さ「D」主体。	68.93	70.10	CL 30°前後の割れ目が主体で割れ目沿いに砂状化した砂をはさむことが多い。 一部では厚さ10mm程度まで砂状化が拡大している。厚さ3mm程度の軟質白色粘土層も伴う。 砂状化が進む部分では硬さ「D」主体。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(挟む、沿い、mm)	
212	ー	ー	ー	69.22	69.22	45°の割れ目に幅1～2mmの褐色粘土を挟む。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・褐色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した。	
213	69.70	ー	69.70m以深では一部の割れ目と岩芯で軽微なマンガン鉱染受けている。	ー	ー	ー									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー		
214	70.10	71.72	(変質欠)4ランク	70.10	71.72	(変質欠)3ランク									ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・下位と同様な変質の程度であるため変質のランクを3ランクに変更した	
215	70.10	71.72	D 風化と変質で著しく軟化するが、岩組織と割れ目は残留している。 処々に硬さ「D」の岩片が残留し、71.30m以深で岩片量多くなる。	70.10	71.72	D 風化と変質で著しく軟質化するが、原岩組織と割れ目は残留している。 所々に硬さ「D」の岩片が残留し、71.30m以深で岩片量多くなる。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(軟質化、原岩組織、所々)	
216	70.17	70.20	25°で波打ってマンガンが斑状に分布。黒色量する。下端側厚さ10m/mで硬化した緑泥石化部を伴う。	70.17	70.20	25°で波打ってマンガンが斑状に分布。黒色量する。下端側厚さ10mmで硬化した緑泥石化部を伴う。									ー	なし	○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・下端側が必ずしも下盤とは限らないため下端に変更した ・表現の適正化(mm)	
217	70.20	71.30	粘土化ないし砂状化部主体。 厚1m/m白色粘土層が斑状に分布する部分もある。	70.20	71.30	粘土化ないし砂状化部主体。 幅1mm白色粘土層が斑状に分布する部分もある。									ー	なし	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(厚⇒幅、mm)	
218	71.30	ー	71.30m以深は硬さ「D」岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなる。部分的に1～2m/m石英がマンガン鉱染により黒褐色化する。	71.30	ー	71.30m以深は硬さ「D」岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなる。部分的に1～2mm石英がマンガン鉱染により黒褐色化する。									ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(mm)	
219	71.72	72.76	CL φ10～20m/m 硬さ「D」岩片からなり、一部の岩片間では粘土化～砂状化部を伴う。 全体に密着度の低い割れ目や傾斜割れ目が多くハンマーの打撃で分離・細片化する。	71.72	72.65	CL φ10～20mm 硬さ「D」岩片からなり、一部の岩片間では粘土化～砂状化部を伴う。 全体に密着度の低い割れ目や傾斜割れ目が多くハンマーの打撃で分離・細片化する。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・脱記の修正(72.76⇒72.65、CL級の下端深度) ・表現の適正化(mm)	
220	72.12	72.17	30°割れ目では面ぞいに褐色化し、砂状化も拡大している。	72.12	72.17	30°割れ目では面沿いに褐色化し、砂状化も拡大している。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(沿い)	
221	72.65	73.38	D	ー	ー	ー									ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー		
222	72.93	73.11	強変質で岩組織と割れ目は消滅し細砂状状を呈する。 上記区間以外は岩組織と割れ目の一部は残留している。また、硬さ「D」の岩片も一部で残留する。	72.93	73.11	強変質で原岩組織と割れ目は消滅し細砂状状を呈する。 上記区間以外は原岩組織と割れ目の一部は残留している。また、硬さ「D」の岩片も一部で残留する。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(原岩組織)	
223	72.93	73.11	(変質欠)4ランク	72.93	73.11	(変質欠)3ランク									ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・下位と同様な変質の程度であるため変質のランクを3ランクに変更した	
224	73.18	73.19	20°割れ目ぞいに厚さ10～15m/mでマンガンが斑状に分布。	73.18	73.19	20°割れ目沿いに厚さ10～15mmでマンガンが斑状に分布。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(沿い、mm)	
225	73.38	76.23	CL 一部で硬さ「C」岩片も含むが全体的には軟化の進んだ硬さ「D」岩片主体。 密着度の低い割れ目や傾斜割れ目が10m/m前後で密に分布する。	73.38	76.23	CL 一部で硬さ「C」岩片も含むが全体的には軟質化の進んだ硬さ「D」岩片主体。 密着度の低い割れ目や傾斜割れ目が幅10mm前後で密に分布する。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(軟質化、mm) ・脱記の修正(「幅」の記載漏れ)	
226	73.38	73.58	硬さ「C」で一部の割れ目に軟質な厚さ1～3m/m灰白色粘土層をはさむ。	73.38	73.58	硬さ「C」で一部の割れ目に軟質な厚さ1～3mm灰白色粘土層を挟む。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(挟む、mm)	
227	74.04	74.04	25°割れ目ぞい約20m/m軟化進む。	74.04	74.04	25°割れ目沿い幅約20mm軟質化進む。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(沿い、mm、軟質化) ・脱記の修正(「幅」の記載漏れ)	
228	74.29	74.48	20～30°割れ目ぞいに褐色化とマンガン鉱染伴う。また細かい密着度の低い割れ目も密集する。	74.29	74.48	20～30°割れ目沿いに褐色化とマンガン鉱染伴う。 また細かい密着度の低い割れ目も密集する。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(沿い)	
229	74.72	74.84	硬さ「C」主体であるが、密着度の低い割れ目も多い。	ー	ー	ー									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー		
230	ー	ー	ー	74.90	74.90	35°割れ目沿いに幅10mm程度砂状化。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・幅広の砂状化は周囲と異なる状況であるため追記した	
231	75.05	75.56	割れ目の一部に幅1～2m/mの白色軟質粘土が斑状にはさまれる。	75.05	75.56	割れ目の一部に幅1～2mmの白色軟質粘土が斑状に挟まれる。									○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	・表現の適正化(挟む、mm)	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名 H27-B-3

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															記事を削除・変更・追記した理由
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・褐変の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、限の種類及び形態、含有物(有機質、異質など)を明確的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、淘汰度、含水状態などを記載。	連続構造 ・層理、葉理、級化など	鋭成作業における特記事項 ・コア欠如、コア擾乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を明確的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、現品の種類・径、現品の含有率などを記載	色調 ・褐変の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	整理等の跡孔目 ・同系統の跡孔目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な跡孔目の見かけの傾斜や後有物の種類を明確的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な跡孔目があれば、跡孔目の間隔、開口幅、跡孔目面の色調、跡孔目面のテペリ(スリッケンサイド、条線、見かけの変化センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、凍石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・検脈岩 ・岩種	破砕帯 破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hj) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・間数 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破砕構造、頻度構造、累帯構造、断層状粘土など	最新活動面(設定した場合)	空隙の状況	鋭成作業における特記事項 ・コア欠如、コア擾乱など	
232	75.46	75.46	0°幅3～5m/mの珪質部が斜交する跡孔目を切って連続する。 粘土化などの劣化は伴なわない。	75.46	75.46	0°幅3～5mmの珪質部が斜交する跡孔目を止めて切りの連続する。 粘土化などの劣化は伴わない。 珪質部の上端・下端の跡孔目に細粒部は認められない。珪質部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、珪質部と系統的な跡孔目も存在しない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・珪質部を横断する潜在跡孔目が見られるため「切って」を「止めて」に変更した ・珪質部の上端・下端の跡孔目および間近の状況について追記した ・表現の適正化(伴う、mm)
233	75.80	75.87	コアチューブ引上げ時に乱されり10m/m程度の硬化コア化している。	75.80	75.87	コアチューブ引上げ時に乱されり10mm程度の硬化コア化している。								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○		・表現の適正化(mm)
234	76.11	76.23	10～20°の低角度跡孔目が多い、一部で灰白色粘土(幅0.5m/m)をはさむ。	76.11	76.23	10～20°の低角度跡孔目が多い、一部で灰白色粘土(幅0.5mm)を挟む。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(挟む、mm)
235	76.23	76.59	D	-	-	-								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
236	-	76.41	76.41m以浅はφ3～5m/mに細片化する。粘土化も伴う。	-	76.41	76.41m以浅はφ3～5mmに細片化する。粘土化も伴う。								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(mm)
237	76.41	-	76.41m以深は大半の跡孔目が消滅している。旧跡孔目部にそってマンガンが斑点状に分布する。	76.41	-	76.41m以深は大半の跡孔目が消滅している。跡孔目跡に沿ってマンガンが斑点状に分布する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(旧跡孔目部⇒跡孔目跡、沿って)
238	76.23	76.59	(風化傾)εランク	76.23	76.59	(風化傾)δランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・周囲と同様の風化の程度であるため風化のランクをδランクに変更した。
239	76.59	76.89	破砕帯(主せん断面76.59m)	76.59	76.89	破砕部(最新活動面76.59m)								-	-	-	○			-		-	-			・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一
240	76.59	76.59	Hc-1 47°で上下端ともに直線的に連続、φ1m/m石英粒をごくわずか(1%以下)含む軟質粘土(ガウジ)、色調は明黄褐(2.5Y6/6)、厚さ1m/m。	76.59	76.59	Hc-1 47°で上下端ともに直線的に連続、φ1mm石英粒をごくわずか(1%以下)含む軟質粘土のみ(φ1)。色調は明黄褐色(2.5Y6/6)、厚さ1mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。								-	-	-	-			-		-	-			・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の統一(ガウジ⇒Hc-1に含んで表現) ・表現の適正化(mm、軟質⇒軟質) ・鋭記の修正(千色)の記載漏れ)
241	76.59	76.65	Hb 上端48°で、下端55°でともに直線的に連続、マンガン鉱染で黒色化した φ1～2m/m石英粒、φ3～10m/m粘土化～硬さ「D」岩片を計20～30%含む軟質な(硬質粘土状)層である。主せん断面とは平行な細かい跡孔目が4条分布。 色調は灰白(7.5YR8/1)～にぶい橙(7.5YR7/3)、厚さ40～50m/m。	76.59	76.65	Hb 上端47°で、下端55°でともに直線的に連続、マンガン鉱染で黒色化した φ1～2mm石英粒、φ3～10mm粘土化～硬さ「D」岩片を計20～30%含む軟質な(粘土質硬質)を呈する。上端側のHc-1の粘土と球状平行な細かい跡孔目が4条分布。 色調は灰白(7.5YR8/1)～にぶい橙色(7.5YR7/3)、厚さ40～50mm、やや軟質で、含まれる細粒部は明目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。								○	○	○	○	○			-	-			・限主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・主せん断面は評価結果であるため記載しないことと、破砕部上端側のHc-1の粘土に変更した ・表現の適正化(ほぼ、mm) ・鋭記の修正(千色)の記載漏れ、上端48⇒47°(上位のHc-1の傾斜と不整合))
242	76.65	76.89	Hj 上端55°で下端37°でともに直線的に連続、φ3～10m/m硬さ「D」～粘土化岩片と岩片間の粘土化部からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。 76.70mと76.78mに主せん断面と平行方向に各々55°、33°のせん断面(sj)が分布、一部でマンガン鉱染伴う。 色調はにぶい橙(7.5YR7/4)～灰白(7.5YR8/2)、厚さ240m/m(コア長)。	76.65	76.89	Hj 上端55°で、下端37°でともに直線的に連続、φ3～10mm硬さ「D」～粘土化岩片と岩片間の粘土化部からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。 76.70mと76.78mに破砕部上端側のHc-1の粘土と平行方向に各々55°、33°のせん断面(sj)が分布、一部でマンガン鉱染伴う。 色調はにぶい橙(7.5YR7/4)～灰白色(7.5YR8/2)、厚さ240mm(コア長)。 やや軟質、含まれる細粒部は明目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。								-	-	-	-	なし			○			-	-			・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・主せん断面は評価結果であるため記載しないことと、破砕部上端側のHc-1の粘土に変更した ・厚さとしてコア長を記載したものは、真幅ではないため削除した ・表現の適正化(mm) ・鋭記の修正(千色)の記載漏れ)
243	76.89	79.15	CL 硬さ「D」岩片主体であるが部分的に硬さ「C」も含む。 跡孔目ぞいに粘土化と砂状化が進む、特に破砕帯直下の76.89～77.00mで粘土化が進んでいる。 跡孔目はシャープで明瞭なものも多いが、一部で消滅しかかっているものもある。 70～80°の高角度系を主体に、密着度が低い跡孔目も多い。	76.89	79.15	CL 硬さ「D」岩片主体であるが部分的に硬さ「C」も含む。 跡孔目沿いに粘土化と砂状化が進む、特に破砕部直下の76.89～77.00mで粘土化が進んでいる。 跡孔目はシャープで明瞭なものも多いが、一部で消滅しかかっているものもある。 70～80°の高角度系を主体に、密着度が低い跡孔目も多い。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・表現の適正化(沿い)
244	77.58	77.65	φ10m/m程度の大型の石英斑晶が点在。	77.58	77.65	φ10mm程度の大型の石英斑晶が点在。								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(mm)
245	77.71	77.77	φ5～10m/m細片状～砕った砂状量する。	77.71	77.77	φ5～10mm細片状～硬質な砂状量する。								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(mm、砕った⇒硬質な)
246	77.79	77.85	硬さ「C」と硬化する。	-	-	-								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
247	78.05	-	78.05m以深では白色粘土細脈の分布が多くなる。	-	-	-								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
248	79.15	87.18	(変質傾)4ランク	79.15	85.03	(変質傾)3ランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・上位と同様の変質の程度であるため変質のランクを3ランクに変更した
249	79.15	85.03	D 主として変質による粘土化が進み、著しく軟化している。 一部でφ5～20m/m程度の硬さ「D」岩片が残留、また全体的に岩組織と跡孔目の一部は残留する。 跡孔目は10～30°と低角度系が主体。	79.15	84.89	D 主として変質による粘土化が進み、著しく軟質化している。 一部でφ5～20mm程度の硬さ「D」岩片が残留、また全体的に原岩組織と跡孔目の一部は残留する。 跡孔目は10～30°と低角度系が主体。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・コアに合わせて最の下端深度を変更した(85.03⇒84.89) ・表現の適正化(軟質化、mm、原岩組織)
250	-	-	-	79.37	79.49	上端42°、下端39°の跡孔目の間は、岩片状～一部砂状。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・岩片状～一部砂状部は周囲と異なる状況であるため追記した
251	80.14	80.31	幅1m/m、長さ10～20m/mの細断状にマンガンが密集する。	80.24	80.31	幅1mm、長さ10～20mmの細断状にマンガンが密集する。								-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-		・マンガン細断が密集する上端深度をコアに合わせて変更した ・表現の適正化(mm)
252	80.36	-	80.36m以深は硬さ「E」「D」(一部「C」)の岩片と、岩片間の粘土化部からなる。	-	-	-								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
253	80.76	81.68	跡孔目や岩芯の一部がマンガン鉱染受ける。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
254	81.70	82.40	岩片間の基質の一部が風化・褐色化が進む。	-	-	-								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
255	81.90	84.40	φ1～2m/mの表面がマンガン化した石英粒(石英斑晶)が黒色で点在する。	81.90	84.40	φ1～2mmの表面がマンガンで黒色化した石英粒が点在する。								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(mm) ・文章の適正化
256	83.30	83.74	83.30～83.74mには硬さ「G」の硬質岩片が多く残留。	-	-	-								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
257	83.30	83.50	岩片間の砂状～粘土化部が風化で褐色化する。	-	-	-								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
258	84.06	84.54	10～20°跡孔目ぞいに風化で褐色化する。 また、硬さ「D」岩片が主体。	84.06	84.55	10～20°跡孔目沿いに風化で褐色化する。 また、硬さ「D」岩片が主体。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・鋭記の修正(84.54⇒84.55) ・表現の適正化(沿い)
259	84.54	84.71	砂状化が拡大している。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き、岩組織は消滅している。	84.55	84.89	砂状化が拡大している。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き、原岩組織は消滅している。								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・鋭記の修正(84.54⇒84.55) ・コアに合わせて下端深度を変更した ・表現の適正化(原岩組織)
260	84.89	85.03	(跡孔目状傾)εランク (コアの形状傾)Vランク (コアの硬さ傾)Eランク (岩級区分傾)D	84.89	85.03	(跡孔目状傾)εランク (コアの形状傾)Vランク (コアの硬さ傾)Dランク (岩級区分傾)CL								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・コアに合わせて跡孔目状態、コアの形状、コアの硬さのランクを変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名:H27-B-3

○:記載有　　なし:該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－:該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは"-"で表示)											破砕帯										
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか? ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形状、含有物(有機質、異型など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、淘汰度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鉱滓作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・径、岩品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間を纏めて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や挿在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・挿入岩 ・岩種	破砕帯区分 ・記号(Hc,Hb,Hd) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の根拠等 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅(実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・硬状構造、壁舎面構造、葉理構造、細目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	鉱滓作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	
261	85.03	85.61	GL 一部に硬さ'C'j岩片も含むが、割れ目ぞいに砂状化する。	84.89	85.61	GL 一部に硬さ'C'j岩片も含むが、割れ目沿いに砂状化する。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・コアに合わせて上端深度を変更した ・表現の適正化(沿い)
262	85.36	85.60	割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。	85.36	85.60	高角度割れ目沿いの砂状化が進んでいる。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(沿い) ・砂状化が進んでいる割れ目を明記した
263	85.28	85.32	緑泥石化し、淡緑灰色を呈する。 φ0.5m/m以下の微細な黄鉄鉱を伴う。	85.28	85.32	緑泥石化し、淡緑灰色を呈する。 φ0.5mm以下の微細なセリサイト、黄鉄鉱を伴う。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(mm) ・セリサイトも品出していたため追記した
264	85.61	91.35	D 硬さ'D'j/'C'j岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなり全体として軟化が著しい。	85.61	91.35	D 硬さ'D'j/'C'j岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなり全体として軟質化が著しい。									なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(軟質化)
285	85.61	87.18	(変更欄)4ランク	85.61	87.18	(変更欄)3ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・周囲と同程度の変質であるため変質のランクを3ランクに変更した
266	-	-	-	85.70	85.70	15°の割れ目沿いが褐色を呈し、マンガン鉱染が見られる。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・褐色化及びマンガン鉱染が顕著な割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した
267	86.50	86.78	40～50°割れ目ぞいに硬さ'C'j/'D'j岩片が残留する。岩片中には細かい割れ目が多く、ハンマーの打撃で更に細片化するものが多い。	86.50	86.78	40～50°割れ目沿いに硬さ'C'j/'D'j岩片が残留する。岩片中には細かい割れ目が多く、ハンマーの打撃で更に細片化するものが多い。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(沿い)
268	87.18	91.35	強風化による砂状化が拡大し残留する硬さ'C'j/'D'j岩片ともに'砂礫状'を呈する。 このうち、87.18～87.52mの基質部はスライムである。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	○		
269	87.18	87.52	(地質名欄)Gp	87.18	87.52	(地質名欄)コア欠如									-	-	-	-	-	-	-	-	-	○		・上記の記載に合わせてスライム区間を区分した
270	87.18	87.52	(割れ目状態欄)dランク (コアの形状欄)Vtランク (コアの硬さ欄)Eランク (風化欄)εランク (変質欄)3ランク (岩級区分欄)D	87.18	87.52	(割れ目状態欄)空欄 (コアの形状欄)空欄 (コアの硬さ欄)空欄 (風化欄)空欄 (変質欄)空欄 (岩級区分欄)空欄									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・スライム区間のランクを変更した
271	87.18	89.86	(色調欄)10YR6/3に赤い黄橙	87.18	89.86	(色調欄)7.5YR7.2明褐灰									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・コアに合わせて色調を変更した
272	87.52	91.35	(風化欄)εランク	87.52	91.35	(風化欄)δランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・上位と同様の風化の程度であるため風化のランクをδランクに変更した
273	88.18	89.00	残留している岩片量が多くなり、割れ目も認識できるようになる。	88.18	89.05	残留している岩片量が多くなり、割れ目も認識できるようになる。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・コアに合わせて下端深度を変更した
274	89.00	89.05	(割れ目状態欄)dランク (コアの形状欄)Vtランク	89.00	89.05	(割れ目状態欄)εランク (コアの形状欄)Vランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目は認識でき、下位より割れ目が少ないため、割れ目状態及びコアの形状のランクを変更した
275	89.00	90.14	89.00～90.14mは礫に相当する岩片のみ採取され、基質に相当する砂状～粘土状部に鉱滓時に流失したものと推定される。	89.05	90.14	89.05～90.14mは礫に相当する岩片のみ採取され、基質に相当する砂状～粘土状部は鉱滓時に流失したものと推定される。						○	○		-	-	-	-	-	-	-	-	-	○		・被状コアに合わせて上端深度を変更した ・脈記の修正(に⇒は)
276	90.15	90.55	緩った砂状部と硬さ'C'j主体の硬質岩片からなる砂礫状。一部で割れ目が残留している。	90.14	90.55	硬質な砂状部と硬さ'C'j主体の硬質岩片からなる砂礫状。一部で割れ目が残留している。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・脈記の修正(90.15⇒90.14) ・表現の適正化(緩った⇒硬質な)
277	90.55	90.85	90.55～90.85mはスライム。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	○		
278	90.55	90.85	(地質名欄)Gp	90.55	90.85	(地質名欄)コア欠如									-	-	-	-	-	-	-	-	-	○		・記事欄の記載に合わせて変更した
279	90.55	90.85	(割れ目状態欄)dランク (コアの形状欄)Vtランク (コアの硬さ欄)Eランク (風化欄)εランク (変質欄)3ランク (岩級区分欄)D	90.55	90.85	(割れ目状態欄)空欄 (コアの形状欄)空欄 (コアの硬さ欄)空欄 (風化欄)空欄 (変質欄)空欄 (岩級区分欄)空欄									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・スライム区間のランクを変更した
280	90.85	91.00	硬質岩片のみ採取され、基質の砂状部は鉱滓時に流失したものと推定される。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	○		
281	91.35	91.54	破砕帯(主せん断面91.44m)	91.35	91.54	破砕部(最新活動面は91.35m か91.44mの可能性がある)									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面よりも用語に統一 ・最新活動面の可能性がある深度を追記した
282	91.35	91.43	Hb 上端36°で波打って、下端25°で湾曲して連続。φ2～3m/m石英粒、φ3～10m/m粘土化～砂状化岩片を30%程度含む軟質な'無質粘土状'を呈する。 色調は灰白(5Y8/1)～にぶい黄橙色(10YR7/2)、厚240m/m	91.35	91.43	Hb 上端36°で波打って、下端25°で湾曲して連続。φ2～3mm石英粒、φ3～10mm粘土化～砂状化岩片を30%程度含む軟質な'粘土質硬状'を呈する。 色調は灰白(5Y8/1)～にぶい黄橙色(10YR7/2)、厚240mm 含まれる細粒部は明目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-	○	-	-	-	-	-	-		・被主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(mm) ・脈記の修正('色'の記載漏れ)	
283	91.43	91.44	Hc-1 25°で上端は湾曲して下端は波打って連続。φ1m/m石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白(5Y8/1)、厚37～10m/m	91.43	91.44	Hc-1 25°で上端は湾曲して下端は波打って連続。φ1mm石英粒をごくわずか(5%以下)に含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白色(5Y8/1)、厚37～10mm。 変質を強く受けて、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。									-	-	-	○	-	-	-	-	-	-		・表現の統一(ガウジ→Hc-1に含んで表現) ・表現の適正化(mm) ・脈記の修正('色'の記載漏れ、'に'の記載漏れ) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
284	91.44	91.51	Hb 上端25°、下端18°でともに波打って連続。φ5m/m前後の硬さD岩片を30%程度含む少し風化したやや軟質な'粘質粘土状'を呈する。 色調は淡黄橙(10YR8/3)、厚30～60m/m	91.44	91.51	Hb 上端25°、下端18°でともに波打って連続。φ5mm前後の硬さD岩片を30%程度含む少し風化したやや軟質な'粘土質硬状'を呈する。 色調は淡黄橙色(10YR8/3)、厚30～60mm 含まれる細粒部は明目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-	○	-	-	-	-	-	-		・被主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・上位に比べて粘土化が進んでいないため硬軟を変更した ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(mm) ・脈記の修正('色'の記載漏れ)	
285	91.51	91.54	Hd 上端18°で波打って、下端20°で直線的に連続。下端面とほぼ平行な20～30°割れ目とこれにほぼ直交する割れ目が多くφ5m/m程度に硬さDの岩片に細粒化、岩片間には軟質粘土が分布、全体的に'粘土質硬状'を呈する。 色調はにぶい橙(7.5YR7/4)、厚さ20～25m/m	91.51	91.54	Hd 上端18°で波打って、下端20°で直線的に連続。下端面とほぼ平行な20～30°割れ目とこれにほぼ直交する割れ目が多くφ5mm程度に硬さDの岩片に細粒化、岩片間には軟質粘土が分布、全体的に'粘土質硬状'を呈する。 色調はにぶい橙色(7.5YR7/4)、厚さ20～25mm 軟質で、含まれる細粒部は斑状的に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(尾注、mm、軟質⇒軟質) ・脈記の修正('色'の記載漏れ)	
286	91.54	93.05	D φ10m/m前後の硬さD岩片と岩片間の粘土～砂状部からなり、全体として軟化著しい。92.00m以浅では石英以外は砂状化する。	91.54	92.85	D φ10mm前後の硬さD岩片と岩片間の粘土～砂状部からなり、全体として軟質化著しい。92.00m以浅では石英以外は砂状化する。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・D級の下端深度の変更に伴い、変更した ・表現の適正化(mm、軟質化)
287	-	-	-	91.54	91.59	上端20°下端8°の割れ目間が強く変質し、淡黄色の砂礫状を呈する。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・幅広の変質した砂礫状部は周囲と異なる状況であるため追記した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名 :H27-B-3

○ :記載有り　なし:該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ :該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード												
	記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは'-'で表示)														破砕帯							
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形状、含有物(有機質、異質など)を明確的に記載。 ・その他、無固と異なる状況や特徴的な状況があれば、必須に応じて、硬軟、淘汰度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	節理体等における特記事項 ・コア欠如、コア検乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を明確的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、既品の種類・粒、既品の含有率などを記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や推定物の種類を明確的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべりスリッケンサイド、条線、見かけの変位センス等を記載	鉱物脈 ・石英脈、凍石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	挿換岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hj) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・結合構造、複合岩構造、未帯構造、割目状結合など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	節理体等における特記事項 ・コア欠如、コア検乱など	記事を削除・変更・追記した理由
289	-	-	-	91.59	91.67	上端89°、下端32°の間は珪化部で硬質である。マンガン鉱染により、全体が黒色化する。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・珪化部は周囲と異なる状況であるため追記した
289	91.54	92.85	(風化種)zランク	91.54	92.85	(風化種)δランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と同様の風化の程度であるため風化のランクをδランクに変更した
290	-	-	-	92.71	92.85	上端69°、下端40°の間は灰白色粘土が網目状に分布する。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・網目状の灰白色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した。
291	92.85	93.25	(割れ目状粘種)uランク (コアの形状種)Vランク (コアの硬さ種)Eランク (風化種)zランク (岩級区分種)D	92.85	93.25	(割れ目状粘種)uランク (コアの形状種)Vランク (コアの硬さ種)Dランク (風化種)δランク (岩級区分種)CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて割れ目状態、コアの形状、コアの硬さ、風化のランクを変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
292	93.05	93.66	CL 70～80°割れ目が多く、割れ目ぞいに厚1～3m/m程度の砂状部～粘土化部をはさむ。	92.85	93.66	CL 70～80°割れ目が多く、割れ目沿いに幅1～3mm程度の砂状部～粘土化部を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の変更に伴い、CL線の上端深度を変更した(なお、93.05mは93.25mの誤記) ・表現の適正化(沿い、厚⇒幅、mm、挟む)
293	93.66	93.86	D 上下端80°割れ目に囲まれ粘土化と砂状化が著しい。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
294	93.66	93.86	(風化種)zランク (変質種)4ランク (岩級区分種)D	93.66	93.86	(風化種)δランク (変質種)3ランク (岩級区分種)CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と同様の風化、変質の程度であるため風化、変質のランクを変更した ・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
295	93.86	99.50	CL 50～70°とこれに直交する40～50°割れ目が多い。 94.43m以浅は硬さ'D'が、94.43m以深は硬さ'C'が主体。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
296	94.25	94.31	10～20°割れ目に囲まれ'砂礫状'を呈する。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
297	94.25	94.31	(風化種)zランク	94.25	94.31	(風化種)δランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と同様の風化の程度であるため風化のランクをδに変更した
298	94.43	-	94.43m以深では岩片自体は硬さ'B'相当のものも多く含むが割れ目が10～20m/m程度の間隔で交差するために小岩片している。 割れ目の一部はマンガン鉱染受ける。	94.43	-	94.43m以深では岩片自体は硬さ'B'相当のものも多く含むが割れ目が10～20mm程度の間隔で交差するために細片化している。 割れ目の一部はマンガン鉱染受ける。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm、小岩片⇒細片化)
299	95.50	95.71	95.50～95.71mは割れ目から分離し、δ10m/m前後に小岩片している。	95.50	95.71	95.50～95.71mは割れ目から分離し、δ10mm前後に細片化している。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm、小岩片⇒細片化)
300	95.96	95.96	60°割れ目に厚1m/m灰白色軟質粘土をはさむ。上盤側厚さ約5m/mにマンガン鉱染部を伴う。	95.96	95.96	60°割れ目に幅1mm灰白色軟質粘土を挟む。上盤側厚さ約5mmにマンガン鉱染部を伴う。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(厚⇒幅、mm、挟む) ・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した
301	95.94	98.05	硬さ'D'の岩片状コア主体、処々に硬さ'C'も混入する。	95.94	98.05	硬さ'D'の岩片状コア主体、所々に硬さ'C'も含む。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(所々、混入する⇒含む)
302	96.52	97.60	30～40°と60～70°割れ目が交差し前者が後者に切られるものもある。(右ズレ3～5m/m)	96.52	97.60	30～40°と60～70°割れ目が交差し前者が後者に切られる。切られるものもある。(右ズレ3～5mm) 60～70°割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・30～40°の割れ目を接断する60～70°の割れ目もあるため変位としたものは一連の割れ目ではないと判断して「切られる」を「上がられる」に変更し、変位量についての記載を削除した ・割れ目及び周辺の状況について追記した
303	97.07	97.07	幅2～3m/m、15°石英脈、劣化は伴なわず密着。	97.07	97.07	幅2～3mm、15°石英脈、劣化は伴わず密着。									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm、伴う)
304	97.58	97.69	マンガン鉱染が進み黒褐色化。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
305	97.69	97.78	硬さ'C'岩片中に固結状の幅1～2m/m白色粘土が斑状～δ2～3m/m既点状で分布する。	97.69	97.78	硬さ'C'岩片中に硬質な幅1～2mm白色粘土が斑状～δ2～3mm既点状で分布する。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm) ・表現の統一(固結状⇒硬質な)
306	98.02	98.02	幅2～5m/m、30°石英脈、一部で褐色割れ目化する。	98.02	98.02	幅2～5mm、30°石英脈、一部で褐色割れ目化する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm)
307	98.19	98.92	硬さ'C'主体。 割れ目の面は褐色化するものが多い。 割れ目ぞいに軟化する部分もある。	98.05	98.92	硬さ'C'主体。 割れ目の面は褐色化するものが多い。 割れ目沿いに軟質化する部分もある。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・硬さ'C'の上端深度をコアに合わせて変更した ・表現の適正化(沿い、軟質化)
308	-	-	-	98.20	98.20	50°割れ目に幅3～5mmの褐色粘土を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・褐色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した
309	98.92	99.50	硬さ'D'主体。全体に軟化しているが風化、変質は弱い。	98.92	99.50	硬さ'D'主体。全体に軟質化しているが、風化、変質は弱い。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(軟質化)
310	99.50	99.56	(変質種)4ランク	99.50	99.56	(変質種)3ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・下位と同様の変質の程度であるため変質のランクを3ランクに変更した
311	99.50	99.68	(岩級区分種)D	99.50	99.68	(岩級区分種)CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
312	99.50	99.68	破砕帯(主せん断面99.56m)	99.50	99.68	破砕部(最新活動面は99.53mか99.56mの可能性がある)									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・用語の統一(破砕帯⇒破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の可能性がある深度を追記した
313	99.50	99.56	Hj 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行な割れ目数条と、これに直交～60°斜交する割れ目でδ5～10m/m硬さ'E'の岩片に細片化。岩片間に幅1～3m/m白色軟質粘土が斑状に分布し'粘土混じり岩片状'を呈する。一部にマンガン鉱染伴う。 色調は明黄褐(10YR6/6)、厚さ45m/m	99.50	99.56	Hj 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。上端とほぼ平行な割れ目数条と、これに直交～60°斜交する割れ目でδ5～10mm硬さ'E'の岩片に細片化。岩片間に幅1～3mm白色軟質粘土が斑状に分布し'粘土混じり岩片状'を呈する。一部にマンガン鉱染伴う。 やや軟質。細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。 色調は明黄褐色(10YR6/6)、厚さ45mm 99.53mには上端と平行で直線的な幅1mmの灰白色粘土を挟む。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(ほぼ、mm、軟質⇒軟質) ・主せん断面は肝盛結果であるため記載しないこととし、上端に変更した ・脈記の修正(「色」の記載漏れ) ・99.35mの直線的な灰白色粘土について追記した
314	99.56	99.57	Hc-2 38°で上下端とも波打って連続。δ1～3m/m の一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒10%程度含む半固結状粘土(ガウジ)。 色調は灰白(7.5YR8/2)、厚さ5～10m/m	99.56	99.57	Hc-2 38°で上下端とも波打って連続。δ1～3mmの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒10%程度含み、フィルム状の細粒部が挟在している。やや硬質な粘土(ガウジ)。 色調は灰白色(7.5YR8/2)、厚さ5～10mm。 変質を受けて、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。									-	-	-	-	○	○	○	○	-	-	○	・種を含むため破砕部内物質の名称を変更した ・フィルム状の細粒部について追記した ・表現の統一(ガウジ⇒Hc-2に含んで表現、半固結⇒やや硬質) ・表現の適正化(mm) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	-	-
315	99.57	99.68	Hj 上端45°で波打って、下端37°で直線的に連続。主せん断面と平行な数条の割れ目とこれに直交～60°斜交する割れ目が多く、δ5～20m/mに岩片化。 岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部をはさむ'砂混じり岩片状'を呈し、マンガン鉱染のため黒っぽい色調の補区(10YR4/3)で厚さ85m/m	99.57	99.68	Hj 上端38°で波打って、下端37°で直線的に連続。上位のHc-2の粘土と平行な数条の割れ目とこれに直交～60°斜交する割れ目が多く、δ5～20mmに岩片化。 岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部を挟む'砂混じり岩片状'を呈し、マンガン鉱染のため黒色化し、補区色(10YR4/3)を呈する。厚さ85mm。硬質、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脈記の修正(45°⇒38°、上端境界の傾斜をHc-2の下端境界の傾斜に合わせた) ・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(挟む、mm、黒っぽい⇒黒色化) ・主せん断面肝盛結果であるため記載しないこととし、上位のHc-2の粘土に変更した ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)	-	-
316	99.68	101.78	CL 上下端側は硬さ'D'、中央部は硬さ'C'主体。下端側の101.45mは深は風化、変質がやゝ進み硬さ'D'と軟化。	99.68	100.50	CL 硬さ'D'主体。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(やや) ・脈記の修正(101.78⇒100.50) ・CL線の下端深度を変更したため、当該区間以外の記載を削除した		

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名：H27-B-3

○：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)												破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・褐鉄の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の程度及び形状、含有物(有機質、貝殻など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、礫径、淘汰度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	根拠作業における特記事項 ・コア欠如、コア接続など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩盤の種類・造、岩盤の含有要素などを記載	色調 ・褐鉄の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	鉱物現(岩現等の鉱物) ・同系統の鉱物の特徴を持つ区間を求めて記載。 ・系統毎の代表的な鉱物の鉱物の見かけの傾斜や按在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な鉱物の鉱物があれば、鉱物の鉱物、鉱物の種類・造、鉱物の色調、鉱物の量(%)、鉱物の見かけの傾斜など	鉱物現 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	鉱物量 ・岩種	破砕区分 ・記号(Hc,Hb,Hj) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅(測定できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・現象 ・粗粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・脈状構造、現合面構造、断層構造、剪断状組土など	最新活動面(設定した場合)	空隙の状況	根拠作業における特記事項 ・コア欠如、コア接続など	記事を削除・変更・追記した理由
317	100.00	101.00	密着度が低い割れ目→中着割れ目を多く含む。すでに開口割れ目化するものもある。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－		
318	100.50	101.45	[岩級区分欄]CL	100.50	101.45	[岩級区分欄]CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・脈記の修正(岩級区分要素の組合わせからCM級となる)
319	101.45	101.78	幅1～2m/m白色～黄色粘土が断状に多く分布。	101.45	101.78	幅1～2mm白色～黄色粘土が断状に多く分布。									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・表現の適正化(mm)
320	－	－	－	101.78	102.56	CL 硬さ「C」主体で、割れ目沿いに砂や粘土を挟む。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・下位のCM級と区別するため適記した
321	101.78	102.56	[割れ目状態欄]bランク [岩級区分欄]CM	101.78	102.56	[割れ目状態欄]bランク [岩級区分欄]CL									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・割れ目に挟在物を挟むことが多いため割れ目状態のランクをbランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
322	101.78	104.28	CM 上端側の101.78～102.56mまでは硬さ「C」、102.56m以深は硬さ「B」で堅硬である。 割れ目挟在物の分布は少ないが、上端側硬さ「C」部分では、割れ目ずれに砂状化が進む部分もある。 102.56m以深の硬さ「B」の堅柱状～柱状コアには幅1～2m/mの白色粘状の「中着割れ目」が多く分布するがハンマーの強打では分離しない。 割れ目には殆んど挟在物は認められないが、一部で厚さ2～3m/mで砂状～細片状化部分はみられるものもある。	102.56	104.28	CM 硬さ「B」で堅硬である。 挟在物を伴う割れ目は少ない。 粘柱状～柱状コアには幅1～2mmの白色粘状の「中着割れ目」が多く分布するが、ハンマーの強打では分離しない。 一部で厚さ2～3mmで砂状～細片状化部を挟むものもある。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・上記の変更に伴い、CM級の上端深度を変更した ・CM級の上端深度を変更したため、当該区間以外の記載を削除した ・表現の適正化(沿い、挟む、mm) ・文章の適正化
323	103.24	103.48	103.24m、103.48mのいずれも65°割れ目は交差する割れ目を切り(変位量不明)、粉砕で厚さ2～3m/m、後者で2m/m程度の砂を挟む。マンガンも伴う。	103.24	103.48	103.24m、103.48mのいずれも65°割れ目は交差する割れ目を止め、切り(変位量不明)、粉砕で厚さ2～3mm、後者で幅2mm程度の砂を挟む。マンガンも伴う。 65°の割れ目沿いの砂は局所的で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・103.48mの割れ目は、これと横断する低角度の岩在割れ目が見られる。103.24mの割れ目は横断する割れ目が見られないが、103.48mの割れ目と同系統の割れ目であるため、切られたとした割れ目は変位によるものではなく、元々の割れ目の分布であると判断して「切り」を「止め」に変更し、変位量についての記載を削除した ・割れ目及び周辺の状況について適記した ・表現の適正化(挟む、mm) ・脈記の修正(「幅」の記載漏れ)
324	103.94	104.00	風化で淡褐色化し軟化する。	103.94	104.00	風化で淡褐色化し軟質化する。									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・表現の適正化(軟質化)
325	104.28	105.88	CH 堅硬で残状。 一部で中着割れ目(白い筋状のもの)が分布するが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。	104.28	105.88	CM 堅硬で残状。 一部で中着割れ目(白い筋状のもの)が分布するが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 104.28m、104.61m(に70°の割れ目が分布し、粉砕は幅2mmの砂を挟在し、マンガンも伴う。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・下記の変更に伴い、岩級を変更した ・砂の挟在やマンガンを伴う割れ目は周囲と異なる状況であるため適記した
326	104.28	105.88	[コアの形状欄]IIIランク [岩級区分欄]CH	104.28	105.88	[コアの形状欄]IVランク [岩級区分欄]CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・周囲と同程度の割れ目頻度であるためコアの形状のランクをIVランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
327	105.16	105.19	割れ目そいに風化で淡く褐色化するが劣化は伴なわない。	105.14	105.14	67°の割れ目沿いに風化で淡く褐色化するが劣化は伴わない。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・コアに合わせて深度を変更した ・割れ目の傾斜を追記した ・表現の適正化(沿い、伴う)
328	105.33	105.52	割れ目そいに軽微にマンガン鉱染受ける。	105.33	105.52	割れ目沿いに軽微にマンガン鉱染受ける。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・表現の適正化(沿い)
329	105.88	108.71	CM 岩片は堅硬であるが、全体に割れ目そいに風化で褐色化する。 中着割れ目も多く、そのうち、褐色化したものはハンマーの強打で分離・細片化し易い。既に開口化するものも多い。 一部で砂や白色粘土の薄層をはさむが、挟在物のない割れ目が主体。	105.88	108.71	CM 岩片は堅硬であるが、全体に割れ目沿いに風化で褐色化する。 中着割れ目も多く、そのうち、褐色化したものはハンマーの強打で分離・細片化し易い。既に開口化するものも多い。 一部で砂や白色粘土の薄層を挟むが、挟在物のない割れ目が主体。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・表現の適正化(沿い、挟む)
330	－	－	－	106.00	106.16	106.00m、106.16mに73°の割れ目が分布し、粉砕には幅2～3mmの砂を挟む。マンガンを伴う。後者には幅1mmの砂を挟む。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・マンガン、砂を伴う割れ目は周囲と異なる状況であるため適記した
331	106.32	106.60	中着割れ目が約10m/m間隔で密に分布、全体が軟質化する。 一部の中着割れ目は密着度が低い。	106.32	106.60	潜在割れ目が約10mm間隔で密に分布、全体が軟質化する。 一部の潜在割れ目は密着度が低い。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・中着割れ目は認められず、潜在割れ目が認められたため適正化した ・表現の適正化(mm、軟質化)
332	107.30	－	107.30m以深では φ2～3m/mの緑泥石と推定される緑柱状色斑点が点在する。 また、割れ目の面も緑灰色を呈することが多い。	107.30	－	107.30m以深では φ2～3mmの緑泥石のと推定される緑柱状色斑点が点在する。 また、割れ目の面も緑灰色を呈することが多い。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・表現の適正化(mm) ・緑泥石であるため「推定」の記載を削除した
333	107.60	108.60	φ5～10m/mと大型のカリ長石斑晶を多く含む。	107.60	108.60	φ5～10mmと大型のカリ長石斑晶を多く含む。									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・表現の適正化(mm)
334	108.68	108.71	割れ目そいに細片化する。	108.68	108.71	割れ目沿いに細片化する。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・表現の適正化(沿い)
335	108.71	112.27	CH 堅硬・残状。 白い筋状の中着割れ目を多く含むが大半が周囲と同化し、密着度が高くなっている。ハンマーの強打でも分離しない。 割れ目挟在物は分布しない。 割れ目そいはごく薄く風化で褐色化するが劣化しない。	108.71	112.27	CM 堅硬・残状。 白い筋状の中着割れ目を多く含むが、大半が周囲と同化し、密着度が高くなっている。ハンマーの強打でも分離しない。 割れ目挟在物は分布しない。 割れ目沿いはごく薄く風化で褐色化するが劣化しない。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・下記の変更に伴い、岩級を変更した ・表現の適正化(沿い)
336	108.71	112.27	[コアの形状]IIIランク [岩級区分欄]CH	108.71	112.27	[コアの形状]IVランク [岩級区分欄]CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・周囲と同程度の割れ目頻度であるためコアの形状のランクをIVランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
337	110.30	110.95	50～60°とこれに直交～斜交する10～30°割れ目や中着割れ目が多い。ゆ着割れ目は密着度が高い。 両者割れ目は後者割れ目の一部を切っている。	110.11	110.95	50～60°とこれに直交～斜交する10～30°割れ目や中着割れ目が多い。ゆ着割れ目は密着度が高い。 粉者割れ目は後者割れ目の一部をとおであり、一部には後者割れ目が粉者割れ目と接続している。切っている。 50～60°の割れ目には細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・コアに合わせて上端深度を変更した ・脈記の修正(両者⇒粉者) ・低角度の中着割れ目は50～60°の割れ目を横断しているため、その旨を追記し、「切っている」を「止めている」に変更した ・割れ目及び周辺の状況について適記した
338	111.14	111.14	76°割れ目に厚さ1～2m/m緑泥石粘土～シルトをはさむ。 φ0.1m/mの微小なセリサイトも点在する。	111.14	111.14	76°割れ目に厚さ1～2mmの緑泥石粘土～シルトを挟む。 φ0.1mmの微小なセリサイトも点在する。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・表現の適正化(挟む、mm)
339	111.31	111.34	割れ目そいに薄く風化・褐色化する。	111.31	111.34	割れ目沿いに薄く風化・褐色化する。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・表現の適正化(沿い)
340	112.00	112.27	70～80°とこれに直交する20～30°の中着割れ目が約10m/m間隔で密集するが、密着度が高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。	112.00	112.27	70～80°とこれに直交する20～30°の中着割れ目が約10mm間隔で密集するが、密着度が高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・表現の適正化(mm)
341	112.27	113.27	CM 堅硬であるが上下位に比べ割れ目がやや多くなる。 ゆ着割れ目も多いが、上端の112.27～112.32mを除き密着度は高い。 割れ目には挟在物は分布せず、その面も未風化・新鮮なものが主体である。 一部の割れ目で緑泥石が厚さ1m/m程度砂状～シルト状を呈する。	112.27	113.27	CM 堅硬であるが上下位に比べ割れ目がやや多くなる。 ゆ着割れ目も多いが、上端の112.27～112.32mを除き密着度は高い。 割れ目には挟在物は分布せず、その面も未風化・新鮮なものが主体である。 一部の割れ目で緑泥石が厚さ1mm程度砂状～シルト状を呈する。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・表現の適正化(やや) ・脈記の修正(挟在物⇒挟在物)
342	113.27	114.68	CH 堅硬、残状。 割れ目はないが70～80°の高角度系が主体。ゆ着割れ目も同傾向で密着度が高い。	113.27	114.41	CH 堅硬、残状。 割れ目はないが70～80°の高角度系が主体。ゆ着割れ目も同系統で密着度が高い。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－		・下記の変更に伴い、CH級の下端深度を変更した ・表現の適正化(傾向⇒系統)

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名 :H27-B-3

○ :記載有り　　なし :該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－ :該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)												破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか? ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形状、含有物(有機質、異物など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湧水状、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鉱遠作業における特記事項 ・コア欠如、コア接続など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、現品の種類・径、現品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	鉱物学的な割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間を束ねて記載。 ・系統集合代表的な割れ目の見かけの傾斜や後在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目がある。割れ目の開閉、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	挿獲岩 ・岩球	破砕度区分 ・記号(H_L,H_M,H_H) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・脈状構造、複合面構造、葉等構造、明瞭状粘土など	最新活動面(設定した場合)	空隙の状況	鉱遠作業における特記事項 ・コア欠如、コア接続など	
343	114.24	114.24	60°中着割れ目そいに0.2～3m/m暗緑灰色の緑泥石が点在する。	114.24	114.24	60°中着割れ目沿いに0.2～3mm暗緑灰色の緑泥石が点在する。																					・表現の適正化(沿い、mm)
344	114.40	－	114.40m以深の割れ目の一部は薄く淡褐色化する。 軟化、粘土化などの劣化は伴わない。	114.40	－	114.40m以深の割れ目の一部は薄く淡褐色化する。 軟質化、粘土化などの劣化は伴わない。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(軟質化、伴う)
345	114.68	115.12	CM 70～80°割れ目が多く、このうち、114.89～115.12m間は上端深さ5m/m、下端30m/mで砂状化～片状化する。	114.41	115.12	CM 70～80°割れ目が多く、このうち、114.89～115.12m間は上端深さ5mm、下端幅30mmで砂状化～片状化する。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・下記の変更に伴い、CM級の上端深度を変更した ・表現の適正化(mm) ・脈記の修正(「幅」の記載漏れ)
346	114.41	114.68	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	114.41	114.68	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・上位と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
347	114.68	115.00	(コアの硬さ欄)Bランク	114.68	115.00	(コアの硬さ欄)Cランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアはやや軟質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した
348	－	－	－	115.00	115.12	破砕部 H (最新活動面115.00m) 上端90°、下端60°でいずれも直線的に連続。上下端とも緑灰色のフィルム状粘土を挟む。幅10～20mm程度の岩片主体で岩片間に灰黄色粘土を網目状に伴う粘土混じり破状を呈する。岩片には定向配列が見られる場合がある。やや硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。にぶい橙色を呈する。幅20mm。									－	－	－	－	○	○	○	○	○	－	－	－	・粒子や細片状の礫の定向配列が認められることから破砕部として設定した ・破砕部に関する情報を記載した
349	－	－	－	115.00	115.12	(破砕度区分欄)Hj									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・上記の記載に合わせて破砕度区分を追記した
350	115.00	115.12	(岩級区分欄)CL	115.00	115.12	(岩級区分欄)CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
351	115.00	115.12	(コアの形状欄)Ⅳランク (コアの硬さ欄)Bランク	115.00	115.12	(コアの形状欄)Ⅴランク (コアの硬さ欄)Cランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲と比べて割れ目が多く、コアは軟質であるためコアの形状、コアの硬さのランクを変更した
352	115.12	115.12	80°割れ目の面に厚1m/m程度の緑泥石粘土がはさまれる。 上盤側厚さ約30m/mは片状化している。	~~115.12~~	~~115.12~~	~~80°割れ目の面に厚1m/m程度の緑泥石粘土がはさまれる。~~ ~~上盤側厚さ約30m/mは片状化している。~~									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・115.00～115.12mの破砕部の記事に含めた
353	115.12	116.80	CH 緊密、密着度の高いゆ着割れ目が多いが、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	115.12	116.80	CM 緊密、密着度の高いゆ着割れ目が多いが、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・下記の変更に伴い、岩級を変更した
354	115.12	116.80	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	115.12	116.80	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・下位と同程度の割れ目頻度であるためコアの形状のランクをⅣランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
355	115.90	116.10	115.90～116.10m間では0.5m/m前後の橙色のカリ長石が多く分布する。	115.90	116.10	115.90～116.10m間では0.5mm前後の橙色のカリ長石が多く分布する。									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(mm)
356	116.33	116.33	116.33m で70～80°で湾曲する割れ目と40°割れ目が交差。 後者は教書で切られる(変位量10m/m右ズレ) 面割れ目の一部に厚1m/m、交差部で5m/mの緑泥石粘状～シルト(「粘土」)をはさんでいる。	116.33	″116.33	116.33m で70～80°で湾曲する割れ目と40°割れ目が交差。 後者は教書でとめられる。~~切られる~~(変位量~~10mm~~ ~~每ズレ~~) 面割れ目の一部に幅1mm、交差部で幅5mmの緑泥石粘状～シルト(「粘土」)を挟んでいる。70～80°の割れ目沿いの細粒部は局所的で、割れ目面沿の岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目は存在しない。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・116.23m付近に高角度割れ目を横断する65°程度の岩在割れ目が見られるため「切られる」を「とめられる」に変更し、変位量についての記載を削除した ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・表現の適正化(厚⇒幅、挟む、mm) ・脈記の修正(「幅」の記載漏れ)
357	116.80	117.32	CM 一部に硬さ「C」が混ざるが概ね緊密な硬さ「B」が主体。 割れ目が多くなるが、ゆ着割れ目は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 長石は白濁化するものが多い。 挟在物は分布しない。	116.80	117.32	CM 一部に硬さ「C」~~を含む~~が概ね緊密な硬さ「B」が主体。 割れ目が多くなるが、ゆ着割れ目は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 長石は白濁化するものが多い。 挟在物は分布しない。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・脈記の修正(挟在物⇒挟在物) ・表現の適正化(混ざる⇒含む)
358	117.32	117.39	CL 75°割れ目ぞいに厚さ20～25m/mが風化で軟化する。	117.32	117.39	CL 75°割れ目沿いに厚さ20～25mmが風化で軟質化する。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(沿い、mm、軟質化)
359	117.32	117.39	(岩級区分欄)CL	117.32	117.39	(岩級区分欄)CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
360	117.39	118.47	CH 緊密、一部で割れ目多いが、コア長10cm以上の棒状コア主体。 白色筋状の中着割れ目も多いが、大半は密着度高くハンマーの強打でも分離しない。 0.2～3m/m暗緑灰色の緑泥石が点在する。 割れ目には挟在物は分布しない。	117.39	118.47	CM 緊密、一部で割れ目多いが、コア長10cm以上の棒状コア主体。 白色筋状の中着割れ目も多いが、大半は密着度高くハンマーの強打でも分離しない。 0.2～3mm暗緑灰色の緑泥石が点在する。 割れ目には挟在物は分布しない。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(mm) ・下記の変更に伴い、岩級を変更した
361	117.39	118.47	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	117.39	118.47	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲と同程度の割れ目頻度であるためコアの形状のランクをⅣランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
362	117.55	118.40	橙色のカリ長石が多く、全体ににぶい橙色の色調を呈する。	－	－	－									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
363	－	－	－	118.20	118.46	118.20m~75°、118.46m~75°の割れ目が見られ、幅1mm程度の緑灰色シルトを挟む。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・高角度の割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した
364	118.47	119.00	CM 上位に比べ割れ目が多くなるが、岩片は緊硬(硬さ「B」)で、挟在物は分布しない。 長石は白濁化することが多い。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
365	119.00	119.11	CL 風化と変質が進み全体が軟化する。	119.00	119.11	CL 風化と変質が進み全体が軟質化する。									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(軟質化)

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名:H27-B-3

○:記載有り　なし:該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－:該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード														記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)											破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか? ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・褐鉄の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物(有機質、異物など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、淘汰度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鉱床作業における特記事項 ・コア支柱、コア優良など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、岩盤の種類・性、岩盤の含有率などを記載	色調 ・褐鉄の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	間隙等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統集合代表的な割れ目の見かけの傾斜や接在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	被膜岩 ・岩種	破砕帯									
																	破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hi) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅(実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・傾状葉造、複合葉構造、葉等構造、網目状粘土など	最新活動面(設定した場合)	空隙の状況	鄙遠作業における特記事項 ・コア支柱、コア優良など	
366	119.11	119.25	破砕帯(主せん断面119.18m) アプライト(Ap)貫入部の破砕帯	119.11	119.25	破砕部(最新活動面119.18m) アプライト(Ap)貫入部の破砕部								-	-	-					-		-	-	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一
367	119.11	119.16	Hi 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。φ5～10m/m角礫状岩片からなり、岩片間は幅1m/m以下で白色、1～3m/mで緑灰色のいずれも軟質粘土をはさみ「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調は:にぶい橙(7.5YR7/4)～暗緑灰(10G4/1)、厚さ30m/m	119.11	119.16	Hi 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。φ5～10mm角礫状岩片からなり、岩片間は幅1mm以下で白色、幅1～3mmで緑灰色のいずれも軟質粘土を挟み「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調は:にぶい橙(7.5YR7/4)～暗緑灰色(10G4/1)、厚さ30mm やや硬質。含まれる細粒部は局所的に分布、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-										・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(挟む、mm、軟質→軟質) ・転記の修正(「幅」「色」の記載漏れ)
368	119.16	119.18	Hc-1 60°で上端波打ち、下端は直線的に連続。φ1m/m石英をわずかに含む軟質粘土(ガウジ)。 色調は緑灰(10G5/1)、厚さ1～10m/m	119.16	119.18	Hc-1 60°で上端波打ち、下端は直線的に連続。φ1mm石英をわずかに含む軟質粘土(ガウジ)。 色調は緑灰色(10G5/1)、厚さ1～10mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									-	-	-	○	○	○	○			○		-	-	・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の統一(ガウジ→Hc-1に含んで表現) ・表現の適正化(mm、軟質→軟質) ・転記の修正(「色」の記載漏れ)
369	119.18	119.25	Hi 上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行～これと斜交する割れ目で0.2～5m/mに細片化、岩片間の一部は幅1m/m緑灰色粘土細線が多く分布、全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰(10G4/1)、厚さ40m/m	119.18	119.25	Hi 上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。上位のHc-1の粘土と同様平行～これと斜交する割れ目で0.2～5mmに細片化、岩片間の一部は幅1mm緑灰色粘土細線が多く分布、全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰色(10G4/1)、厚さ40mm やや硬質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-										・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・主せん断面は評価結果であるため記載しないことと、上位のHc-1の粘土に変更した ・表現の適正化(ほぼ、mm) ・転記の修正(「色」の記載漏れ)
370	119.11	119.25	(岩級区分欄)D	119.11	119.25	(岩級区分欄)CL								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
371	119.25	120.10	CL 風化で全体が軟化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留。 割れ目の一部に厚さ2m/mの緑灰色・緑泥石粘土層をはさむ。 下端の120.02～120.09mは割れ目ぞいに砂状化進む。	119.25	120.10	CL 風化で全体が軟質化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留。 割れ目の一部に厚さ2mmの緑灰色の緑泥石粘土層を挟む。 下端の120.02～120.09mは割れ目沿いに砂状化進む。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(軟質化、挟む、沿い、mm、「+」→の)	
372	120.09	120.10	60°、厚さ10～15m/m緑泥石層で軟化している。	120.09	120.10	60°、厚さ10～15mm緑泥石化で軟質化している。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm、軟質化) ・層ではないため緑泥石化に変更した
373	120.10	125.90	CH 堅硬、機状。 割れ目挟在物は分布せず、面もほぼ未風化・新鮮。長石の白濁化は殆んど認められない。	120.10	125.90	CH 堅硬、機状。 割れ目挟在物は分布せず、面もほぼ未風化・新鮮。 長石の白濁化は殆んど認められない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(ほぼ)	
374	121.60	121.60	中着割れ目が開口割れ目化している。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
375	122.36	122.36	65°割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
376	122.61	122.61	60°割れ目厚2m/mの褐色砂はさむ。	122.61	122.61	60°割れ目に幅2mmの褐色砂挟む。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(厚→幅、挟む、mm)
377	－	－	－	123.35	125.06	80～90°の割れ目が連続する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・高角度割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した
378	123.63	123.67	割れ目ぞいに片状化するが岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴なわない。	123.63	123.67	割れ目沿いに片状化するが岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴わない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、伴う)
379	125.00	－	125.00m以深では中着割れ目は殆んど分布しない。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
380	125.90	128.05	CM 堅硬であるが中着割れ目から開口割れ目化したものが多い。 割れ目は挟在物はほとんど、ほぼ未風化で新鮮。 ほぼ全区間に亘り60～90°の中着割れ目ぞいに割れ目化し、一部ではその周辺が片状化していることが多い。	125.90	128.05	CM 堅硬であるが中着割れ目から開口割れ目化したものが多い。 割れ目は挟在物は挟まず、ほぼ未風化で新鮮。 ほぼ全区間にわたり、60～90°の中着割れ目沿いに割れ目化し、一部ではその周辺が片状化していることが多い。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(挟む、沿い、ほぼ、わたり)
381	127.15	127.58	80～90°の開口化した中着割れ目数本が約10m/m間隔で平行に分布。 全幅約50m/m に亘り片状化するが砂状化や粘土化などの劣化は伴なわない。	127.15	127.58	80～90°の開口化した中着割れ目数本が約10mm間隔で平行に分布。 全幅約50mmにわたり片状化するが砂状化や粘土化などの劣化は伴わない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm、伴う、わたり)
382	128.05	128.78	CH 堅硬。 128.05～129.00mにゆ着割れ目が開口割れ目化した80～90°割れ目が波打ちながら連続するが一部を除き片状化は認められない。	128.05	128.78	CM 堅硬。 128.05～129.00mにゆ着割れ目が開口割れ目化した80～90°割れ目が波打ちながら連続するが一部を除き片状化は認められない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・下記の変更に伴い、岩級を変更した	
383	128.05	128.78	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	128.05	128.78	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と同程度の割れ目頻度であるためコアの形状のランクをIVランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
384	128.78	128.78	33°割れ目に砂、φ2～3m/m細片化岩片を厚さ1～4m/mはさむ。	128.78	128.78	33°割れ目に砂、φ2～3mm細片化岩片を厚さ1～4mm挟む。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(挟む、mm)
385	128.78	129.47	CM 白い筋状の中着割れ目が多いが、大半は密着度高く、ハンマーの当打で分離しない。 割れ目挟在物は殆んど分布しない。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
386	129.47	129.84	CL 密着度の低い中着割れ目が多く分布する。 挟在物は殆んど分布しない。	129.47	129.84	CL 密着度の低い潜在割れ目が多く分布する。 挟在物は殆んど分布しない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・中着割れ目は認められず、潜在割れ目が認められたため適正化した
387	129.84	129.91	(岩級区分欄)D	129.84	129.91	(岩級区分欄)CL								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名:H27-B-3

○:記載有り　なし:該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－:該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード																記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)												破砕帯										
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか? ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・試験の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形態、含有物(有機質、異物など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海成堆、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア接続など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩盤の種類・造、岩盤の含有物などを記載	色調 ・試験の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	鉱物等の訳れ目 ・同系統の訳れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な訳れ目の見かけの傾斜や接在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な訳れ目があれば、訳れ目の間隔、開口幅、訳れ目面の色調、訳れ目面のすべリス(リップンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	熱変岩 ・岩種	破砕帯区分 ・記号(H_1,H_2,H_3) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅(実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・線状構造、複合面構造、葉構構造、剪目状粘土など	長断法動画(設定した場合)	空隙の状況	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア接続など	
388	129.84	129.91	破砕帯(主せん断面129.84m)	129.84	129.91	破砕部(長断法動画129.84m)																						・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・長断法動画という用語に統一
389	129.84	129.85	Hc-2 70°で上端直線的、下端は波打って連続。φ1～3m/m石英粒、φ2～3m/m岩片を10～20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は緑灰(10GG/1)、厚さ2～5m/mで一部厚さ0.5m/mのフィルム状部分もある。	129.84	129.85	Hc-2 70°で上端直線的、下端は波打って断続的。φ1～3mm石英粒、φ2～3mm岩片を10～20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は緑灰色(10GG/1)、厚さ2～5mm。一方、上端には厚さ0.5mmの暗緑灰色の軟質なフィルム状粘土が挟在し、連続性・直線性が良い。																						・表現の統一(ガウジ→Hc-2に含んで表現) ・表現の適正化(mm) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ) ・コアに合わせて幅2～5mmの粘土の連続性を変更した ・上端に挟在するフィルム状粘土の色調、硬軟、連続性・直線性について追記した	
390	129.85	129.91	Hi 上端70°で波打って、下端60～70°で少し湾曲して連続。φ2～5m/mに細粒片化し、岩片間は粘土～砂状化する。粘土量は他のHiに比べ多い。全体的に粘土質岩片を混在する。 色調はオリーブ灰色をおびた灰色(7.5Y7/1)厚さ25～35m/m	129.85	129.91	Hi 上端70°で波打って、下端60～70°で少し湾曲して連続。φ2～5mmに細粒片化し、岩片間は粘土～砂状化する。粘土量は他のHiに比べ多い。全体的に「粘土質岩片を混在する。 色調はオリーブ灰色を帯びた灰色(7.5Y7/1)厚さ25～35mm 軟質、下位の健岩部との境界が漸移的で直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									○	○	○	○				○				・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(mm、等ひら) ・粘土量を他のHiと定量的に比較したわけではないため削除した ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)	
391	129.91	130.57	(コアの硬さ欄)Bランク	129.91	130.57	(コアの硬さ欄)Cランク						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアはやや硬質であるためコアの硬さをCランクに変更した
392	129.91	130.57	CL 岩片は堅硬であるが高角度訳れ目、ゆ着訳れ目が1～2cm間隔で分布し片状コアが主体を示す。 訳れ目沿いで薄く砂状化するものがある。	129.91	130.57	CL 岩片は堅硬であるが高角度訳れ目、ゆ着訳れ目が1～2cm間隔で分布し片状コアが主体である。 訳れ目沿いで薄く砂状化するものがある。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い) ・文章の適正化(を示す⇒である)	
393	130.57	131.27	CM 白い筋状の ゆ着訳れ目が多いが密着度高くハンマーの強打で分離・細片化しない。	130.57	131.51	CM 白い筋状の ゆ着訳れ目が多いが密着度高くハンマーの強打で分離・細片化しない。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて下端深度を変更した
394	130.75	130.90	幅0.5～5m/m白色方解石が脈状に分布。	130.75	130.90	幅0.5～5mm白色方解石が脈状に分布。						-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm)
395	131.27	132.41	CH 堅硬・塊状ではぶ新鮮。 白色の筋状訳れ目があるが、周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。 φ2～3m/m暗緑灰色の緑泥石斑点が点在。全体が緑泥石化の鉱物学的変質受けるが軟化～粘土化など劣化はない。	131.51	132.41	CH 堅硬・塊状ではぶ新鮮。 白色の筋状訳れ目があるが、周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。 φ2～3m/m暗緑灰色の緑泥石斑点が点在。全体が緑泥石化の鉱物学的変質受けるが軟質化～粘土化など劣化はない。								○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて上端深度を変更した ・表現の適正化(ほぼ、mm、軟質化) ・緑泥石は鉱物であるが「鉱物学的」は記載しないことにした	
396	131.27	131.51	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	131.27	131.51	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位と同程度の訳れ目頻度であるためコアの形状のランクをⅣランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した	
397	132.41	134.33	CM 岩片は堅硬であるが一部で密着度の低いゆ着訳れ目が多くφ30m/m前後に分離・細片化する部分もある。 ほぼ本孔内・未変質で下端部を除き訳れ目狭在物は分布しない。	132.41	134.33	CM 岩片は堅硬であるが一部で密着度の低い潜在訳れ目が多くφ30mm前後に分離・細片化する部分もある。 ほぼ本孔内・未変質で下端部を除き訳れ目狭在物は分布しない。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(ほぼ、mm) ・ゆ着訳れ目は認められず、潜在訳れ目が認められたため適正化した	
398	133.00	133.60	133.00～133.60m間はゆ着訳れ目ぜいにφ30m/m前後に分離し思いが砂や粘土はほさない。	132.76	133.60	132.76～133.60m間はゆ着訳れ目沿いにφ30mm前後に分離し思いが砂や粘土は挟まない。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて径30mm前後に岩片化している上端深度に変更した ・表現の適正化(沿い、挟む、mm)	
399	133.39	133.85	φ2～3m/m暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑化(明オリーブ灰)する。 試間全体が緑泥石化している。	133.39	133.85	φ2～3mm暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑色化(明オリーブ灰色)する。 試間全体が緑泥石化している。						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)	
400	134.35	134.35	70～80°に暗緑灰色の厚さ1～2m/m緑泥石粘土とその上縁に厚さ15m/mのφ5～10m/m岩片をはさむ。	134.35	134.35	70～80°で暗1～2mmの暗緑灰色の緑泥石粘土とその上端に厚さ15mmのφ5～10mm岩片を挟む。						-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(挟む、mm) ・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した ・文章の適正化	
401	134.33	139.66	CH 堅硬・塊状で未風化・未変質。 ゆ着訳れ目は少量分布するが周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。	134.33	136.33	CM 堅硬・塊状で未風化・未変質。 ゆ着訳れ目は少量分布するが周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・下記の変更に伴い、岩級を変更した	
402	134.33	136.33	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	134.33	136.33	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・下位と比べて訳れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した	
403	134.56	134.70	134.56～134.70mは緑泥石化により淡緑色化(オリーブ灰)する。	134.56	134.70	134.56～134.70mは緑泥石化により淡緑色化(オリーブ灰色)する。						-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脈記の修正(「色」の記載漏れ)
404	134.85	－	134.85m以深では色々にφ10m/m前後で橙色の長石が晶出する。	134.85	－	134.85m以深では所々にφ10mm前後で橙色のカリ長石が晶出する。						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(所々、mm) ・鉱物名を具体的に記載した
405	135.76	135.76	80°訳れ目は波状もち交差する訳れ目の一部をけづっている(φと評価される)。	135.76	135.76	80°訳れ目は波状もち交差する訳れ目の一部をとめている。けづっている(φと評価される)。80°の訳れ目に細粒部は認められず、訳れ目面近の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な訳れ目も存在しない。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・80°訳れ目に該当はみられず、訳れ目を類似する長石が見られたため「訳れ」を削除し、「けづっている(φと評価される)」を「止めている」に変更した ・訳れ目及び周辺の状況について追記した	
406	136.39	136.56	136.09m～60°、136.33m～65°、136.56m～60°で約2者は厚さ1～2m/mの緑泥石脈、後者は石英脈が密集して分布。粘土化や砂状化は伴なわない。	136.09	136.56	136.09m～60°、136.33m～65°、136.56m～60°で約2者は厚さ1～2mmの緑泥石ヶ脈、後者は石英脈が密集して分布。粘土化や砂状化は伴わない。						-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm、伴う) ・脈ではなく粘土が付着しているため変更した	
407	137.52	137.62	晶洞中に石英、橙色の長石、緑泥石などが晶出している。	137.52	137.62	ペグマタイトで、晶洞中に石英、橙色のカリ長石、緑泥石などが晶出している。						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・ペグマタイトであるため追記した ・鉱物名を具体的に記載した
408	138.35	138.50	ゆ着訳れ目ぜいに開口訳れ目化している。	138.35	138.50	ゆ着訳れ目沿いに開口訳れ目化している。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い)
409	139.92	139.21	緑泥石化で緑灰色化する。	－	－	－						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
410	139.37	139.37	70°厚さ2～3m/m間に緑泥石と石英が共生して分布。φ0.1m/mと微細な黄鉄鉱も点在する。	139.37	139.37	70°厚さ2～3mm間に緑泥石と石英が共生して分布。φ0.1mmと微細な黄鉄鉱も点在する。						-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm)	
411	139.66	139.96	CM 訳れ目がやゝ多くなる。 挟在物は分布しない。	139.66	139.96	CM 訳れ目がやや多くなる。 挟在物は分布しない。						-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(やや)
412	139.66	139.96	(岩級区分欄)CM	139.66	139.96	(岩級区分欄)CH						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
413	139.96	140.39	CH	－	－	－						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
414	139.96	140.00	(コアの形状欄)Ⅲランク	139.96	140.00	(コアの形状欄)Ⅳランク						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・下位と比べて訳れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した
415	140.13	140.13	65°訳れ目ぜいの一部が細片化するが、軟化など劣化はない。	140.13	140.13	65°訳れ目沿いの一部が細片化するが、軟質化など劣化はない。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、軟質化)
416	140.39	140.61	CM 70°訳れ目ぜいに一部片状化する。砂や粘土ははさまない。	140.39	140.61	CM 70°訳れ目沿いに一部片状化する。砂や粘土は挟まない。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、挟む)
417	140.39	140.61	(岩級区分欄)CM	140.39	140.61	(岩級区分欄)CH						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-3）

孔名 H27-B-3

○ 記載有り　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															
			記事			記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「/」で表示）											破砕帯										
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び粒径、含有物（有機質、異物など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海法度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鉱道作業における特記事項 ・コア欠如、コア接続など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、現品の種類・種、現品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のテペリ（リスリケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、漸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	被覆岩 ・岩種	破砕帯区分 ・記号（Hc,Hs,Hi） ・区分毎の区間深度	破砕帯区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・現岩組織が認められる岩片を主体とし高質な細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・結状構造、複合面構造、葉幕構造、明目状粘土など	長新活動面（認定した場合）	空隙の状況	鉱道作業における特記事項 ・コア欠如、コア接続など	記事を削除・変更・追記した理由
418	140.61	141.97	CH 堅硬・塊状 一部でゆ着割れ目が多いが密着度が高く間隔と同化し、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
419	141.40	142.00	0.20m/m前後のまだら模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。	141.40	142.00	0.20mm前後のまだら模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm)
420	141.70	141.70	141.70m付近で色調が少し変化する。	141.70	141.70	141.70m付近で色調が少し変化する。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・明確に色調が変わるため変更した
421	141.97	147.08	CM やゝ割れ目は多いが岩片は堅硬。 白色の筋状を呈するゆ着割れ目が多いが、多くが密着度が高い。 一部では開口割れ目化している。	141.97	147.08	CM やや割れ目は多いが岩片は堅硬。 白色の筋状を呈するゆ着割れ目が多いが、多くが密着度が高い。 一部では開口割れ目化している。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（やや）
422	142.32	142.43	割れ目が交差し0.20～50m/m程度に岩片化しているが砂や粘土ははさまない。	142.32	142.43	50°程度の割れ目が交差し0.20～50mm程度に岩片化しているが砂や粘土は挟まない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・交差する割れ目の傾斜を追記した ・表現の適正化（挟む：mm）
423	142.70	142.76	緑泥石化で淡緑灰色を呈する。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
424	143.48	144.50	0.3～5m/mの橙色のカリ長石斑晶が上下位よりも多く晶出。カリ長石の一部はゆ着割れ目そいに50～60°の配列性を示す部分もあるゆ着割れ目部成時に流動を伴って再配列した可能性がある。	143.48	144.50	0.3～5mmの橙色のカリ長石斑晶が上下位よりも多く晶出。カリ長石の一部はゆ着割れ目沿いに50～60°の配列性を示す部分もあるゆ着割れ目部成時に流動を伴って再配列した可能性がある。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い：mm） ・カリ長石の配列は見られないため削除した
425	143.80	144.00	割れ目間隔50～70m/m で45°ゆ着割れ目そいに分離し開口割れ目化している。	143.80	144.00	割れ目間隔50～70mmで45°ゆ着割れ目沿いに分離し開口割れ目化している。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い：mm）
426	144.61	144.68	40～55°のゆ着割れ目が密集する。 多くが開口化し悪い。	144.08	145.44	40～60°のゆ着割れ目が密集する。 多くが開口化し悪い。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・中角度のゆ着割れ目が多く分布する区間を変更し、その区間にある主体の傾斜の範囲を変更した
427	145.37	145.37	50°割れ目そいに厚さ15m/mが0.2～10m/mに細片化するが岩片は硬質。 砂や粘土ははさまない。	145.37	145.37	50°割れ目沿いに厚さ15mmが0.2～10mmに細片化するが岩片は硬質。 砂や粘土は挟まない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い：挟む：mm）
428	-	-	-	145.45	145.90	145.45m付近、145.90m付近は、60～80°の割れ目が発達している。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	局所的な割れ目の発達は周囲と異なる状況であるため追記した
429	145.88	145.88	70°ゆ着割れ目そいに厚さ約10m/mで緑泥石化し緑灰色を呈する。	145.88	145.88	70°ゆ着割れ目沿いに厚さ約10mmで緑泥石化し緑灰色を呈する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い：mm）
430	146.56	147.08	60～70°のゆ着割れ目そいに分離し開口割れ目化している。各割れ目面はほゞ未風化・新鮮で挟在物は分析しない。	146.56	147.08	60～70°のゆ着割れ目沿いに分離し開口割れ目化している。各割れ目面はほぼ未風化・新鮮で挟在物は分析しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い：ほぼ）
431	147.08	150.59	CH 堅硬・塊状 開口割れ目は拉んだがゆ着割れ目が開口したもの。 残留しているゆ着割れ目は周囲と同化し密着度が高くハンマーの強打でも分離しない。 各割れ目面にはほゞ挟在物は分析せず、未風化で新鮮。	147.08	150.59	CH 堅硬・塊状 開口割れ目は拉んだがゆ着割れ目が開口したもの。 残留しているゆ着割れ目は周囲と同化し密着度が高くハンマーの強打でも分離しない。 各割れ目面にはほぼ挟在物は分析せず、未風化で新鮮。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（ほぼ）
432	148.78	148.78	65°割れ目面に厚さ1m/m緑泥石が固結粘土フィルム状に付着する。	148.78	148.78	65°割れ目面に厚さ1mm緑泥石の硬質な粘土がフィルム状に付着する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm) ・表現の統一（固結⇒硬質） ・文章の適正化
433	149.20	149.36	やゝ割れ目が多いが劣化は伴なわない。	149.20	149.36	やや割れ目が多いが劣化は伴わない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（やや、伴う）
434	150.04	150.59	50～80°・厚0.5m/m以下主体の緑泥石細脈が多く分布。 大半は周囲と同化し開口割れ目化していない。	150.04	150.59	50～80°・幅0.5mm以下主体の緑泥石細脈が多く分布。 大半は周囲と同化し開口割れ目化していない。									-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（厚⇒幅：mm）
435	150.41	150.41	緑泥石脈中に厚さ10m/mの石英をレンズ状に伴っている。	150.41	150.41	石英脈中に厚さ10mmの白色岩片を硬状に伴っている。									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm) ・幅広の石英脈であるため変更した
436	150.59	151.57	CM 20～40°と70～80°割れ目が交差しやゝ割れ目が多くなっている。	150.59	151.57	CM 20～40°と70～80°割れ目が交差しやや割れ目が多くなっている。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（やや）
437	151.21	151.21	85°割れ目の一部で厚さ2m/mの0.2m/m細片化部はさむ。	151.21	151.21	85°割れ目の一部で厚さ2mmの0.2mm細片化部挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（挟む：mm）
438	151.50	151.52	石英と橙褐色鉱物が共生して分布。	151.50	151.52	石英脈に径0.5mmの橙赤褐色鉱物を伴う。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈中に橙赤褐色鉱物が分布するため文章を変更した
439	151.57	152.23	CH 堅硬・塊状 割れ目やゆ着割れ目は幅0.5m/m程度に緑泥石化するが、ゆ着割れ目の大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離・細片化しない。 一部は開口化している。粘土や砂ははさまない。	151.57	152.23	CH 堅硬・塊状 割れ目やゆ着割れ目は幅0.5mm程度に緑泥石化するが、ゆ着割れ目の大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離・細片化しない。 一部は開口化している。粘土や砂は挟まない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（挟む：mm）
440	151.47	151.52	緑泥石化と硅化が進み硬化している。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
441	152.23	153.85	B 堅硬、塊状で割れ目はわずか。割れ目挟在物は分析しない。 割れ目やゆ着割れ目の一部は割れ目そいに緑泥石化するが硬質。	152.23	153.85	CH 堅硬、塊状で割れ目はわずか。割れ目挟在物は分析しない。 割れ目やゆ着割れ目の一部は割れ目沿いに緑泥石化するが硬質。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・指記の修正（岩級区分要素の組合わせからCH級となる） ・表現の適正化（沿い）
442	152.23	153.85	（岩級区分欄）B	152.23	153.85	（岩級区分欄）CH									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・指記の修正（岩級区分要素の組合わせからCH級となる）
443	152.50	152.67	上下域を厚さ0～20m/mの石英脈に囲まれたブロトカクレーサイトであるが 角礫と基質は同化し硬化している。	152.50	152.67	上下域を厚さ0～20mmの石英脈に囲まれた粘質に岩片が多数含まれる。岩片に移動や回転は見られない。しかしながらブロトカクレーサイトの可能性が。岩片と基質は同化し硬質化している。岩片の輪郭が不鮮明で曲がい状になっており、岩片や石英脈に系統的な配列は見られない。岩片と周辺の岩盤、石英脈は完全に中着している。									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・岩片及び岩片層辺の状況について追記した ・追記した理由から破砕部ではないと判断して「ブロトカクレーサイト」を削除した。 ・表現の適正化（mm、硬質化）
444	153.20	153.20	153.20m付近に0.10m/mと大型・橙色のカリ長石斑晶が点在。	153.20	153.20	153.20m付近に0.10mmと大型・橙色のカリ長石斑晶が点在。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm)
445	153.25	153.60	60～80°と高角な白色筋状のゆ着割れ目が散本分布するが密着度高く開口化しない。	153.25	153.60	40～80°の高角度な白色筋状のゆ着割れ目が散本分布するが密着度高く開口化しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（高角⇒高角度）
446	153.85	154.60	CH 堅硬、塊状	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
447	154.42	154.60	緑泥石化が進むが硬質。 上端では割れ目が交差し片状化するが極細な黄鉄鉱を伴う以外は粘土、砂などはさまない。	154.42	154.60	緑泥石化が進むが硬質。 上端では20～70°の割れ目が交差し片状化するが極細な黄鉄鉱を伴う以外は粘土、砂などは挟まない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目の傾斜を追記した ・表現の適正化（挟む）